

令和 4 年度  
宮古島市観光マネジメント業務  
報告書

2023年3月

株式会社 JTB 総合研究所



## 目次

業務概要	1
1 宮古島市観光推進協議会の開催	2
1-1 規約及び名簿	2
(1) 規約	2
(2) 協議会名簿（令和5年3月現在）	4
1-2 宮古島市観光推進協議会	8
(1) 第1回協議会	8
(2) 第2回協議会	9
(3) 第3回協議会	10
1-3 作業部会	11
(1) 第1回作業部会	11
(2) 第2回作業部会	14
2 観光推進協議会及び実務担当者会議の検討資料	17
2-1 伊良部牧山公園活用の検討	17
2-2 法定外目的税（宿泊税）の導入補助	27
2-3 受入キャパシティの評価査定	37
2-4 候補 <b>DMO</b> との連携強化について	43
2-5 観光地整備計画の進捗確認	44
2-6 伊良部牧山公園意見交換会	49
2-7 伊良部牧山公園に関する観光客ニーズ調査	52
2-8 その他の追加提案資料	65
(1) 宮古島における道の駅構想提案書	65
3 総括	69
4 資料（議事録）	70

<b>4－1．宮古島市観光推進協議会</b>	<b>70</b>
(1) 第1回協議会	70
(2) 第2回協議会	75
(3) 第3回協議会	83
<b>4－2．実務担当者会議</b>	<b>86</b>
(1) 第1回実務担当者会議	86
(2) 第2回実務担当者会議	106

## 業務概要

### (1)業務目的

宮古島市は、2019年3月に第2次宮古島市観光振興基本計画（以下「観光振興計画」という）を策定し、策定後10年間の本市における観光振興のあり方について指針を示した。観光振興計画で示された各施策を着実に遂行していくためには、宮古島市だけでなく、国、沖縄県、観光関連事業者、農業・漁業の一次産業を含む他産業に携わる方々、宮古島市民が一丸となって取組みを進めて行く必要がある。

本業務は、官民の観光に携わる者が観光課題等について話し合う場を設け、観光振興計画の各施策の推進に向けた検討を進める事を目的とする。

### (2)業務の内容

- 業務1：伊良部牧山公園活用の検討
- 業務2：法定外目的税（宿泊税）の導入補助
- 業務3：受入キャパシティの評価査定
- 業務4：候補DMOとの連携強化について
- 業務5：観光振興計画（2019年3月策定）の進捗確認
- 業務6：その他、宮古島市の観光推進に係る業務
- 業務7：「宮古島市観光推進協議会」の開催（3回）
- 業務8：「宮古島市観光実務担当者会議」の開催（3作業部会×2回）
- 業務9：観光推進協議会及び実務担当者会議における検討資料の作成
- 業務10：報告書作成
- 業務11：その他の追加提案

### (3)業務実施結果

- 業務1：当初の予定通り
- 業務2：当初の予定通り
- 業務3：ホテルが急増する一方で人手不足問題が深刻化したため、交通事業者へのヒアリングを追加した。
- 業務4：当初の予定通り
- 業務5：当初の予定通り
- 業務6：人手不足問題に関して、宮古島市商工会議所へのヒアリングを実施した
- 業務7：当初の予定通り
- 業務8：第2回地域経済作業部会を書面開催とした
- 業務9：当初の予定通り
- 業務10：当初の予定通り
- 業務11：リゾートの専門家を招聘し、牧山公園活用のアドバイスを受けた

#### (4) 業務実施内容の変更による当初予算と実績の差異

①人件費（当初予算 3,465,000 円 実質 3,532,968 円 67,968 円）

主な理由：当初の予定になかった調査の実施

②旅 費（当初予算 840,000 円 実質 896,771 円 +56,771）

主な理由：関係者の新型コロナウイルス感染に伴う実務担当者会議の急遽延期によるキャンセル料の発生等

③印刷製本及び郵送費（当初予算 120,000 円 実質 46,590 円 -73,410 円）

主な理由：実務担当者会議の開催回数の減少

## 1 宮古島市観光推進協議会の開催

### 1-1. 規約及び名簿

#### (1) 規約

#### 宮古島市観光推進協議会規約

令和元年 7 月 31 日制定

令和 3 年 7 月 16 日改正

令和 4 年 7 月 12 日改正

(名称)

第 1 条 本協議会は、宮古島市観光推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、第 2 次宮古島市観光振興基本計画で定めた観光振興に関する施策を官民一体となって推進し、宮古島市の活性化を図ることを目的とする。

(検討事項)

第 3 条 本協議会は、前条の目的を達成するため、必要な事項を検討する。

(1) 第 2 次宮古島市観光振興基本計画の施策の推進に関すること。

(2) 宮古島市の観光地整備に関すること。

(3) 観光危機管理に関すること。

(4) 観光客の交通手段に関すること。

(5) 観光客向けサービスに関すること。

(6) 観光関連事業者の支援に関すること。

(7) その他

(組織)

第 4 条 本協議会の構成は、別紙 1 のとおりとする。

(役員)

第5条 本協議会に、1名の会長、1名の副会長を置く。

- 2 会長は、本協議会を代表し、その業務を統括する。
- 3 副会長は、会長を補佐する。
- 4 会長は市長をもって充て、副会長は宮古島観光協会長とする。

(協議会の開催)

第6条 本協議会は会長が必要と認めたとき、又は会員から請求があったとき開催する。

(協議会の成立)

第7条 本協議会は協議会員の半数以上の出席で成立し、開会することができる。

- 2 本協議会の決議は、全出席会員の過半数の賛成をもって決議する。

(観光実務担当者会議)

第8条 観光実務担当者会議は、各会員の実務担当者、並びに会員の推薦を受け、協議会で承認を受けた者で構成する。(別紙2)

- 2 観光実務担当者会議に議長を置く。
- 3 議長は商工観光課長とする。

(観光実務担当者会議の検討事項)

第9条 観光実務担当者会議は次の事項を行う。

- (1) 実施項目案の策定。
- (2) その他事業実施に必要な事項。

(観光実務担当者会議の開催)

第10条 観光実務担当者会議は、構成員が必要と認める場合、又は協議会会長の要請がある場合に随時開催する。

(事務局)

第11条 本協議会の事務局は、宮古島市観光商工部観光商工課に設置する。

- 2 事務局は、本協議会および観光実務担当者会議に必要な事務を行う。

(報酬及び費用弁償等)

第12条 本協議会の会員に対し、報酬及び費用弁償等は支給しないものとする。

(補足)

第13条 この規約に定めるものの他、本協議会の運営に必要な事項は、協議会議決を経て会長が別に定める。

附 則 この規約は、本協議会が設立された日(令和元年7月31日)から施行する。

## (2) 協議会名簿（令和5年3月現在）

### 1) 宮古島市観光推進協議会

区分	機関名(行政13+民間5=18)	職名	氏名
行政機関	宮古島市	市長	座喜味 一幸
	宮古島市 観光商工スポーツ部	部長	上地 成人
	宮古島市 総務部	部長	與那覇 勝重
	宮古島市 企画政策部	部長	垣花 和彦
	宮古島市 市民生活部	部長	友利 毅彦
	宮古島市 建設部	部長	大嶺 弘明
	宮古島市 農林水産部	部長	砂川 朗
	宮古島市 上下水道部	部長	兼島 方昭
	宮古島市 産業振興局	局長	宮國 範夫
	沖縄県 宮古事務所	所長	長濱 為一
	沖縄県 宮古土木事務所	所長	上原 正也
	内閣府沖縄総合事務局 宮古運輸事務所	所長	友利 英樹
	内閣府沖縄総合事務局 平良港湾事務所	所長	照屋 雅彦
	民間団体	宮古島観光協会	会長
宮古島商工会議所		会頭	下地 義治
宮古島市伊良部商工会		会長	奥濱 剛
沖縄県農業協同組合宮古地区本部		本部長	下地 誠
伊良部漁業協同組合長		組合長	伊良波 宏紀



## 2) 観光推進戦略作業部会

区分	観光推進戦略作業部会(行政15+民間9=24)	職名	氏名
行政機関	宮古島市 観光商工スポーツ部 観光商工課	課長	川平 敏光
	宮古島市 観光商工スポーツ部 スポーツ振興課	次長兼課長	久貝 喜一
	宮古島市 総務部 防災危機管理課	課長	平良 勝彦
	宮古島市 企画政策部 企画調整課	課長	石川 博幸
	宮古島市 企画政策部 エコアイランド推進課	課長	下地 洋子
	宮古島市 企画政策部 情報政策課	課長	池間 幸生
	宮古島市 市民生活部 地域振興課	次長兼課長	儀間 博
	宮古島市 環境衛生局 環境保全課	課長	與那覇 弘樹
	宮古島市 市民生活部 健康増進課	課長	西里 安博
	宮古島市 総務部 税務課	課長	池城 孝治
	宮古島市 総務部 納税課	課長	友利 勝彦
	宮古島市 水道部 水道総務課	課長	饒平名 正浩
	宮古島市 教育委員会 生涯学習振興課	課長	梶原 健次
	宮古島市 教育委員会 学校教育課	課長	与那覇周作
民間団体	宮古島観光協会	専務理事	平山 茂治
	宮古島観光協会	副会長	仲田 達志
	宮古島商工会議所	課長	与那覇 隆
	宮古島観光協会 青年部	部長	立津 烈
	宮古島商工会議所 青年部	会長	奥平 芳浩
	伊良部商工会 青年部	部長	豊見山 貴仁
	宮古青年会議所	理事長	仲宗根 清二
	株式会社バック	宮古支社長	與那覇 俊和
	株式会社ブラネット・フォー	代表	中村 良三

\* 目的:観光振興基本計画の観光客数 200 万人達成のための取組みについて議論する。

- ①環境を保全し、持続的な観光を推進する方法について
- ②観光メニューの多様化・開発による滞在日数の増加について
- ③キャッシュレスの推進など、消費単価アップについて
- ④情報発信・通信環境の拡充について
- ⑤観光客の安全と地域を守る観光危機管理について

### 3) 地域経済振興作業部会

区分	地域経済振興作業部会(行政6+民間10=16)	職名	氏名
行政機関	宮古島市 観光商工スポーツ部 観光商工課	課長	川平 敏光
	宮古島市 農林水産部 農政課	課長	川満 紀智
	宮古島市 農林水産部 畜産課	課長	川満 秀盛
	宮古島市 農林水産部 水産課	課長	仲間 松雄
	宮古島市 農林水産部 みどり推進課	次長兼課長	根間正三郎
	宮古島市 産業振興局	次長	上地 等
民間団体	宮古島観光協会	副会長	砂川 靖夫
	宮古島商工会議所	課長	下里 善盛
	JAおきなわ あたらす市場	店長	狩俣 直子
	JAおきなわ 宮古地区本部	畜産部	
	宮古島漁業協同組合	組合長	栗山 弘嗣
	沖縄製糖株式会社 農務課		高橋 和義
	宮古製糖株式会社 農務部	部長	洩鎌 英樹
	宮古島東急ホテル&リゾート	支配人	金子 聡
	株式会社パラダイスプラン	社長	西里 長治
	宮古島調理師会	会長	砂川 英輝

\* 目的:観光と農業・水産業の連携、特産品の開発など、地域経済の振興について議論する。

- ①特産品の開発について
- ②6次産業化について
- ③産業見学、体験型観光について
- ④農水産資源と連携した情報発信について

#### 4) 受入環境整備作業部会

区分	受入環境整備作業部会(行政8+民間9=17)	職名	氏名
行政機関	宮古島市 観光商工スポーツ部 観光商工課	課長	川平 敏光
	宮古島市 総務部 財政課	課長	国仲 英樹
	宮古島市 企画政策部 企画調整課	課長	石川 博幸
	宮古島市 建設部 都市計画課	課長	親泊 正人
	宮古島市 建設部 道路建設課	課長	新里 光聖
	宮古島市 建設部 建築課	課長	伊計 盛之
	宮古島市 建設部 空港課	課長	島尻 勝彦
	宮古島市 建設部 港湾課	課長	砂川 尚也
民間団体	宮古島観光協会	副会長	根間 靖
	宮古タクシー事業協同組合	会長	下地 隆之
	宮古協栄バス	社長	豊見山 忠朗
	八千代バス・タクシー	社長	砂川 能樹
	オリックスレンタカー	社長	石原 雄
	JTA 宮古支社	支社長	小堀 健一
	ANA 宮古支店	支店長	田之上 圭克
	下地島エアポートマネジメント株式会社	社長	伴野賢太郎
	南西楽園リゾート	取締役	東郷 治人

\* 目的:観光客 200 万人受入のため、主にハード面の整備について議論する。

- ①空港、港湾など宮古島の玄関口の整備・美観保持について
- ②二次交通対策について
- ③案内標識、マップ、スマートフォンアプリなど、インバウンド対応について
- ④クルーズ船への理解促進と受入態勢の強化について

## 1-2. 宮古島市観光推進協議会

### (1) 第1回協議会

## 令和4年度 第1回宮古島市観光推進協議会

日 時 : 令和4年7月12日(火) 10時30分～

場 所 : 宮古島市役所 2階庁議室

### ～ 会次第 ～

#### ○開会 (5分)

時間配分	内 容
3分	・ 開会
2分	・ 会長あいさつ

#### ○議事 (85分)

時間配分	議 事	資 料	担 当
<b>1) 規約の改正について (2分)</b>			
2分	・ 規約の改正について	資料1	事務局
<b>2) 昨年度までのおさらい (5分)</b>			
5分	・ 昨年度までのおさらい	資料2	事務局
<b>3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗 (15分)</b>			
8分	・ 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗	資料3	事務局
7分	・ 質疑応答		
<b>4) 令和4年度の取り組みについて (60分)</b>			
<b>①観光推進戦略作業部会</b>			
7分	・ 宿泊税導入検討について	資料4-1-1	事務局
5分	・ 受入キャパシティに関する評価・査定	資料4-1-2	事務局
5分	・ DMOについて	資料4-1-3	事務局
8分	・ 質疑応答		
<b>②地域経済振興作業部会</b>			
7分	・ MIM分科会について	資料4-2	事務局
8分	・ 質疑応答		
<b>③受入環境整備作業部会</b>			
10分	・ 伊良部牧山公園活用構想の作成	資料4-3	事務局
10分	・ 質疑応答		
<b>閉会</b>			
	・ 閉会挨拶		副会長

(2) 第2回協議会

令和4年度 第2回宮古島市観光推進協議会

日時：令和4年12月27日(火)14時00分～

場所：宮古島市役所 2階大ホール

～ 会次第 ～

○開会 (5分)

時間配分	内 容
3分	・ 開会
2分	・ 会長あいさつ

○議事 (85分)

時間配分	議 事	資 料	担 当
1) 前回の協議会のおさらい (5分)			
5分	・ 第1回協議会について	資料1	事務局
2) 令和4年度の取り組みについて (60分)			
20分	・ 宿泊税導入検討について ※部会の意見まとめ ※他地域の例(税の使途、効果、周知方法)	資料2-1	事務局
15分	・ 受入キャパシティに関する評価・査定 ※部会の意見まとめ ※ホテルの宿泊キャパ基準による目標設定(参考資料として)	資料2-2	事務局
20分	・ 伊良部牧山公園活用の検討について ※部会での意見まとめ ※サウンディングの概要	資料2-3	事務局
10分	・ 地域経済循環システムの構築について	資料2-4	事務局
10分	・ 質疑応答		
閉会			
5分	・ 閉会		

### (3) 第3回協議会

## 令和4年度 第3回宮古島市観光推進協議会

日 時 : 令和5年2月16日(木) 14時00分～

場 所 : 宮古島市役所3階全員協議会室

～ 会次第 ～

#### ○開会 (5分)

時間配分	内 容
3分	・ 開会
2分	・ 会長あいさつ

#### ○議事 (85分)

時間配分	議 事	資 料	担 当
1) 前回の協議会のおさらい (5分)			
5分	・ 第2回協議会について	資料	事務局
2) 令和4年度の取り組みについて (60分)			
20分	・ 宿泊税導入検討について	資料	事務局
15分	・ 受入キャパシティに関する評価・査定	資料	事務局
10分	・ 伊良部牧山公園活用の検討について	資料	事務局
10分	・ 今年度見えた観光課題		

## 1-3. 作業部会

### (1) 第1回作業部会

#### 1) 観光推進戦略作業部会

#### 第1回 観光実務担当者会議（観光推進戦略部会）

#### 議事次第

日時：令和4年10月4日（火）13:30～15:00

場所：宮古島市役所 2階 大ホール

#### 1. 開会

#### 2. 議事

1) 規約（組織）の改正について（5分）

2) 昨年度までのおさらい（5分）

【資料1】昨年度までのおさらい

3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について（15分）

【資料2】第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗

4) 宿泊税について（30分）

【資料3】宿泊税導入資料

5) 受入キャパシティについて（30分）

【資料4】受入キャパシティについて

6) その他

#### 3. 閉会

## 2)受入環境整備作業部会

### 第1回 観光実務担当者会議（受入環境整備作業部会）

#### 議事次第

日時：令和4年10月4日（火）15:30～17:00

場所：宮古島市役所 2階 大ホール

1. 開会
2. 議事
  - 1) 規約（組織）の改正について（5分）
  - 2) 昨年度までのおさらい（5分）
    - 【資料1】昨年度までのおさらい
  - 3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について（15分）
    - 【資料2】第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗
  - 4) 牧山公園整備について（30分）
    - 【資料3-1】伊良部牧山公園活用の検討
    - 【資料3-2】伊良部牧山公園活用構想策定に向けて
  - 5) 繁忙期の二次交通について（15分）
    - 【資料4】レンタカー・タクシー・バス事業者ヒアリング調査結果
  - 6) その他
3. 閉会



### 3)地域経済振興作業部会

#### 第1回 観光実務担当者会議（地域経済振興作業部会）

##### 議事次第

日時：令和4年10月5日（水）10:00～11:30

場所：宮古島市役所 2階 大ホール

#### 1. 開会

#### 2. 議事

1) 規約（組織）の改正について（5分）

2) 昨年度までのおさらい（5分）

【資料1】昨年度までのおさらい

3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について（15分）

【資料2】観光振興基本計画進捗状況表

4) 宮古島市地産地消ブランド制度について（30分）

【資料3】宮古島市地産地消ブランド制度検討等委託業務

5) 地域内経済循環システムの構築について（30分）

【資料4】地域内経済循環システムの構築について

6) その他

#### 3. 閉会

## (2) 第2回作業部会

### 1) 観光推進戦略作業部会

#### 第2回 観光実務担当者会議（観光推進戦略部会）

##### 議事次第

日時：令和5年2月3日（金）13:30～15:00

場所：宮古島市役所 2階 大ホール

1. 開会
  
2. 議事
  - 1) 宮古島市観光の状況について（15分）
  
  - 2) 宿泊税の導入について（15分）
  
  - 3) DMOの中間報告について（15分）
  
  - 4) その他
  
3. 閉会

## 2)受入環境整備作業部会

### 第2回 観光実務担当者会議（受入環境整備作業部会）

#### 議事次第

日時：令和5年2月3日（金）15:30～17:00

場所：宮古島市役所 2階 大ホール

1. 開会
  
2. 議事
  - 1) 宮古島市観光の状況について（15分）
  
  - 2) 伊良部牧山公園の活用について（15分）
  
  - 3) 市内交通インフラ～人手不足の状況について（10分）
  
  - 4) DMOの中間報告について（15分）
  
  - 5) その他
  
3. 閉会

### 3)地域経済振興作業部会

第2回地域経済振興作業部会は書面開催とした。

## 2 観光推進協議会及び実務担当者会議の検討資料

### 2-1. 伊良部牧山公園活用の検討

#### (1) 第1回実務担当者会議資料



資料3-1

## 伊良部牧山公園活用の検討

### ア) 観光客ニーズ調査

### イ) 住民意向調査

2022年10月

宮古島市観光推進協議会 事務局

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製



### 1. 伊良部牧山公園活用に向けた今年度の取組

2021年度の検討課題	今年度の実施内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の意見を踏まえた調整が必要</li> <li>・観光資源としてのさらなる活用が必要</li> <li>・回遊と消費の促進に繋がる公園活用が必要</li> <li>・民間事業者による管理運営可能性も検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①住民意向調査</li> <li>②観光客ニーズ調査</li> <li style="text-align: center;">↓</li> <li>③牧山公園構想案の作成</li> </ul>
<p><b>① 住民意向調査 (実施済み)</b></p> <p>目的：近隣住民の利用状況の現状や活用、整備に対する希望・不安・課題などを把握する            実施日：2022年6月22日            出席者：伊良部島住民8名</p>	<p><b>② 観光客ニーズ調査</b></p> <p>実施方法：対面調査            調査対象：宮古島市訪問中に牧山公園を訪れた観光客（サンプル数：100）            実施場所：宮古空港・下地島空港・牧山公園の3地点            実施時期：2022年8月20日（土）・21日（日）に実施予定            設問内容：牧山公園（展望台）の認知度、訪問経験、訪問目的、満足度（とその理由）、不満（とその理由）利用者属性、参加形態、滞在時間、交通手段、前後の立ち寄りスポット、伊良部島内での消費額、宮古島市内（伊良部島）でしたこと、牧山公園でしたこと、牧山公園にこれから望むことなど</p>
<p><b>③ 活用構想の作成</b></p> <p>調査結果をもとに観光客の動線やニーズ、住民の意向を整理し、牧山公園活用の方向性や留意点を導出し、観光推進協議会及び実務担当者会議で議論し、活用構想としてまとめる。</p> <p>検討事項：牧山公園のコンセプト            整備エリア            公園に付帯させる機能            整備・運営の方向性            自然環境維持について            実施時期：2022年9月</p>	

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

## 2. 住民意向調査実施結果

### 【実施概要】

実施日：6月22日（水） 16:15～17:45  
 実施場所：伊良部公民館  
 出席者：伊良部島住民8名  
 宮古島市役所観光商工課  
 株式会社JTB総合研究所

### 次第：

1. 牧山公園（展望台）の利用頻度、利用目的
2. 牧山公園現状、満足な点、不満な点
3. 牧山公園にこれから期待すること・要望・どんなことをしたいか
4. 牧山公園を改修・整備する場合の留意点
5. その他

### 意向調査のまとめ

- ・牧山公園の整備に対しては概ね賛同の意向が示された。
- ・展望台、駐車場、トイレ、遊歩道などハード面の整備が必要との意見が多い。
- ・下牧エリアにも駐車場を設け、下牧エリアから展望台への導線が必要である。
- ・下牧エリアの一部には手をつけてはいけぬエリアもあり、整備に当たっては配慮が必要である。
- ・蛍や星空など、夜間のニーズも検討する必要がある。
- ・地元経済に貢献する仕組みづくりが重要である。
- ・整備の進行状況について、定期的に住民への情報提供を行う必要がある。

## 2. 住民意向調査実施結果

### 住民からの意見

#### 1. 牧山公園（展望台）の利用頻度、利用目的、満足な点、不満な点

プラス意見	マイナス意見
※遠足や学校行事等での利用、休日のレクリエーション利用など ・内地から友人が来た際に行く。ライオンが可愛く、めまろがきれい。 虫を見たい時にも行く。 ・下牧の整備すれば牧場にも十分に散策出来る。 ・下牧を利用するなら駐車場が必要だ。 ・車やバスが展望台近くまで入れるようにしてもらいたい。 ・展望台までの道筋を作り、必要な場合にだけ入れるようにする。	・観光客がターゲットの整備であれば良い。地元の人は行かない。 ・展望台まで距離があると高齢者はあきらめてしまう。 ・今では遠足でも使っていない。ビーチができてからは、佐良浜に行くようになった。

#### 3. 牧山公園にこれから期待すること・要望・どんなことをしたいか

期待	要望
・この景色は宮古島でここしかない。 ・整備されれば宮古島市でも1、2を争うランドマークになる。 ・フォトウェディングにも使える。 ・展望台は内地のテレビ局関係者も喜んでた。 ・かつて子どもの遊び場で、下まで行くコースがあった。 ・下牧が整備されれば子どもと一緒に歩いてみたい。 ・下牧にかつて植えられていた菊の花を、もう一度植えてほしい。 ・遊具が老朽化し魅力がない。 ・牧山公園を再整備する事業が動き出したことに期待している。 ・展望台は老朽化しているため、建て替えるのが良い。 ・駐車場とトイレの整備は必須だ。	・展望台は新しく作り直した方が良い。 ・展望台の高さは、現状のままで良い。 ・自然と共存した建物を作ってほしい。 ・条例に沿った街づくりを行い、車いすでも登れるようにしてほしい。 ・今の時代に即して、バリアフリーも考慮し作り直してはどうか。 ・遊歩道や木の間隔を広げ、公園をよく見えるようにしてはどうか。 ・下までの導線を考えながら整備してもらいたい。 ・展望台横の陣地を再整備してもらいたい。 ・親子がふれあえる場所、学べる場所にしてほしい。 ・水道を整備するべきだ。 ・展望台までの遊歩道を短くしてはどうか。 ・現在あるトイレを撤去して、バスが停められるようにする。 ・管理棟をトイレにする。今あるものを利用するべきだ。 ・レストランにトイレやシャワーを設置してはどうか。

## 2. 住民意向調査実施結果

### 4. 牧山公園を改修・整備する場合の留意点、その他

留意点・懸念点	提案他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・下牧には佐良山の神様が祭られている。気を付けるべきだ。</li> <li>・下牧は怪しい話も多く、地元の人には行かないのではないか。</li> <li>・下牧も遊歩道で通れるようにしてもらいたい。</li> <li>・展望台から駐車場にかけて桜があるため、活用してもらいたい。</li> <li>・今回のように地元と話し合いながら進めてもらえるといい。</li> <li>・自然が壊され、地元経済に繋がらない状況は避けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税、クラウドファンディング等を活用してはどうか。</li> <li>・地元主体で事業を行い、地元で還元してほしい。</li> <li>・展望台近くの中屋には神様が祭った記念碑がある。下牧でもそういうものを残しておくべきだ。</li> <li>・地元の食材を使った料理を提供してもらいたい。</li> <li>・地元とコミュニティ関係のため、地元は管理を委託してほしいが、伊良部商工会に、完成後の売店等を担当してもらってはどうか。</li> <li>・展望台の入場料を取って、環境整備費にまわってはどうか。</li> <li>・補助金を利用しWi-Fiなどのインフラを整備してほしい。</li> </ul>

## 3. 観光客ニーズ調査結果

### (1) 来訪者アンケート調査

#### ① 調査概要

調査目的：牧山公園整備にあたり、宮古島市及び牧山公園を訪れる観光客のニーズを把握し、整備計画に反映する

調査対象：牧山展望台訪問経験者（宮古島市在住者を除く）

調査地点：

- ① 宮古空港出発ロビー
- ② 下地島空港出発ロビー

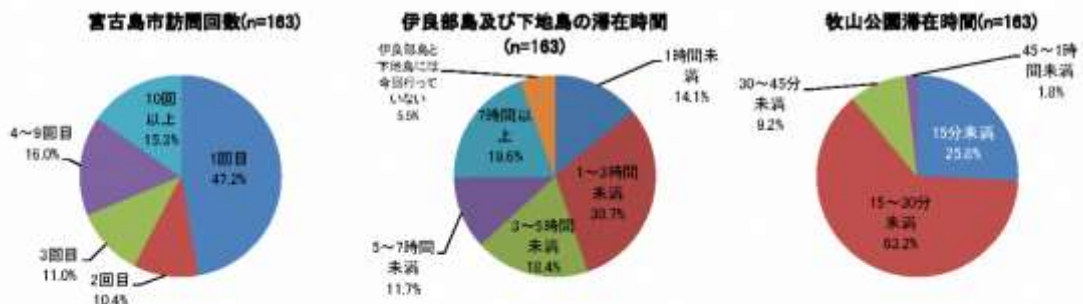
調査実施期間：2022年8月20日・21日（2日間）

回収サンプル数：163サンプル（牧山公園訪問経験者のみ）

### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②来訪者アンケート調査結果（抜粋）

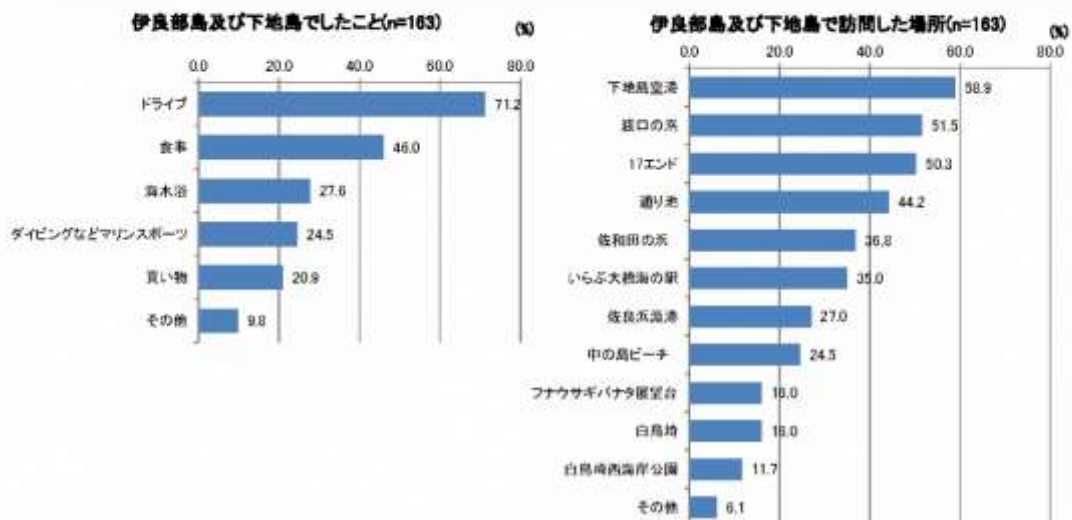
- ・回答者の約半数(47.2%)は初めて宮古島を訪れた観光客であった。
- ・伊良部島及び下地島の滞在時間は、1～3時間未満の割合が最も多い。(30.7%)
- ・牧山公園の滞在時間は、回答者の半数以上が15～30分未満(63.2%)であった。



### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②来訪者アンケート調査結果（抜粋）

- ・伊良部島及び下地島でしたことについて、「ドライブ(71.2%)」が最も回答者が多く、次いで「食事(46.0%)」、「海水浴(27.6%)」の順で回答が多かった。
- ・伊良部島及び下地島で訪問した場所について、「下地島空港(58.9%)」、「渡口の浜(51.5%)」、「17エンド(50.3%)」の順で回答者が多かった。

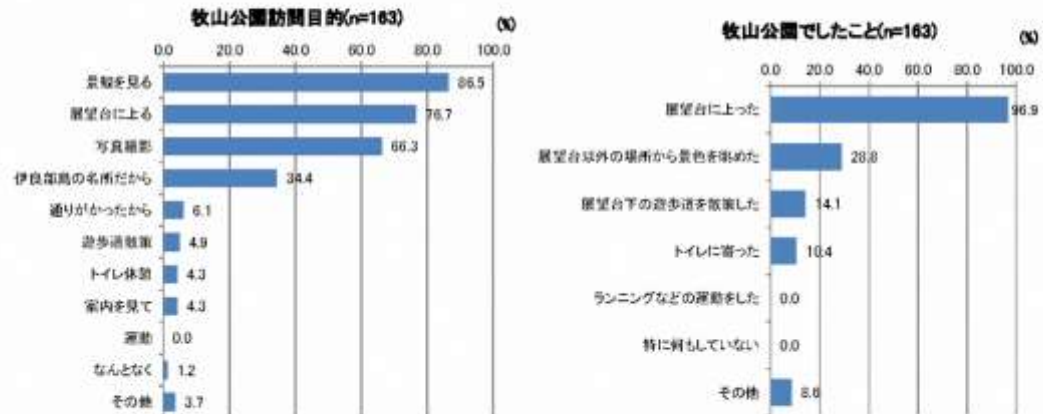




### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②来訪者アンケート調査結果（抜粋）

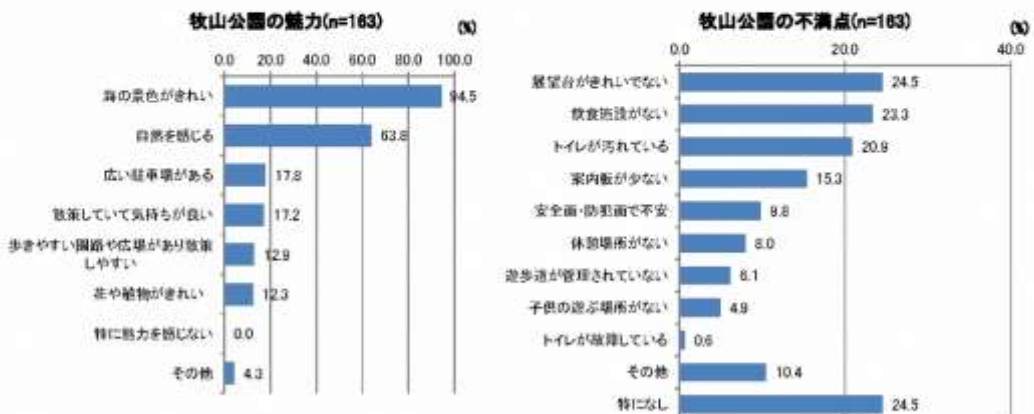
- ・牧山公園の訪問目的は「景観を見る(86.5%)」「展望台に上る(76.7%)」「写真撮影(66.3%)」の順で回答が多かった。
- ・牧山公園でしたことは、「展望台に上った(96.9%)」と答えた観光客が最も多かった。



### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②来訪者アンケート調査結果（抜粋）

- ・牧山公園の魅力として、「海の景色がきれい(94.5%)」「自然を感じる(63.8%)」と答える観光客が多かった。
- ・牧山公園への不満点として、「展望台がきれいでない(24.5%)」「飲食施設がない(23.3%)」「トイレが汚れている(20.9%)」の回答が比較的多かった。



### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②来訪者アンケート調査結果（抜粋）

・牧山公園で長時間楽しむ為にあったら良いと思うものについて、「きれいなトイレ(49.7%)」、「飲食施設(48.5%)」、「展望テラス(40.5%)」の順で回答が多かった。



### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### 【アンケート調査のまとめ】

- ・伊良部島及び下地島でしたことでは、「ドライブ」「食事」が多く、「買い物」は少ない。
- ・牧山公園での滞在時間は15分～30分未満と少ない。
- ・「海の景色」、「自然を感じることに魅力を感じている人が多い。
- ・飲食施設や展望テラスを設置することで、牧山公園での滞在時間を長くできる可能性がある。ひいては、伊良部島や下地島の回遊・消費促進に繋がる可能性がある。
- ・一方で、「展望台がきれいでない」、「飲食施設がない」、「トイレが汚れてる」等、不満点への対応が必要である。

### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### (2) 牧山展望台でのインタビュー調査

##### ①調査概要

調査目的：牧山公園整備にあたり、宮古島市及び牧山公園を訪れる観光客のニーズを把握し、整備計画に反映する

調査対象：牧山展望台来訪者（宮古島市在住者を除く）

調査地点：牧山展望台駐車場

調査実施期間：2022年8月20日・21日・22日（3日間）

回収サンプル数：31サンプル

### 3. 観光客ニーズ調査結果

#### ②牧山展望台でのインタビュー調査結果（抜粋）

##### 1. 牧山公園への来訪動機やきっかけについて

- ・伊良部大橋を渡ることを目的にきて、偶然看板を発見したため。（30代 男性 名古屋在住）
- ・計画を立てておらず、宮古島に到着後、グーグルマップで調べて偶然発見したため。（30代 男性 東京在住）
- ・タクシードライバーからお勧めされたため。（50代 女性 沖縄本島在住）
- ・ハンバーガーを購入し、食べる場所を検索したところ、偶然見つけたため。（40代 男性 東京在住）
- ・星空を眺めたいと計画していたが天候が悪かったため、昼間に訪れた。（60代 男性 東京在住）
- ・事前の計画を立てる際に、ユーチューブやインスタグラムで動画や写真を見つけ、行ってみたいと思ったため。（30代 男性 大阪在住）


##### 2. 実際見た感想について（事前に調べていた場合には、来る前の印象とのギャップ）

- ・ガイドブックで想像していたよりも海の青さに感動した。（40代 男性 東京在住）
- ・海だけでなく橋（伊良部大橋）も景色に入っているのが新鮮で良い。（30代 男性 東京在住）
- ・広い範囲を見渡せることが良い。（40代 女性 横浜在住）

##### 3. 牧山公園がより魅力的になるために必要に思うこと

- ・トイレの改修。（40代 女性 横浜在住）
- ・駐車場がもう少し展望台に近くなると良い。（40代 男性 東京在住）
- ・展望台を白く改装すると、海や空とのコントラストでより魅力が出る。（40代 女性 神奈川在住）
- ・自動販売機の設置。（20代 女性 東京在住）
- ・ゴミの処理。（30代 男性 東京在住）
- ・子供向けの遊具。公園と言いつつ、遊具がないことが不思議。（30代 男性 子供連れ 神奈川在住）
- ・遊具の設置は不要。地元でも遊具で遊べるため、宮古島でないとできない経験（マリンスポーツ等）を多くさせたい。（30代 男性 子供連れ 大阪在住）
- ・展望台への階段に手すりの設置。スロープの設置。高齢者への配慮。（50代 女性 福岡在住）
- ・展望台からの景色が魅力だと思うため、展望台の老朽化は気にならない。（20代 男性 東京在住）

## (2) 第3回観光推進協議会資料

 JTB総合研究所


資料2

# 伊良部牧山公園の活用について

2023年2月

宮古島市観光推進協議会 事務局

© 2023 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

 JTB総合研究所


### 1. 本年度の検討経緯

(1) 住民意向調査（意見交換会）の実施（2022年6月）

➡ 第1回受入環境整備作業部会にて報告


(2) 観光客ニーズ調査の実施（2022年8月）

➡ 第1回受入環境整備作業部会にて報告




第1回受入環境整備作業部会での意見

- ・飲食店やテラスも良いが、**エアコンの効いた施設**をしっかりと作った方が人も滞在し時間を過ごすのではないかと。
- ・牧山エリアで民間活力を導入すると書いているが、成立するのか。5ページにある展望台は、私もよく案内する場所だが、きれいではない。雑然としている。
- ・道の駅のようなものを作り地域のものに触れて買って**地産地消**になる、そういったスポットがあっても良いのではないかと。
- ・時期的な繁華があるため、キッチンカーを活用する、**イベント**をするなどして人を集める方が整備はシンプルで、民営で基本的な方向性も変わらないのではないかと。
- ・今まであった遊歩道を再活用して検討しても良いのではないかと。以前下から公園まで登るルートが有名だった。沖縄でも珍しい。下から登れるコースが復活できるのであれば検討していただきたい。
- ・SPCが肝になるのではないかと。最終的に従来の公共事業でなくなった際に、イニシャルは回収できるかもしれないが管理コストがかかってくる。**安易になってほしくない。維持管理費を検討したうえで実施していただきたい。**



(3) サウンディング調査の実施（2022年12月～2023年2月）



活用構想（案案）  
の策定へ

© 2023 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

## 第2回観光実務担当者会議における意見・質問

### 第2回観光実務担当者会議における意見

#### 【意見】

- 民間主導では市が意見を言えなくなるのではないかと、遊歩道に虫がいるため、観光客がよく行く。建物を改修し屋上で見られるようにし、昼夜楽しめるような施設にしてはどうか。
- 今回3社の選定方法と、サウンディング方法について、また単一工事なのか、それともミックスした事業のコーディネーター役で進めていく余地があるのか伺いたい。
- 市としてどういった形での整備を行うのか、根拠をしっかりと持って進めていただきたい。
- 開発に規制がかかったらどうするのか。

#### 【回答（今後の方向性）】

- 公共施設は維持管理費がかかる。収益性も大事だが公益性も重要だ。地元の人を楽しめる施設も必要だ。様々な提言を受けて検討していきたい。
- 市のHPで募集をかけて見学会には5社が来た。そのうち3社に決定した。今回の提案を受けてコンセプト、事業を検討していく。
- 個別サウンディングは3社からいただき、方向性を絞り込みさらに深めていく。個別に話し合いを進める。そこに協議会や作業部会の意見を含めて、理想的な施設にしていくための個別サウンディングだ。
- 民間を活用することも大事だ。PFIの手法を検討しつつ考えていきたい。
- 今年初めに地域での意見交換会を行った。活用には賛成だが、方向性が固まったら再度意見を聞いてほしいということになっていた。しっかりと意見を聞いて進めていく。
- 大規模な開発はやめてほしいとの意見もあるため、大幅に変わることは考えられない。大幅な伐開は予定していない、自然を活かした開発を行う。

©2022ITB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

2

## 5. サウンディング結果



	①展望台	A社：飲食事業 B社：展望デッキ C社：星空観測、ホルダリング
	②岸壁	C社：ロッククライミング
	③トイレ	ABC社：市による改修
	④広場A	A社：ウェディングフォト B社：伊良部歴史資料館 C社：グランピング
	⑤広場B	A社：飲食事業・イベント等 B社：物産・飲食棟(コンテナ) C社：宮古馬厩舎・乗馬体験
	⑥緑地帯	A社：ロケーションフォト撮影 B社：体験アクティビティ C社：養蜂を軸とした観光農園
	⑦遊歩道	B社：市による花壇撤去、拡張
	⑧管理棟	C社：市による改修
	⑨駐車場	ABC社：市による拡張希望 C社：市によるトイレ新設希望

## 5. サウンディング結果（活用案）



	A社: 飲食業	B社: 旅行業	C社: 情報通信業
メインコンテンツ	フォトウェディング事業 ロケーションフォト撮影	体験アクティビティ	宮古馬、養蜂 ロッククライミング グランピング
市場性	絶景カフェとして利用者 獲得が可能	体験アクティビティ、自然 散策、 カフェテラス等により維 持・運営可能	養蜂は全国でも成立 アドベンチャーツーリス ムも市場性有
展望台	簡易的なカフェ 一部改修(改修は民間)	展望デッキ リノベーション	星空観測 ボルダリング(壁面)
広場A (円形)	ウェディングフォト	伊良部歴史資料館	グランピング
広場B (長方形)	カフェ・レストラン 宴会・会議 ウェディング等	物産、飲食棟(コンテナ)	宮古馬乗馬体験
遊歩道 緑地等	ロケーションフォト フォトウェディング	体験アクティビティ 動植物・史跡ガイドツアー	養蜂を軸とした観光農園
壁面	—	—	ロッククライミング


## 6. サウンディング結果（契約期間等）



	A社: 飲食業	B社: 旅行業	C社: 情報通信業
トイレ・ 展望台	市による改修を希望		
駐車場	拡張希望		拡張、トイレ新設を希望
契約形態	土地賃貸借契約	敷地賃貸借	
契約期間	15年～20年	30年	3年から5年
事業開始 希望	ベストは令和7年度	令和6年	
類似事業 実績	他地域で公園利活用実 績有(実施中)	県内含む全国で体験アク ティビティ事業展開	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耐震調査が必要であれば市にて実施してほしい。</li> <li>○展望台は可能であれば現在の形を残したい。</li> <li>○他事業者との連携は可能。</li> </ul>		
	都会的な印象 民間負担部分が多い 市負担の整備(小)	体験アクティビティの実績 多い 市負担の整備(中)	従来の指定管理制度 市負担の整備(大)

## 2-2. 法定外目的税（宿泊税）の導入補助

### (1) 第2回観光推進協議会資料


 JTB総合研究所

資料2-1

# 宿泊税の導入について

2022年12月  
宮古島市観光推進協議会 事務局

©2022JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

 JTB総合研究所

## 第1回観光実務担当者会議における意見・質問

**第1回観光実務担当者会議における意見**

- ① （宿泊税導入にあたっての検討体制について）庁内検討委員会が検討し、そこで本来は作業部会を設置して様々なことを検討していく、調査をしていくのではないのか。
- ② 税の徴収から使い道まで行政の中ですることになるが、それを使うためには現場がどうしてほしいのか、行政はどういった徴収の仕方ですて制度的に出していくのかそれを議論する場所だ。本島で抗議文が出ている理由は、そこがはっきりしていないということからだ。
- ③ 最初から決めたほうが良いのであれば定率方式も良いのではないか。定率で行くと施設の改善等多くのことを賄うことができる。国際線の予定もあり、観光客が増え、富裕層も増えるのではないか。
- ④ 条例案を作る中で、宿泊税2万円以下は200円と先行して導入するが、県も導入するとなった場合、折半することを条例案に盛り込もうと考えている。県との整合性が一番重要だ。
- ⑤ クルーズ船からの徴収についても、検討できないか。

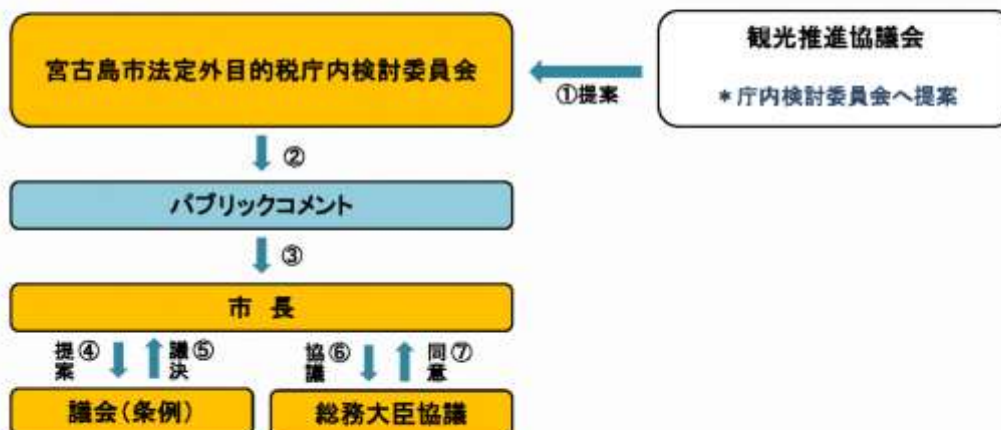
©2022JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

1

## R4年度宿泊税導入に向けた取組み（案）

宿泊税導入に関しては、庁内検討委員会で最終決定する。  
観光推進協議会より庁内検討委員会に提案し、その提案に基づいて庁内検討委員会で検討する。

### 「宿泊税導入に向けた検討手続き（案）」



## 市内宿泊施設へのヒアリング結果

11月25日、26日、31日、11月10日の4日間、市内宿泊施設12カ所へのヒアリングを実施した。  
主要な意見は以下の通りであった。

### 【主な意見・質問】

#### ○宿泊税の導入について

- ・別の財源が確保できるので、観光業界としては良い。長い目で必要だということはわかっていて。
- ・税を負担するのは宿泊者ではなく事業者だと思っていた。
- ・宿泊税はホテル事業者にメリットが全くない。特にクレーム対応が一番のネック。
- ・航空会社の協力で入島税を導入できないのか。

#### ○徴収対象について

- ・子供は緩和すべきだ。修学旅行は非課税にした方が良い。
- ・クルーズ船は上陸する人に何か徴収の仕組みができると良い。
- ・多良間など島内の人からも徴収するのか。予約時には判別できないこともある。
- ・仕事関係や1か月程度の長期滞在の利用者からも徴収するのか。
- ・平等なのは、入島税、やって欲しいと思っているは入島協力金。

#### ○定額・定率について

- ・定額では不公平感がある。
- ・定率は現場が嫌がる。定額の方がわかりやすい。

#### ○税の徴収方法について

- ・OTAは前払いになるので、宿泊税を別にしないと手数料分の損失が発生する。
- ・税だけをフロントで徴収すると、減らしたチェックインの作業量が再び増えることになる。
- ・東京や大阪ではカード決済の際に宿泊税を外して決済する。
- ・OTAの予約の場合、現地で別途支払うようにしているホテルが多い。
- ・ホテルによっては税を販売額に含めているところもある。手数料分減ってしまうが、手間を考えると得という判断。



## 市内宿泊施設へのヒアリング結果

### 【主な意見・質問】(つづき)

#### ○システム変更

- ・システムを変えることは現実的ではない。
- ・税の設定や加算自体は難しくない。システムの導入はホテルの規模により違う。
- ・手作業だと手間がかかる。負担はそれほど大きくないが、月末の集計にひと作業増える。
- ・メジャーなホテルはシステム改修で対応しているところが多い。
- ・宿泊税は他の地域で行っており、開発済みのシステムであるため、費用はそれほど掛からないのではないが。

#### ○税の用途について

- ・何に使われたかを観光客にもわかるようにすべきだ。
- ・新しい制度には必ず反発がある。財源の使用目的を明確にすることが大事だ。
- ・施設の改修に使うと言えば納得感がある。
- ・すでに導入している地域はどう変わったのか。

#### ○周知について

- ・空港などでチラシを配布し、周知してほしい。
- ・宿泊税についての問合せやサポートの窓口を設置してほしい。
- ・税を払いたくないという人にはどのように対応するか。

- ・導入については概ね賛成の意見が多いが、宿泊施設にのみ負担が大きいという意見もある。
- ・税の用途を明確にし、観光客にも伝えるようにする必要がある。
- ・周知を徹底することで、宿泊施設の労力を軽減する必要がある。
- ・徴収方法、システム変更の必要性については、宿泊施設ごとに状況が異なるため、意見交換会等でそれぞれの施設の状況を把握しながら進める必要がある。

## 先行他地域の事例

### 【準備期間と税額】

宿泊税導入までの検討期間は2か月から11か月の間である。有識者会議以前の準備期間はそれぞれ異なる。免税点を設定しているのは東京都、大阪府、沖縄県（予定）など。税額は100円から500円までの間が多い。俣知安町と京都市、沖縄県（予定）は、修学旅行等について非課税としている。

所在地	導入年	有識者会議等の開催	検討期間	収入(拠出)額	徴収方式	税額(税率)	免税対象
北海道釧路市	2019年4月1日	債権売却法正化等に係る有識者会議 2017年11月～2018年7月 (4回開催)	約9か月	380百万円～460百万円 2021年度実績: 150百万円	定率	一律1税(宿泊費(消費税や消費税は含まない)の2%) (100円未満は切り捨て)	小・中・高の修学旅行、研修旅行 及び団体客の団員 ・聴覚体弱又はインターシッパの中学生 ・高校生、専門学校生及び大学生
石川県金沢市	2019年4月1日	北陸新幹線開業による影響軽減会議 2017年5月24日～11月17日 (4回開催)	約9か月	(前年度) 660 百万円 (平年度) 720 百万円	定額	20,000円未満 200円 20,000円以上 500円	なし
福岡県福岡市	2020年4月1日	宿泊税に関する調査検討委員会 2018年10月3日～11月27日 (3回開催)	約12か月	平年度: 約1,820百万円 2021年度実績: 1727百万円	定額	20,000円未満 200円 (3%上限500円) 20,000円以上 500円 (3%上限500円)	なし
福岡県北九州市	2020年4月1日	宿泊税に関する調査検討委員会 2019年6月18日～8月6日 (4回開催)	約12か月	平年度: 約300百万円	定額	一律 200円 (3%上限500円)	なし
京都府京都市	2018年10月1日	在来型・改修型・まぜまぜに係る検討 の在りかに関する検討委員会 2016年8月4日～2017年7月21日 (7回開催)	約11か月	(前年度) 約1,900百万円 (平年度) 約4,560百万円	定額	20,000円未満 200円 20,000～50,000円未満 500円 50,000円以上 1,000円	学校教育法第1条に規定する学校 (大学を除く)の児童、生徒で、当該 学校が主催する修学旅行その他学校 行事の参加者及び団員等
大阪府	2017年1月1日	観光客受入環境整備の推進に関する 調査検討会議 2016年5月8日～12月18日 (7回開催)	約9か月	2015年度: 770百万円	定額	7,000円未満 平年度 7,000～15,000円未満 300円 15,000～20,000円未満 200円 20,000円以上 300円	なし
東京都	2002年10月1日	-	-	2016年度: 2,217百万円	定額	10,000円未満 平年度 10,000～15,000円未満 100円 15,000円以上 200円	なし
沖縄県(予定)	-	沖縄県観光日野町検討委員会	-	-	定額	5,000円未満 平年度 20,000円未満 200円 20,000円以上 500円	修学旅行生及びこの歳を引する 児童等

## 先行他地域の事例

### 【特別徴収事務補助金（交付金）】

特別徴収事務に対する補助金は、どの自治体も宿泊税の2.5%（導入当初の5年間は3%）としている。宿泊税の徴収方法は、宿泊費と一緒に決裁するケース、宿泊税のみ別途決裁するケースなど、宿泊施設により異なる。宿泊税導入に伴うシステム改修を行っていない事業者が多い。

市町村名	宿泊税特別徴収事務補助金	徴収費用見込額	宿泊税徴収方法（ヒアリング先対象市町村）	システム改修費などの初期投資（ヒアリング先対象市町村）
北海道札幌市	2.5%（期間内に申告納税しなかった場合2.0%） 100円未満は切り捨て 市村上限額200万円 ※（導入当初5年間は月10.3%増し）	2023年度：43 百万円	-	-
石川県金沢市	2.5%（2023年度までは3.0%） 期滿までに税を納入した事業者に対し、 1,000円を返金	（前年度）23 百万円 （中年度）43 百万円	○宿泊税込みの料金表示している。 ○オンラインで宿泊税を返すのケースで、宿泊税込みで手数料を計算するなど、スタート前は旅行会社とのやり取りの上で提供があった。 ○エージェントにより、宿泊税を事前に決めて決裁する機会と、別途徴収する機会が両方がある。 ○ホテルの共通エージェントで宿泊税を決めて決済し、ホテル以外の場合は宿泊税を別途徴収している。	○システム改修費用はかかっていないが、徴収後の手順が増えた。 ○システム改修費用はかかっていない。 ○システム改修費用はかかっていないが、操作上的手順と、お客さまへの案内の手順が増えた。 ○システム改修費用はかかっていないが、1日ずつの計算の手順が増えた。これを乗り越えるためにシステムをクラウドにする、月額の手続きから1万円の利用が発生する。子供の申し込みについて、宿泊税がかからないなど、イレギュラーへの対応の手順が増えた。
福岡県福岡市	-前納、納入した宿泊税額の2.5%。 （導入当初5年間は3%） 電子申告を行う場合は0.5%を上乗せした最大3.5%を特別徴収事務費に交付	中年度：約150万 円 （2023年度実績：47百万円）	○実施まで宿泊税を提示し、チェックイン時に別途徴収。OTAからのケースの場合のみ宿泊税込みの料金表示になっている。 ○長期滞泊は宿泊税別途徴収。事前決済は宿泊税込みで決裁している。 ○業者と宿泊税の料金を決裁している。業者で宿泊税徴収の場合は、宿泊税を別途徴収している。	○システム改修費用はなし。 ○システム改修費用はかかっていないが、宿泊税事前処理の手順が増えた。 ○システム改修費用はかかっていない。
福岡県北九州市	-前納、納入した宿泊税額の2.5%。 （導入当初5年間は3%） 電子申告を行う場合は0.5%を上乗せした最大3.5%を特別徴収事務費に交付	平年度：約20万 円	○OTAの場合別途の宿泊料金と宿泊税を別途表示し、決済の際にはまとめて行う。OTAの表示は税込み金額で表示している。 ○全て宿泊税込みの料金表示になっている。	○横断的なシステム改修は行っていない。 ○システム改修は行っていない。OTAでの税計算して納付している。
東京都京都市	2.5%（2023年度までは3.0%） 100円未満は切り捨て 市村上限額200万円	-	-	-

## 先行他地域の事例

### 【周知方法・宿泊税の使途】

宿泊税の使途は、観光地としての環境整備の他、市民生活にも寄与する内容を取り入れている。いずれの自治体においても、宿泊税の使途についてホームページ等で報告を行っている。環境整備費用等の一部が宿泊税によって賄われているケースが多いため、宿泊税のみの直接効果としては出しにくいものとみられる。

市町村名	周知方法	宿泊税の使途	宿泊税導入の効果
北海道札幌市	-チラシ -ポスター	世界に誇れるリゾート地として発展していくを目標、地域の魅力も高めるとともに、観光の振興を図る施策に関する費用 ●リゾート地としての観光の向上 ●域内交通網の再整備、エコー・等測定の確保、安全・安心なリゾートの形成 ●リゾート地としての魅力の向上 ●観光インフラの整備、有効性を確保したまちづくり 観光の振興、伝統、文化などの活性化を図るため、市民生活に貢献した持続可能な観光の振興を図る施策に活用する ●ふるさと観光に資する歴史・伝統・文化の振興 ●観光客の受入環境の充実 ●市民生活の向上と持続可能な観光の振興	詳細未開示
石川県金沢市	-チラシ（宿泊税のご案内） -導入前ポスター -パンフレット（ポスター）	観光振興の施策に関する観光振興の振興、受入環境の整備、観光振興の魅力を高める、特にCEの振興や観光の振興に資する費用 ●九州の観光インフラの振興の振興強化 ●大型イベント等の開催拡大への対応 ●観光振興や市民生活に資した施策 ※既存事業に充当しない	金沢市としては、観光アンケート調査等を実施中であるが、効果についての検証については、これからである。
福岡県福岡市	-ポスター -エコリリーフシート -案内冊子 -導入前ポスター -パンフレット（ポスター） -案内シート広紙 -交通広紙（エアポートバス、地下鉄案内）	観光振興の施策に関する観光振興の振興、受入環境の整備、観光振興の魅力を高める、特にCEの振興や観光の振興に資する費用 ●九州の観光インフラの振興の振興強化 ●大型イベント等の開催拡大への対応 ●観光振興や市民生活に資した施策 ※既存事業に充当しない	令和3年度は宿泊税の導入に関する補助金を活用し、宿泊事業者への支援を行った。その活用による環境整備や観光の振興など、観光振興に資する施策を行っている。併せて市民生活にも寄与する施策を行っている。併せて市民生活にも寄与する施策を行っている。
福岡県北九州市	-ポスター -リーフレット -案内冊子 -チラシ -導入前ポスター -案内冊子 -パンフレット（ポスター）	観光振興の施策に関する観光振興の振興、受入環境の整備、観光振興の魅力を高める、特にCEの振興や観光の振興に資する費用 ●北九州の観光振興の振興強化 ●旅行客の受入環境の充実 ●その他の観光の振興に資する効果	詳細については現在検討中。
東京都京都市	-宿泊税告知チラシ -宿泊税告知リーフレット -宿泊税告知ポスター -宿泊税告知メールサイトの設置	●住民にも訪れる人にも優しい利用や魅力を実感できる地域の振興 ●文化の振興（文化財の保護） ●景観の保全・再生（歴史景観の保全・再生、道徳景観の向上等） ●多様な産業の振興（歩行者の観光、公共交通の利便性の向上等） ●伝統産業の活性化（伝統産業の振興・継承等） ●観光振興の充実（観光振興の振興・振興向上等） ●観光の魅力を向上させる施策の推進 ●入浴客の増加など、観光客の滞在環境の向上に資する受入環境の整備 ●観光客への案内、受入環境の整備・充実 ●観光客の安心・安全な滞在環境の確保・提供 ●入浴客及び観光客の安心・安全の確保	「夜観光」の魅力アップによる「宿泊観光」の推進。市指定文化財等観光事業に活用したほか、観光の活性化の推進や、今年度による伝統文化体験など、市民にも有益な事業を進めて推進している。宿泊税の使途に対する市民の要望では、「1日/1回/1回/1回」の観光振興、マナー教育/文化財、伝統産業、伝統産業、美しい景観の保全・安心（アンケート調査）。

## 先行他地域の事例

### 【参考】周知方法の例

#### ○宿泊税の広報チラシ（京都市）



#### ○宿泊税利用の事業報告（京都市）



#### ○宿泊税利用の事業報告（福岡市）



## クルーズ船利用客からの徴収方法

宿泊税の検討の一方で、クルーズ船利用者に対する宮古島市の環境保全への協力を求めることも必要であるとの意見がある。それに最も近いのは伊是名村等が実施している環境協力税である。その他特別徴収を行っている例の中で、クルーズ船乗客に対する特別徴収に近いものでは、駐車場利用者に対する課税（岐阜県、太宰府市）や、空港連絡橋利用者に対する課税（泉佐野市）などがある。

税の名称	市町村	金額	納税義務者	徴収方法	税収の用途
環境協力税	伊是名村 伊平屋村 渡嘉敷村	100円	旅客船、飛行機などにより入域する者	特別徴収	環境の美化、保全
遊漁税	富士河口 湖町	1人1日 200円	遊漁行為を行う者	特別徴収	河口湖周辺の環境保全・美化及び施設整備
乗鞍岳環境保全税	岐阜県	300～ 3,000円	乗鞍鶴ヶ池駐車場利用者	特別徴収	乗鞍地域の自然環境の保全
歴史と文化の環境税	太宰府市	50～500円	一時有料駐車場の利用者	特別徴収	歴史的文化遺産の保存活用事業
空港連絡橋利用税	泉佐野市	100円	関西空港連絡橋を自動車で通行する者	特別徴収	—

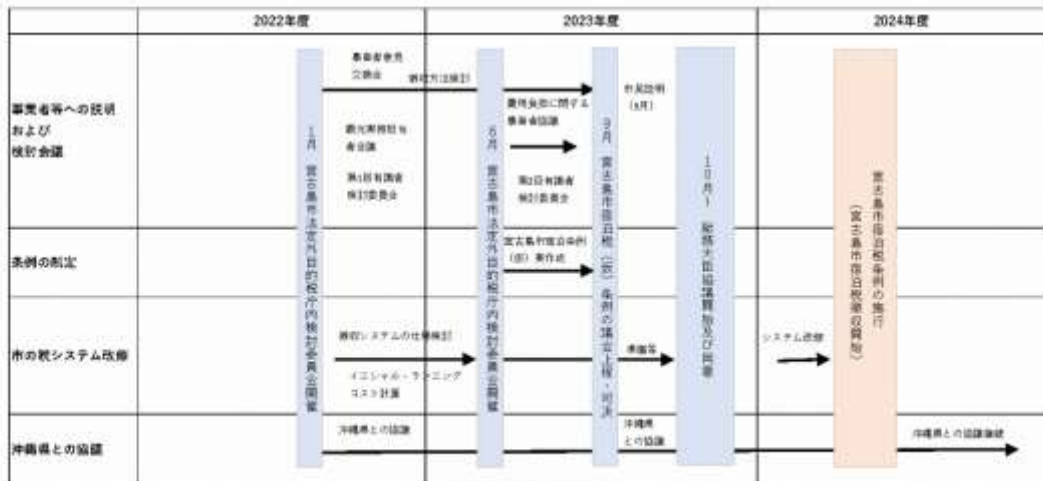


国内のクルーズ船に関しての徴収事例がみあたらないため、調査を継続実施する。

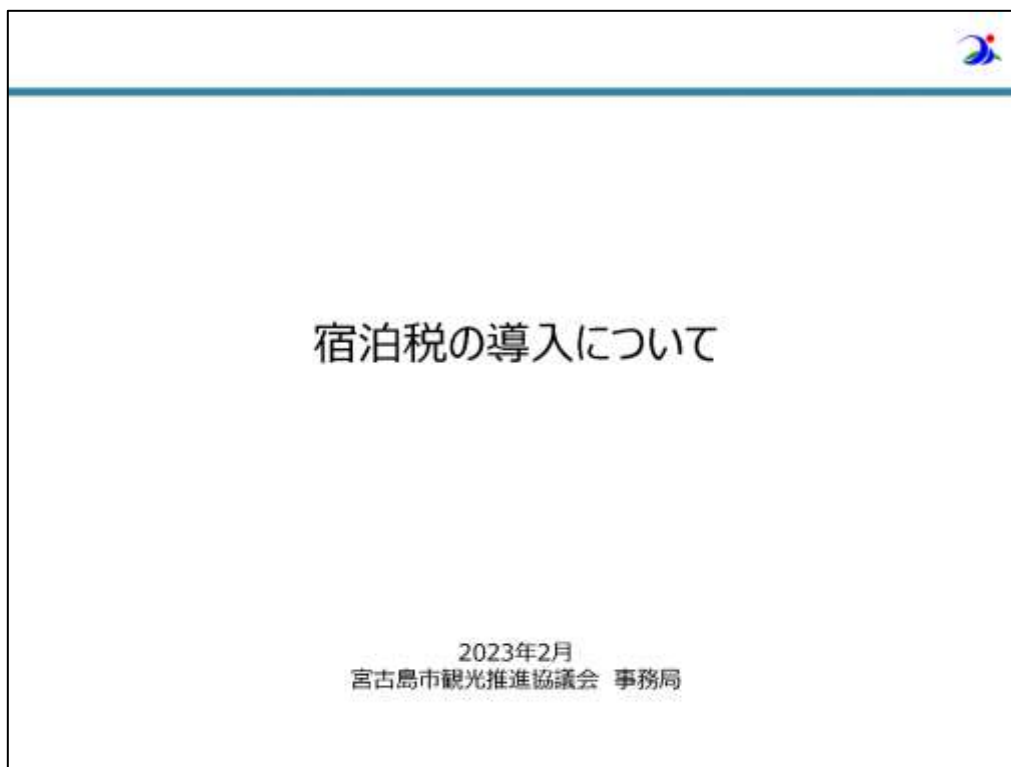
※別途入場税の特別徴収への協力について、航空会社にヒアリングを実施したところ、空港使用料等については航空券に含めて処理をしている例はあるものの、個別自治体からの依頼で同様の処理をした例はこれまでになく、仮に実施するとなると、システム変更に高額の費用が発生するため困難であるとの回答を得ている。

# 宿泊税導入に向けてのスケジュール（案）

- |  |   |
|--|---|
| <p>【2022年度】</p> <p>1月 宮古島市法定外目的税庁内検討委員会</p> <p>1月～2月 事業者意見交換会<br/>(平良、城辺、上野、下地、伊良部の5地区に分けて事業者意見交換会を開催する)</p> <p>2月 観光実務担当者会議（意見交換会の報告・協議）</p> <p>3月 有識者検討委員会<br/>沖縄県との協議</p> | <p>【2023年度】</p> <p>4月～ 沖縄県との協議継続</p> <p>6月 宮古島市法定外目的税庁内検討委員会<br/>有識者検討委員会</p> <p>9月 宮古島市宿泊税条例（仮）の議会上程・可決</p> <p>10月～ 総務大臣協議開始及び同意</p> <p>【2024年度】</p> <p>沖縄県との協議継続<br/>宮古島市宿泊税条例の施行</p> |
|--|---|



(2) 第3回観光推進協議会資料



## これまで議論してきた宿泊税の概要（原案）



宿泊税の内容(原案)	
課税客体	宿泊施設への宿泊
納税義務者	宮古島市内のホテル、民泊等における宿泊者
徴収方法	ホテル等の事業者、および民泊等による特別徴収
課税標準	ホテル等における宿泊日数
課税免除	宿泊料金5千円未満、修学旅行
税率	1泊あたりの宿泊料金 2万円未満 200円 2万円以上 500円 ※県が宿泊税を導入した際には、50%を県に納付 県が導入するまでの期間は50%を基金として積み立てる
税収規模試算	令和1年度基準 約1.9億円 令和2年度基準 約1.0億円 *試算方法:(空路観光客数×平均宿泊日数)×200円÷2(半分は県)
その他	1. 一棟貸しの宿泊施設において、利用人数の捕捉が自己申告によることから、徴収方法の検討が必要。 2. 宿泊がないクルーズ船客の取り扱いについて検討する。 3. 年齢による免税点の設定を検討する。

2

## その他、クルーズ船利用客や入島税としての徴収について



観光推進協議会や部会において、クルーズ船利用客に環境保全への協力を求めることも必要であるとの意見や、空路観光客への入島税徴収の可能性について意見をいただいていたため、宿泊税導入の先行地域であり、クルーズ船寄港地でもある福岡市、金沢市および航空会社に調査を実施した。

### クルーズ船利用客からの徴収検討について

福岡市・金沢市ともクルーズ船利用客から税の徴収や協力金の導入はしていない。また、宿泊税の導入検討にあたり、クルーズ船客からの徴収については、特に議論されずに宿泊税の導入に至っている。議論に至らなかった要因としては、クルーズ船利用客に対する徴収の先行事例がなかった点大きい。

### 入島税としての徴収の検討

空路観光客に対する入島税の徴収への協力について、航空会社にヒアリングを実施したところ、空港使用料等については航空券に含めて処理をしている例はあるものの、個別自治体からの依頼で乗客からの徴収をした例はこれまでにない。仮に実施すると、システム変更が高額の費用が発生するため困難であるとの回答であった。

3

## 第2回観光実務担当者会議における意見・質問



### 第2回観光実務担当者会議における意見

- ① 宿泊税は料金体制を段階的に分けてはどうか。10万円以上の高額なホテルも多い。5万円以上は1,000円を課税という議論もあるのではないかな。
- ② 修学旅行以外の免除をなくして1万円未満から設定してはどうか。県が導入する方向性もあるため、宮古島で徴収された宿泊税が他の地域に使われることに対する議論もあるのではないかな。
- ③ ホテル側の納得感を出すために、できるだけ宮古島で使う仕組みができないかな。
- ④ 宿泊税は当然事業者に負担が来る。事業者は何らかの還元がされていることを見せるべきではないかな。
- ⑤ 観光地をさらに良くしていくというストーリーを作っていくと、皆納得しないのではないかな。税金で環境整備をすることは市民にとっても良いことだ。それを伝えていく必要がある。

## 第2回観光実務担当者会議における意見・質問



### 第2回観光実務担当者会議における意見

- ⑤ 用途をしっかりと定めるべきだ。その説明ができないと現場で矢面に立たされる事業者は困るのではないかな。試算は今後行うのか。
- ⑥ 取りこぼしがないようにしていくべきだ。他地域での仕組み、システムを把握しているのか。
- ⑦ その他の欄に徴収方法の検討が必要とあったが、一棟貸しの施設はそれほど多くはない。家族連れで子どもが来た場合は一人で計算するのか。年齢で免除するのか。
- ⑧ クルーズ船について、宿泊税という名前であれば徴収できない。乗船客すべてが降りてくるわけではない。入ってくる人から直接徴収することは難しい。クルーズ船会社や旅行会社と交渉することになると思われるが、具体的なシミュレーションをどう考えているのか。海路と空路の用途をどう整備し説明するのか。




### 第2回観光実務担当者会議における意見

- ⑩ **事業者に負担が集中**する。その負担をどうするか。全国旅行支援は現場が大変だった。良かれと思って作った制度が現場の負担になる。ヒアリングを12か所回ったとのことだが、今後パブコメもあるが、本音を言える形の会があると良い。
- ⑪ 県外の企業と地元の事業者では導入の負担が違う。わからないまま制度が決まっても、結局事業者の負担で税を納入することにもなりかねない。手数料も検討してはどうか。パブコメは宿泊事業者も集めて本音が言える場にしていただきたい。
- ⑫ 財源の使用目的について、環境整備も当然出て来るが、二次交通の人手不足がある。宮古島には個人タクシーがない。人口10万人以下は許可されないと聞いたことがある。個人タクシーを増やしてはどうか。その働きかけを進めてはどうか。成り手には援助も検討してはどうか。



## 2-3. 受入キャパシティの評価査定

### (1) 第1回観光推進協議会資料


 JTB総合研究所

資料4-1-2

# 観光客増減に伴い必要となる受入 キャパシティに関する評価・査定

2022年7月  
宮古島市観光推進協議会 事務局

©2022JTB Tourism Research& Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

 JTB総合研究所

### 受入キャパシティの評価査定

**受入キャパシティの評価査定**

昨年度の作業部会における部会メンバーからの意見を反映し、必要となる調査を行って、受入キャパシティの評価を行う。

**受入キャパシティ評価の目的**

- 観光客数や人口の増加に伴うインフラ整備の必要量を推定
- オーバーツーリズムによる環境悪化の回避
- 宮古島市の産業の発展と住民の生活環境維持の両立

**受入キャパシティ評価に関する認識**

**観光推進戦略作業部会及び受入環境整備作業部会の意見（抜粋・要約）**

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による評価体系の見直しが必要
- ・ 医療関係機関の感染症対応のキャパシティ評価を加えることが必要
- ・ 最大必要量（ピーク）と最大受入（供給）可能量との比較が必要
- ・ 市民の理解と共感の醸成が必要

  
**本年度の取組み**

① 評価基準の追加と見直し	② 観光客受入への影響因子の追加と見直し
<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 2028年度到達可能な目標の再確認</li><li>➢ 医療・行政機関へのヒアリング</li><li>➢ 医療機関のキャパシティの項目を追加</li><li>➢ 現状の最大受入可能量の把握</li><li>➢ 最大必要量（ピーク）と最大受入（供給）可能量の把握</li><li>➢ 市民への情報公開の検討</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新型コロナウイルス感染症拡大は、観光客の減少のみならず、従業員の減少（他業種への移動）を引き起こしている。受入キャパシティを検討するにあたり、今後は資源不足の問題にも着目していく必要がある。</li><li>● コロナ禍の影響などの直近の状況を踏まえた評価体系の見直しと追加が必要である。</li></ul>

©2022JTB Tourism Research& Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

# 宮古島市における交通インフラ（タクシー・レンタカー）の状況



市内において、タクシーやレンタカーが足りず、来島した観光客が移動が困難な状況が生まれている。今年度は、タクシー及びレンタカーの利用実態を把握して本資料に反映していく必要がある。

## タクシー業界の状況

コロナの影響発生以前と比較して、タクシー台数は2社合計で9台（▲28.1%）、乗務員数は8名（▲21.6%）減少している。タクシーの台数に対し、乗務員の人数が不足しており、需要が回復しても、タクシーの台数を増やせない状況もみられる。入域観光客数は急速に回復に向かいつつあるものの、現在の観光客数はコロナ前までには回復してはいない。今後順調に回復すれば、タクシー不足の状況はさらに深刻化することが予測される。

	タクシー会社 A社		タクシー会社 B社	
	コロナ前	現在	コロナ前	現在
利用客数（月間）				
タクシー台数	21	12	11	11
乗務員数	20	12	17	17
備考	毎日15台がフル稼働。予備車を含めると、乗務員と車両台数のバランスは適切である。車上配台数以外にジャンボタクシーが3台ある。		ドライバーは隔日勤務のため、車両台数が11台に対し、22名が必要。現在の人員では8～9台の運行が限界である。車上配台数以外にジャンボタクシーが3台ある。	

## レンタカー業界の状況

コロナの影響発生以前と比較して、レンタカーの台数は4社合計で90台（▲10.7%）の減少。スタッフの人数は、22名（▲29.3%）の減少である。貸出件数はコロナ前の規模まで回復してきてはいないものの、車両台数が減っていることに加え、従業員数が減少し、これ以上レンタカー台数を増やせない状況が生まれていることから、当面の間、レンタカーの予約が取りにくい状況が続くとみられる。

	レンタカー会社 A社		レンタカー会社 B社		レンタカー会社 C社		レンタカー会社 D社	
	コロナ前	現在	コロナ前	現在	コロナ前	現在	コロナ前	現在
申込件数（月間）								80%
レンタカー台数	450	400	400	300	120	150	100	130
従業員数	25	18	18	18	20	11	12	8
備考	8月下旬まで満車。車両の製造が止まっていることに加え、修理点検のスタッフも減少し、対応が追い付かない。		8月中旬まで満車。130台の車両のうち10～20台は車検や事故で動かさない。		8月下旬まで満車。キャンセル待ち：7月130件、8月140件。現在のスタッフ数でギリギリ回している。		8月中旬まで満車。130台の車両のうち10～20台は車検や事故で動かさない。現在のスタッフ数ではこれ以上台数を増やせない。	

市内主要タクシー会社・レンタカー会社へのヒアリング結果  
(2022年7月7日～8日・JTB総研調べ)

## 【参考】2021年度／必要となる受入キャパシティ



### ①観光客増減に伴い必要となる受入キャパシティ

2019年を基準年（宿泊・飲食サービスの従業者数のみ2017年が基準年）として、観光客（空路観光客数、空路観光客人泊数・海路観光客数）の各年度推計値から、必要となる宿泊・飲食サービスの従業者数、宿泊施設収容人員、レンタカー台数、貸切バス台数及び空港の着陸回数と年間降客数を推計した。

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	2018年中 2020年の推 測値	令和3年度 (2021) (2019年比 変動率) 実数(%)	令和4年度 (2022) (2019年比 変動率) 推計値	計画乗客年度 (2023) 目標	備考
空路観光客数	824,275	888,874	733,281	259,588	-572,788	440,034	585,713	1,050,000	
空路観光客人泊数	1,529,719	1,791,072	1,929,818	1,017,645	-811,172	1,245,295	1,640,384	2,971,500	空路観光客推計値に、2020年度の平均滞在日数：2.99日を乗じて推計
海路観光客数	363,348	454,757	327,932	0	-327,932	0	18,396	950,000	
宿泊・飲食サービスの従業者数	1,448					1,504	2,005	2,548	空路観光客推計値（人泊数）に、2017年度の従業者数÷2017年度の空路観光客数（人泊数）を乗じて推計
宿泊施設収容人員	8,517	9,125	10,215	12,728	2,520	8,545	9,793	15,327	空路観光客推計値（人泊数）に、2019年度の収容人員÷2019年度の空路観光客数（人泊数）を乗じて推計
レンタカー台数	8,719	2,695	3,227	3,707	-5	2,083	2,777	4,437	空路観光客推計値（人泊数）に、2019年度のレンタカー台数÷2019年度の空路観光客数（人泊数）を乗じて推計
貸切バス台数	73	113	94	95	-	43	46	276	空クルーズ船以外の乗客もあることから、2021年度以降に限り2019年度比50%を乗算水増しして推定することもある
今年度においては、台数だけでなく、人員の過不足についても把握する必要があります。			5,735	7,191	-1,448	5,249	4,967	12,526	空路観光客推計値に、2019年度の内閣府発表と2019年度の空路観光客数を乗じて推計
			1,929,127	1,128,409	-780,718	1,157,474	1,543,266	2,761,847	空路観光客推計値に、2019年度の年間降客数と2019年度の空路観光客数を乗じて推計

- 「空路観光客数」の伸び率から算出した2021年度推計→
  - ①空港年間着陸回数 ②空港年間乗降客数
- 「空路観光客人泊数」の伸び率から算出した2021年度推計→
  - ①宿泊・飲食サービスの従業者数 ②宿泊施設収容人員 ③レンタカー台数
- 「海路観光客数」の伸び率から算出した2021年度推計→
  - ①貸切バス台数（※2019年度比50%を国内客向け需要として推移することを想定）

...	基準値
...	実績値
...	目標値・推計値

### ② 居住人口の増減に伴い必要となる受入キャパシティ

2019年を基準年として、各年度の居住人口推計値により、必要となる乗用車登録台数、家屋の棟数等を推計した。

	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	2019年と 2020年の増 減幅	令和3年度 (2021) (推計値)	令和4年度 (2022) (推計値)	計画最終 年度 (2025) (推計値)	備考
居住人口	54,442	54,625	55,434	55,577	143	55,432	55,266	54,413	2020年12月の住基登録人口と名古屋市人口ピ ジョン（令和2年3月）の「人口の将来展望」 の2030年人口の増減率を基に算出した
人口増加数	102	183	608	143		-145	-281	-1,164	2020年度からの増加数
増加率	100.2%	100.3%	101.5%	100.3%		99.7%	99.5%	97.9%	2020年度からの増加率
乗用車登録台数	11,219	11,969	12,501	12,533	32	12,500	12,467	12,230	各年度の人口に、2019年度の乗用車登録台数 ÷2019年度の居住人口を乗じて推計
軽自動車登録台数	31,040	31,766	31,419	31,500	81	31,417	31,325	30,640	各年度の人口に、2019年度の軽自動車登録台 数÷2019年度の居住人口を乗じて推計
家屋の棟数	18,324	18,608	18,797	18,845	48	18,796	18,746	18,450	各年度の人口に、2019年度の家屋の棟数÷ 2019年度の居住人口を乗じて推計
家屋の床面積 (㎡)	2,695,095	2,742,742	2,803,745	2,810,977	7,232	2,803,643	2,796,259	2,751,104	各年度の人口に、2019年度の家屋の床面積÷ 2019年度の居住人口を乗じて推計



※受入キャパシティの算出例：2020年度の乗用車登録台数の推定値計算の方法  
 $(2019年度の乗用車登録台数) \div (2019年度の居住人口) \times (2020年度の居住人口)$

### ③ 滞在人口の増減に伴い必要となる受入キャパシティ


観光客数（空路観光客入泊数・海路観光客数）から滞在人口を算出し、2019年を基準年として各年度の滞在人口（推計値）により、必要となる乗合バス台数、タクシー台数、電力及び水道消費量、ごみ搬入量を推計した。  
 （※乗合バス台数およびタクシー台数は2020年を基準年とした）

	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021) 乗合バス、タク シー台数は推計値	2019年度比	令和3年度 (2021) (推計値)	令和4年度 (2022) (推計値)	計画最終年度 (2025) (推計値)	備考
滞在人口（観光客及び住民等）	59,128	66,154	67,187	68,305	95.4%	68,342	68,027	63,820	滞在人口とみなし人口の合計
人口増加数	285	1,623	1,613	-2,302		420	1,482	5,490	2020年度からの増加数
増加率	100.5%	102.7%	101.7%	95.4%		100.8%	102.0%	101.6%	2020年度からの増加率
乗合バス台数	16	20	27	33	104.3%	33	33	25	推定滞在人口に、2020年度の乗合バス台数÷2020 年度の滞在人口を乗じて推計
タクシー台数	180	193	200	190	97.7%	191	194	207	推定滞在人口に、2020年度のタクシー台数÷2020 年度の滞在人口を乗じて推計
電力（消費量）：kWh	206,403,106	254,978,959	274,441,345	261,908,437	95.4%	264,014,126	260,503,690	206,181,742	推定滞在人口に、2019年度の電力消費量÷2019年 度の滞在人口を乗じて推計
水道（水量）：㎡	1,420,905	1,525,300	1,597,528	1,728,587	95.4%	1,709,877	1,624,114	1,455,288	推定滞在人口に、2019年度の水道消費量÷2019年 度の滞在人口を乗じて推計
水道（消費）：円	1,261,080,744	1,402,281,021	1,527,211,812	1,408,872,526	95.4%	1,403,987,896	1,305,436,394	1,011,982,318	推定滞在人口に、2019年度の水道消費額÷2019年 度の滞在人口を乗じて推計
ごみ（乗来廃棄）の搬入量：トン	21,122	26,348	21,908	28,089	95.4%	28,190	21,341	22,787	推定滞在人口に、2019年度のごみ搬入量÷2019年 度の滞在人口を乗じて推計
可燃ごみ	12,912	16,696	12,341	16,458	95.4%	16,591	16,077	18,084	推定滞在人口に、2019年度可燃ごみの搬入量÷2019年 度の滞在人口を乗じて推計
資源ごみ・燃焼ごみ	8,210	9,652	9,567	11,631	95.4%	11,599	5,264	4,703	推定滞在人口に、2019年度の資源ごみ・燃焼ご みの搬入量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
粗大・有害ごみ	1,000	1,000	1,000	1,000	95.4%	1,000	1,000	1,000	推定滞在人口に、2019年度の粗大・有害ご みの搬入量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計



※受入キャパシティの算出例：  
 2020年度の電力（消費量）の推定値計算の方法  
 $(2019年度の電力消費量) \div (2019年度の滞在人口) \times (2020年度の滞在人口推計値)$

(2) 第3回観光推進協議会資料


©2023 JTB総合研究所

**資料3**

## 宮古島市における交通インフラの状況

### ～人手不足の状況モニタリング～

2023年2月  
宮古島市観光推進協議会 事務局

©2023 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製


©2023 JTB総合研究所

### 宮古島市における交通インフラの状況

2022年8月に実施した市内交通事業者ヒアリングから5ヶ月が経過し、あらためて利用客数、タクシー台数、乗務員数、人手不足の状況等を把握するため、ヒアリングを実施した。

**市内タクシー業界の状況**

2022年8月から1月にかけて台数・乗務員数の変更なし。2023年1月はタクシー利用客が増加傾向。コロナ前よりも台数を減らし、需要が上回っている様子もみられる。車両台数と乗務員のバランスは適切であるが、人材不足により需要に見合う増車は困難との声もあがっている。

	タクシー会社A社					タクシー会社B社				
	コロナ前		2022.08		2023.01	コロナ前		2022.08		2023.01
利用客数（月間）	-	↘	-	↗	-	-	↘	-	↗	-
タクシー台数	21	↘	12	↔	12	11	↔	11	↔	11
乗務員数	20	↘	12	↔	12	17	↔	17	↔	17
2022年8月時点	毎日15台がフル稼働。予備車を含めると、乗務員と車両台数のバランスは適切である。 ※上記台数以外にジャンボタクシーが3台ある。					ドライバーは隔日勤務のため、車両台数が11台に対し、22名が必要。現在の人員では8～9台の運行が限界である。※上記台数以外にジャンボタクシーが3台ある。				
2023年1月時点	利用客は増えている。昼や夜の混雑の際に、電話での受付を断るケースが多々ある。需要に対応しきれない。人材不足の問題が大きい。					タクシー利用は増えてきている。ジャンボタクシーを利用するゴルフ客が多い。さとうきびの収穫時期には、地元客のタクシー利用が減るので、冬場に利用してくれるゴルフ客はありがたい。				

市内主要なタクシー会社（A社・B社）のヒアリング結果（2023年1月1日～27日・17名参加）

©2023 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

## 宮古島市における交通インフラの状況

### 市内レンタカー業界の状況

2022年8月から2023年1月にかけて、従業員が減少した会社、台数が増加した会社、台数・従業員数ともに減少した会社など各社の状況はまちまちである。1月は需要が落ち着いてきてはいるものの、ゴルフ客の増加などで人手不足となっている状況もある。時給を上げてても人員確保が困難であり、今後需要が増加しても対応しきれないという声や地元学生の学校卒業後の島外流出を課題とする声があがっている。

	レンタカー会社A社			レンタカー会社B社		
	コロナ前	2022.08	2023.01	コロナ前	2022.08	2023.01
申込件数（月間）	—	2,100	—	—	—	—
レンタカー台数	450	400	400	400	300	330
従業員数	25	18	15	18	18	18
2022年8月時点	8月下旬まで満車。2020年に下地空港の営業所を増設。車両の製造が止まっていることに加え、修理店様のスタッフも減少し、対応が追い付かない。			8月中旬まで満車。130台の車両のうち10～20台は車検や事故で動かさない。		
2023年1月時点	人員不足でオペレーションが間に合わない。建築関係に人が取られている。建築関係は本州からも人が来ている。時給を上げてても人が来ない。学校卒業後島外に人材が流出する。			最近も落ち着いてきている。正月もそれほどひっ迫はしなかった。レンタカーの台数は増増。		
	レンタカー会社C社			レンタカー会社D社		
	コロナ前	2022.08	2023.01	コロナ前	2022.08	2023.01
申込件数（月間）	—	—	—	—	80%	90%
レンタカー台数	120	150	150	100	130	95
従業員数	20	11	11	12	6	4
2022年8月時点	8月下旬まで満車。キャンセル待ち：7月130件、8月140件。現在のスタッフ数でギリギリ回している。			8月中旬まで満車。130台の車両のうち10～20台は車検や事故で動かさない。現在のスタッフ数ではこれ以上台数を増やせない。		
2023年1月時点	観光客は戻ってきている。例年は年末年始を過ぎると落ちるが、今年は毎週末ゴルフ客などで利用が多い。人員は増やしていない。			人員が減少しているため、レンタカーの台数も減らしている。現在4名のスタッフは近々さらに1名減少の予定。人手不足問題をなんとかしない限り、これ以上需要が増えても対応できない。		

## 宮古島市における交通インフラの状況

### 市内バス業界の状況

コロナ前から減車をしており、2022年8月時点で路線バスからのローテーションもあり、貸切バスドライバーの不足はしていないとの回答もあった。一方、2023年1月時点で需要が増えてきており、団体の申し込みを断るケースが発生している。

	バス会社A			バス会社B		
	コロナ前	2022.08	2023.01	コロナ前	2022.08	2023.01
利用客数（月間）	—	—	—	—	—	—
バス台数	23	16	16	25	20	20
乗務員数(貸切専属)	8	2	2	24	22	21
全乗務員数(路線)	16	12	12	27	24	24
2022年8月時点	バスの減車は、クルーズ客がゼロになったことが主要因。貸切専属の乗務員は少ないが、路線バスからのローテーションもあり、現在不足してはいない。			バスの減車は、クルーズ客がゼロになったことが主要因。乗務員は貸切専属以外に、路線バスからの配属もある。※上記台数以外に中型バス1台、小型バス1台がある。		
2023年1月時点	需要は増えてきている。団体の申し込みを断るケースもある。			コロナ前の需要近くまで回復している。旅行支援は40%割引の時と比べて20%割引では効果が少ない。需要に追い付かず、団体バスの申し込みに対して、断らざるを得ないケースもあった。		

## ループバス運行概要（実績サマリー）



2020年度より運行しているループバスについての実績は以下のとおり。2022年度は2月未までとなり、これまでで最長の203日間の運行となる。今年度の延べ乗降者数は12月末時点で45,760名。属性別では大半が観光客等となっている。次年度も運行予定。

	2020年度運行	2021年度運行	2022年度運行
運行期間	2020/10/25～ 2021/1/31 (99日間)	2021/7/12～9/5 2021/12/26～2022/1/3 (51日間)	2022/8/10～2023/2/28 (203日間)
運行会社	宮古協栄バス・八千代バスタクシー・中央交通 3社による共同運行		
延べ乗降者数	3,152名 (1日当り32名)	5,648名 (1日当り111名)	45,760名※12月末時点 (1日当り327名)
属性別乗降車数	観光客等:2,237名 市民:915名	観光客等:4,926名 市民:722名	観光客等:44,692名 市民:1,068名 ※12月末時点
乗車券	1日乗車券のみ	①1回乗車券 ②1日/2日/3日乗車券	①1回乗車券 ②1日乗車券
島内ホテルとの連携	—	市内2ホテル(宿泊客・従業員フリー乗車)	市内6ホテル(宿泊客・従業員フリー乗車)

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

4

## 第2回観光実務担当者会議における意見・質問



### 【意見】

- 最近7名のタクシー乗務員が増えた。3月から空港のサイネージ、宮古テレビやラジオで乗務員の採用も含めてコマーシャルを打っている。タクシーは定年退職者が入りやすく若い人はあまり来ないが、最近では40代も多い。新規の会社も増えている。徐々に増えていくのではないかと。
- 駐車場も問題だ。バスが詰まり身動きが取れなくなる。是非この機会に駐車場を確保できないか。駐車場が確保できていないとバスもタクシーも動きにくい。利用しやすい駐車場作りをしていただきたい。
- コロナ禍でやめたタクシードライバーも戻ってきているケースもあり、稼働率も徐々に上がってきて台数も増やした。高齢者が多い。以前は通常7～8割の稼働だったが、5割の会社もある。一概には言えない。220台から現在180台まで減ったが、また上がってきている。島外からの問い合わせもある。今後は増えていくのではないかと。
- 宮古全体で把握していないが、クルーズに合わせてドライバーを増やしたので、台数よりも人数が多いという逆転現象も起きた。すべての台数を全部出すことはない。9割くらいで、あとは予備で持っている。ドライバーの人数は揃っている。
- この部会で、受入キャパシティについての調査を、今年度続きをするということだったが、本日の議題には入っていなかった。市民の関心も高い領域である。地下水の使用可能量と観光客の受け入れは大丈夫なのかという意見がよく寄せられる。何らかの答えを出すべきではないか。来年度より具体的な話し合いができればと考えている。

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

5

## 2-4. 候補DMOとの連携強化について

本年度より候補 DMO である一般社団法人宮古島市観光協会との連携を強化し、以下の取組みを行った。

### 1. 観光推進協議会の事務局を共同で担当した。

観光推進協議会の運営にあたり、観光商工課と宮古島市観光協会が共同して推進するように体制変更を行った。

### 2. 宿泊税導入にあたっての連携

#### ①事業者ヒアリングのアポイント調整・同行

宿泊税の導入検討にあたり、市内宿泊事業者へのヒアリングを行った。その際に宮古島市観光協会が宿泊先へのアポイントを取り、観光商工課職員に同行してヒアリングを行った。

### 3. ヒアリング実施前の打合せ

宿泊税導入に関する事業者ヒアリング実施に先立ち、宮古島観光協会との連携のもとに推進するため、打合せを行った。

日時 2022年9月27日(火) 15:00~16:00

場所 宮古島市役所

参加者：観光協会、観光商工課、JTB 総合研究所

議題：宿泊税導入に伴う、事業者説明会の開催方法について

## 2-5. 観光地整備計画の進捗確認

資料3

### 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について

令和4年7月

宮古島市観光推進協議会 事務局

1

実績：令和3年度（2020年度）

・令和3年度の入域観光客数は、コロナウイルス感染症の影響が長引いており、約43万人。空路は前年比約120%。海路はクルーズ船の寄港がなく前年同様0。観光収入は、約413億円で前年対比約121%。

	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	2026年度(目標)
<b>入域観光客数(人)</b>	1,143,031	1,061,323	359,592	435,262	2,000,000
（うち空路観光客）	688,874	733,391	359,592	435,262	1,050,000
（うち海路観光客）	454,157	327,932	0	0	950,000
<b>観光収入(円)</b>	60,142,026,945	63,634,223,744	34,190,366,952	41,385,146,222	94,900,000,000
（うち空路観光客）	50,383,555,486	59,639,356,120	34,190,366,952	41,385,146,222	78,750,000
（うち海路観光客）	9,758,471,459	3,994,867,624	0	0	16,150,000
観光客1人当たり市内消費額(円)	-	-	-	-	-
（うち空路観光客）	73,139	81,320	95,081	95,081(前年数値)	75,000
（うち海路観光客）	21,487	12,182	12,182(前年数値)	12,182(前年数値)	17,000
<b>入域観光客の満足度</b>	62.9%	69.8%	62.2%	令和4年9月公表予定	75.0%
<b>宿泊・飲食サービス業の事業者数</b>	1,848	国勢調査実施			3,000

\*空路観光消費額：¥95,081/人：令和2年度観光統計実態調査（沖縄県文化観光スポーツ部）

\*海路観光消費額：¥12,182/人：令和3年度外国人観光客実態調査報告書（沖縄県文化観光スポーツ部）

\*入域観光客の満足度：令和2年度観光統計実態調査（沖縄県文化観光スポーツ部）

\*宿泊・飲食サービス業の事業者数：国勢調査（1,848人は2015年10月の数値）

2





#### コロナ禍により、観光客数が少ない状況が継続

- ・コロナウイルス感染症の影響で、観光客数が少ない状況が継続。
- ・特産品のネット販売などは好調。
- ・多くの取り組みが中止（各種イベント、セミナー、研修、教育旅行）

#### 国内需要について

- ・国内航空については、徐々に回復の兆しを見せている。
- ・海外旅行が見通せない中、国内需要として沖縄が選ばれることが期待される。
- ・「量から質」の観光推進。（滞在日数の増加、客単価のアップ）

#### インバウンドについて

- ・インバウンド再開に向けた受入体制の強化が必要。
- ・飲食・レジャーなどの観光サービス、通訳ガイドなどは、コロナ以前から不足
- ・withコロナにおいても不足が予想される。
- ・キャッシュレスについては、官民連携で取り組み、好調に普及。

#### クルーズ船受入について

- ・令和3年度においては、寄港回数0
- ・国際クルーズ：再開の見通しが難しい状況。
- ・国内クルーズ：令和4年6月「ばしふいっくびいなす」が2年4か月ぶりに寄港。  
今後の寄港予定はない。
- ・再開後は、外国人観光客が団体に訪れると想定される
- ・団体客の受入体制を整備が必要。

3

## 1. エコアイランド「宮古島」から世界に誇れる観光ブランドづくり



### (1) 「千年先の、未来へ。」世界レベルのエコアイランド形成に向けた取り組み

課題：①エコ活動に係るコミュニケーション・プラットフォームの構築及び自分事化の促進が必要。  
②市民や観光客が楽しみながら、ともにエコ活動を進めるための仕組みづくりが必要。

対策→エコ関連の取り組みを観光と紐付ける。  
→関係機関で連携し、エコアイランド及びSDGsの取り組みの周知啓蒙を行う。

### (2) 次世代リピーターの育成に向けた島の受入環境づくり

課題：①教育旅行は少子化により、減少が見込まれる。行き先も多様化している。  
②インバウンド需要が、モノからコト消費へ転換している。\*コロナで教育旅行、インバウンドが減少

対策→体験・滞在型観光のメニューを増やし、誘客に努めるとともに、インバウンド対応を強化する。

### (3) 持続可能な観光地域づくり

課題：①オーバーツーリズムにならない、環境に配慮した受入環境整備が必要。

対策→観光受入容量のキャパシティについて、評価・査定を行っており、今後、受入目標の詳細を定める。

→海岸の利活用ルールを整備し、海岸美化・環境保全に努める。

4

## 2. 観光を基軸とした地域経済の構築



### (1) 観光と農業・水産・地場産業の連携による地域経済の振興

課題：①宮古島農水畜産物を使用した土産物の開発およびブランディング（6次産業化）。  
：②地産地消を推進するため、農水畜産物を安定供給できる仕組みづくりが必要。  
：③事業所の事業規模が小さく生産性が低い。

対策→山羊肉の域内流通と地元調達に向け、アンケート調査及び試食会を実施した。  
今後も農水産業と観光の連携を図る。  
・製造加工販売業へ業種転換を図るための設備投資に係る補助金の事業設計支援

### (2) 美しい自然と景観を活用した付加価値づくり

課題：①島の美観保持、環境保全に努め、宮古島の魅力をSNS等で効果的に発信する。

対策→観光受入容量のキャパシティについて、評価・査定を行っており、数値に基づいた美観保持・  
環境保全を行う。

### (3) 観光を担う人材の育成・確保

課題：①観光業の従事者不足、事業者の経営資源、情報収集力が弱い。  
：②雇用環境の悪化、魅力ある雇用環境の創出。

対策→経営力向上セミナーの開催。

## 3. 満足度向上につながる受入基盤・環境の整備と情報発信



### (1) 周遊性を高める仕組みづくり

課題：①市内には多くの文化財が点在しているが、保護が中心で、活用の面では整備不足感がある。

対策→史跡・文化財を活用した観光をさらに推進していく。

### (2) 平良港みなとまちづくりの推進と空港の活性化

課題：①令和3年度はクルーズの実績0。  
令和4年6月に国内クルーズが寄港したが、今後の寄港は未定。  
：②下地島空港の貨物取扱やCIQの常駐化によるプライベートジェット等の受入等の機能強化。

対策→コロナの影響で先行き不透明だが、インバウンド受入対策の強化が必要。  
→下地島空港における航空輸送に向けた実証やCIQ常駐化に向けた要請。

### (3) 多様な観光サービスや観光受入コンテンツの拡充

課題：①特産物を活かしていない状況にある。  
：②生活や文化に触れあう観光プログラムはあるものの、多言語対応不足。

対策→特産品を活用できる観光コンテンツ作り  
→カップルアニバーサリーーツーリズム、MICE、スポーツイベント等、受入メニューの多様化、  
多言語化対応に努める。

### 3. 満足度向上につながる受入基盤・環境の整備と情報発信



#### (4) 安全・安心・快適な観光地づくりの推進

課題：①海岸利用に関するルールが整備されていない。  
②自然環境の保全と、海岸利用者の利便性向上のバランスが取れた仕組みづくり。

対策→海岸利活用ルールを整備する。

#### (5) 案内標識・多言語対応・通信環境の拡充

対策→観光施設（民間事業者）のWi-Fi設置の促進、必要に応じた看板の設置。

#### (6) キャッシュレス決済対応拡充

対策→キャッシュレスの普及促進に努め、消費単価アップを目指す。

#### (7) 地元住民の取組の情報発信

課題：①地域の人にフォーカスした情報発信が少ない。  
②効果的かつ継続的な情報発信、継続運営のための収益化

対策→市役所、観光協会などで、発信する情報の内容・方向性を共有し、連携していく。

7

### 4. 市民主体による観光まちづくり



#### (1) 市民と観光客の理解促進と動機づけ

課題：①観光による市民生活への影響の低減化と、経済振興を市民が実感できる仕組みづくり。

対策→観光受入容量のキャパシティについて、評価・査定を行っており、市民に配慮した観光地づくりを行う。  
→地域に経済的メリットがでる仕組み構築。

#### (2) 担い手育成の推進

課題：①コロナの影響で人材・設備等が減少しており、回復が容易でない。

対策→新たな仕組みによる対策や慢性的な人材・設備不足への対応。

#### (3) 学校における農業、水産業、観光が連携した観光教育の実施

対策→学校における観光に関する講義、シンポジウムの開催など、観光と学校教育を関連づける。

#### (4) 市民の地域満足度向上への取組み推進

課題：①観光施設などの整備・管理費用が、増加している。

対策→観光地整備・管理における利用者負担について、法定外目的税（宿泊税）制度設立を推進する。

\* 各施策の課題・対策の抽出について



- ① 観光振興基本計画の各施策の実施主体ごとに、具体化シート（個別シート）を作成。
- ↓
- ② 具体化シート（個別シート）を業務推進計画シートに転記して集約。
- ↓
- ③ 業務推進計画シートの実施主体を統合し、評価シートを作成して、課題・対策を抽出。

① 具体化シート(個別シート)



② 業務推進計画シート



③ 評価シート

\* 業務推進計画シート、評価シートの提供は、事務局（観光商工課）まで、お問い合わせ下さい。

E-mail [kanko@city.miyakojima.lg.jp](mailto:kanko@city.miyakojima.lg.jp) TEL 0980-73-2690

## 2-6. 伊良部牧山公園意見交換会

### (1)伊良部牧山公園意見交換会実施概要

1. 実施日:令和4年6月22日(水)
2. 開催時間 16:15~17:45
3. 開催場所:伊良部公民館
4. 目的:近隣住民の利用状況の現状や活用、整備に対する希望・不安・課題などを把握する
5. 議題:
  - ①牧山公園(展望台)の利用頻度、利用目的
  - ②現状、満足な点、不満な点
  - ③牧山公園にこれから期待すること・要望・どんなことをしたいか
  - ④牧山公園を改修・整備する場合の留意点
  - ⑤その他
6. 参加者  
伊良部島住民8名  
観光商工課:川平課長、川満係長  
JTB 総合研究所:岩佐嘉一郎、小川悠生

## (2)伊良部牧山公園意見交換会実施結果

### <意向調査のまとめ>

- ・ 牧山公園の整備に対しては概ね賛同の意向が示された。
- ・ 展望台、駐車場、トイレ、遊歩道などハード面の整備が必要との意見が多い。
- ・ 下牧エリアにも駐車場を設け、下牧エリアから展望台への導線が必要である。
- ・ 下牧エリアの一部には手をつけてはいけないエリアもあり、整備に当たっては配慮が必要である。
- ・ 蛍や星空など、夜間のニーズも検討する必要がある。
- ・ 地元経済に貢献する仕組みづくりが重要である。
- ・ 整備の進行状況について、定期的に住民への情報提供を行う必要がある。

### 1) 牧山公園（展望台）の利用頻度、利用目的、満足な点、不満な点

#### ①プラス意見

※遠足や学校行事等での利用、休日のレクリエーション利用など

- ・ 内地から友人が来た際に行く。ライトがないため星がきれい。蛍を見せた時にも行く。
- ・ 下牧の整備すれば散策にも十分に耐えられる。
- ・ 下牧を利用するなら駐車場が必要だ。
- ・ 車やバスが展望台近くまで入れるようにしてもらいたい。
- ・ 展望台までの道路を作り、必要な場合にだけ入れるようにする。

#### ②マイナス意見

- ・ 観光客がターゲットの整備であれば良い。地元の人には行かない。
- ・ 展望台まで距離があると高齢者はあきらめてしまう。
- ・ 今では遠足でも使っていない。ビーチができてからは、佐良浜に行くようになった。

### 2) 牧山公園にこれから期待すること・要望・どんなことをしたいか

#### ①プラス意見

- ・ この景色は宮古島でここにしかない。
- ・ 整備されれば宮古島市でも1, 2を争うランドマークになる。
- ・ フォトウェディングにも使える。
- ・ 展望台は内地のテレビ局関係者も喜んでいて。
- ・ かつて子どもの遊び場で、下まで行くコースがあった。
- ・ 下牧が整備されれば子どもと一緒に行ってみたい。
- ・ 下牧にかつて植えられていた菊の花を、もう一度植えてほしい。
- ・ 遊具が老朽化し魅力がない。

- ・ 牧山公園を再整備する事業が動き出したことに期待している。
- ・ 展望台は老朽化しているため、建て替える方が良い。
- ・ 駐車場とトイレの整備は必須だ。

#### ② マイナス意見

- ・ 展望台は新しく作り直した方が良い。
- ・ 展望台の高さは、現状のままで良い。
- ・ 自然と共存した建物を作ってほしい。
- ・ 条例に沿った街づくりを行い、車いすでも登れるようにしてほしい。
- ・ 今の時代に即して、バリアフリーも考慮し作り直してはどうか。
- ・ 遊歩道や木の間隔を広げ、公園をよく見えるようにしてほしい。
- ・ 下までの導線を考えながら整備してもらいたい。
- ・ 展望台横の陣地を再整備してもらいたい。
- ・ 親子がふれあえる場所、学べる場所にしてほしい。
- ・ 水道を整備するべきだ。
- ・ 展望台までの遊歩道を短くしてはどうか。
- ・ 現在あるトイレを撤去して、バスが停められるようにする。
- ・ 管理棟をトイレにする。今あるものを利用するべきだ。
- ・ レストランにトイレやシャワーを設置してはどうか。

### 3) 牧山公園を改修・整備する場合の留意点、その他

#### ① プラス意見

- ・ 下牧には佐良浜の神様が祭られている。気を付けるべきだ。
- ・ 下牧は怪しげな話も多く、地元の人には行かないのではないかな。
- ・ 下牧も遊歩道で通れるようにしてもらいたい。
- ・ 展望台から駐車場にかけて桜があるため、活用してもらいたい。
- ・ 今回のように地元と話し合いながら進めてもらえるとありがたい。
- ・ 自然が壊され、地元経済に繋がらない状況は避けてほしい。

#### ② マイナス意見

- ・ ふるさと納税、クラウドファンディング等を活用してはどうか。
- ・ 地元主体で事業を行い、地元に戻元してほしい。
- ・ 展望台近くの東屋には神様を祭った記念碑がある。を残しておくべきだ。
- ・ 地元の食材を使った料理を提供してもらいたい。
- ・ 地域コミュニティ復活のため、地元で管理を委託してはどうか。
- ・ 伊良部商工会に、完成後の売店等を担当してもらってはどうか。
- ・ 展望台の入場料を取って、環境整備費にまわしてはどうか。
- ・ 補助金を利用し Wi-Fi などのインフラを整備してほしい。

## 2-7. 伊良部牧山公園に関する観光客ニーズ調査

### (1)伊良部牧山公園に関する観光客ニーズ調査実施概要

1. 実施日:令和4年8月20日(土)・21日(日)
2. 実施場所:
  - ①宮古空港出発ロビー
  - ②下地島空港出発ロビー
3. 調査目的:牧山公園整備にあたり、宮古島市及び牧山公園を訪れる観光客のニーズを把握し、整備計画に反映する
4. 調査対象:宮古島市訪問中に牧山公園を訪れた観光客
5. 調査内容:

牧山公園(展望台)の認知度、訪問経験、訪問目的、満足度(とその理由)、不満(とその理由)、参加形態、滞在時間、交通手段、前後の立ち寄りスポット、伊良部島内での消費額、宮古島市内(伊良部島)でしたこと、牧山公園でしたこと、牧山公園にこれから望むこと など
6. 回収サンプル数  
163 サンプル

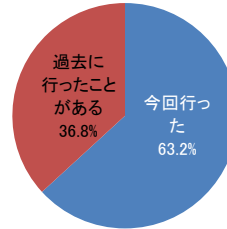


## (2)伊良部牧山公園に関する観光客ニーズ調査実施結果

Q1. 展望台のある伊良部島の「牧山公園」に行ったことはありますか？

カテゴリー名	回答数	回答率
今回行った	103	63.2
過去に行ったことがある	60	36.8
行ったことはない	0	0.0
全体	163	100.0

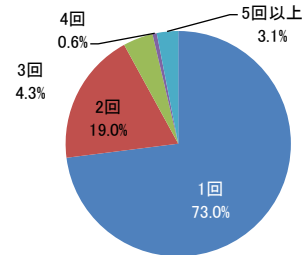
牧山公園訪問経験(n=163)



Q2. 牧山公園にはこれまでに何回行きましたか？

カテゴリー名	回答数	回答率
1回	119	73.0
2回	31	19.0
3回	7	4.3
4回	1	0.6
5回以上	5	3.1
全体	163	100.0

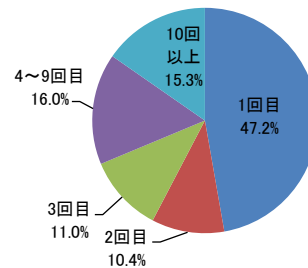
牧山公園訪問回数(n=163)



Q3. 宮古島を訪れるのは、今回で何回目ですか？

カテゴリー名	回答数	回答率
1回目	77	47.2
2回目	17	10.4
3回目	18	11.0
4~9回目	26	16.0
10回以上	25	15.3
全体	163	100.0

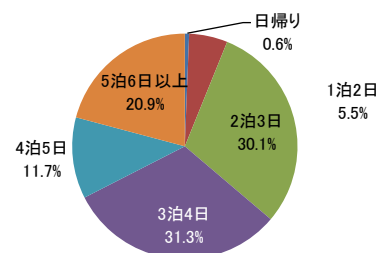
宮古島市訪問回数(n=163)



Q4. 今回の宮古島市の滞在日数は何日ですか？

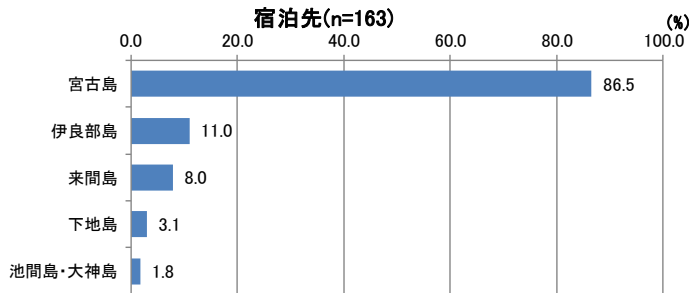
カテゴリー名	回答数	回答率
日帰り	1	0.6
1泊2日	9	5.5
2泊3日	49	30.1
3泊4日	51	31.3
4泊5日	19	11.7
5泊6日以上	34	20.9
全体	163	100.0

宮古島市滞在日数(n=163)



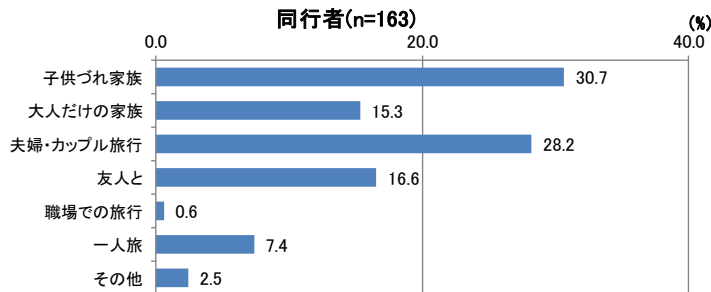
Q5. 今回の宿泊先は、宮古島のどのエリアにありますか？(いくつでも)

カテゴリー名	回答数	回答率
宮古島	141	86.5
伊良部島	18	11.0
来間島	13	8.0
下地島	5	3.1
池間島・大神島	3	1.8
全体	163	100.0



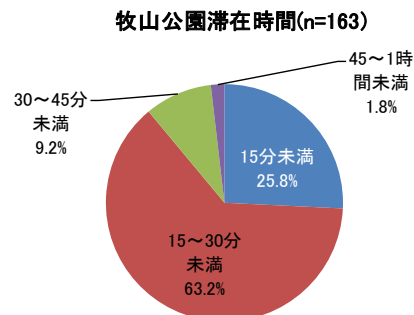
Q6. 今回宮古島にはどなたと一緒に来ましたか？

カテゴリー名	回答数	回答率
子供づれ家族	50	30.7
大人だけの家族	25	15.3
夫婦・カップル旅行	46	28.2
友人と	27	16.6
職場での旅行	1	0.6
一人旅	12	7.4
その他	4	2.5
全体	163	100.0



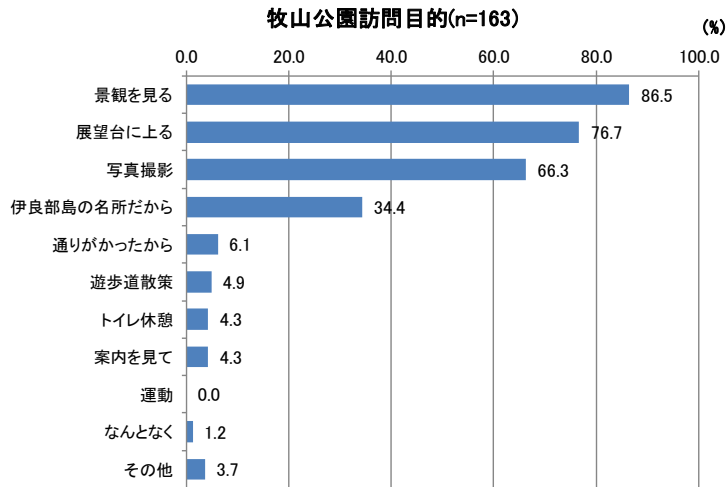
Q7. 直近の牧山公園訪問の時の滞在時間を教えてください。

カテゴリー名	回答数	回答率
15分未満	42	25.8
15～30分未満	103	63.2
30～45分未満	15	9.2
45～1時間未満	3	1.8
1時間以上	0	0.0
全体	163	100.0



Q8. 直近の牧山公園への訪問目的を教えてください(いくつでも)

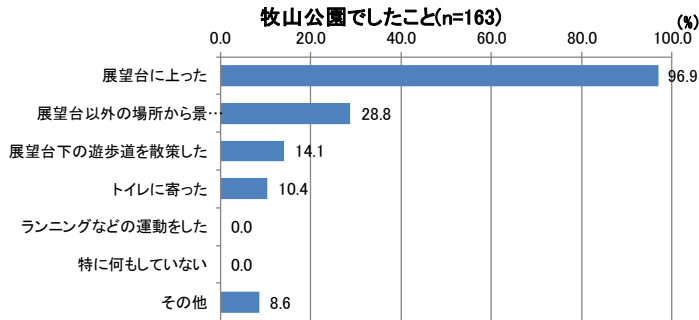
カテゴリー名	回答数	回答率
景観を見る	141	86.5
展望台に上る	125	76.7
写真撮影	108	66.3
伊良部島の名所だから	56	34.4
通りがかったから	10	6.1
遊歩道散策	8	4.9
トイレ休憩	7	4.3
案内を見て	7	4.3
運動	0	0.0
なんとなく	2	1.2
その他	6	3.7
全体	163	100.0



その他の回答	回答数
星空を見る。	2
食事。	2
ZIP!のおどろくを見たので気になって。	1
ハッピー防空壕?!←立ち入り禁止でした。	1

Q9. 直近の牧山公園訪問ではどのようなことをしましたか？(いくつでも)

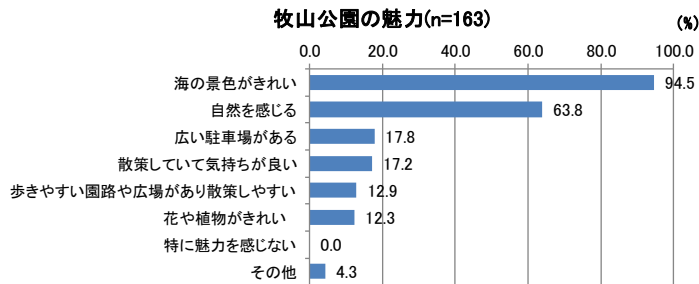
カテゴリー名	回答数	回答率
展望台に上った	158	96.9
展望台以外の場所から景色を眺めた	47	28.8
展望台下の遊歩道を散策した	23	14.1
トイレに寄った	17	10.4
ランニングなどの運動をした	0	0.0
特に何もしていない	0	0.0
その他	14	8.6
全体	163	100.0



その他の回答	回答数
写真撮影。	6
写真や動画を撮る。	2
食事。	2
お墓を見た。	1
ジャンプ(TIKTOK用)。	1
夜だったので、展望台のすぐ下で星空を見た。	1
最後まで登りませんでした。展望台の下から夜空を眺めました。	1
ハッピー防空壕?!←立ち入り禁止でした。	1

Q10. 牧山公園が魅力と感じるのはどのような点ですか？(いくつでも)

カテゴリー名	回答数	回答率
海の景色がきれい	154	94.5
自然を感じる	104	63.8
広い駐車場がある	29	17.8
散策していて気持ちが良い	28	17.2
歩きやすい園路や広場があり散策しやすい	21	12.9
花や植物がきれい	20	12.3
特に魅力を感じない	0	0.0
その他	7	4.3
全体	163	100.0

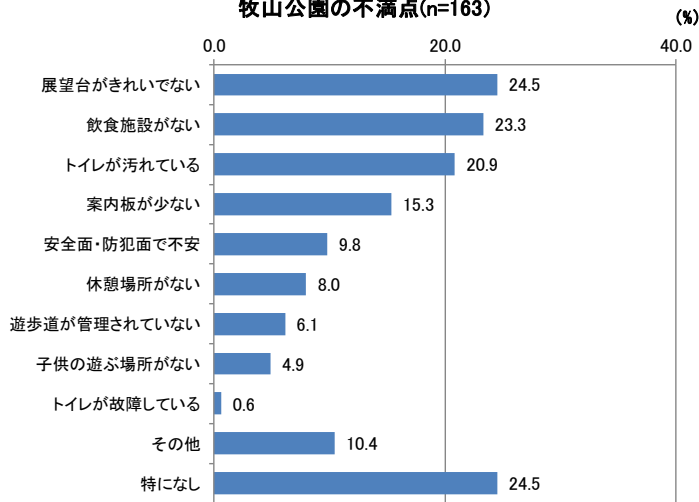


その他の回答
初めて行ったが景色がキレイで感動した。
清掃が行き届いている。
真っ暗だったので景色はきれいだと思う。
宮古島の中で唯一の高台だから。
伊良部大橋がきれいに見える。
夏は暑くてお散歩できず残念。
伊良部大橋が見える。

Q11. 牧山公園についての不満な点はなんですか？(いくつでも)

カテゴリー名	回答数	回答率
展望台がきれいでない	40	24.5
飲食施設がない	38	23.3
トイレが汚れている	34	20.9
案内板が少ない	25	15.3
安全面・防犯面で不安	16	9.8
休憩場所がない	13	8.0
遊歩道が管理されていない	10	6.1
子供の遊ぶ場所がない	8	4.9
トイレが故障している	1	0.6
その他	17	10.4
特になし	40	24.5
全体	163	100.0

牧山公園の不満点(n=163)

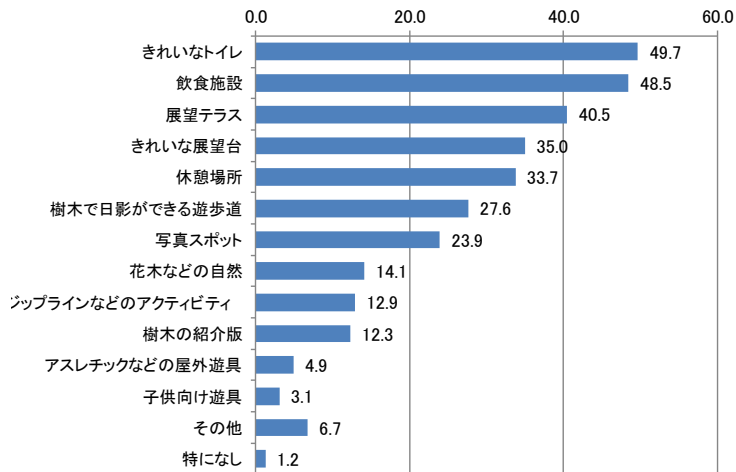


その他の回答	回答数
トイレの場所がわかりにくかった。	2
安全面・防犯面が不安で、一人ではいけない感じ。	1
手作り感?ハリボテ感が強い。	1
暑い。	1
暑い。遊歩等の日影が少ない。	1
暑さ対策。	1
駐車場から少し遠い。	1
駐車場の日影が少ない。	1
展望台にゴミが落ちていて悲しかった。旅行者のマナーの問題か。	1
展望台に行くまで日影がないのがつらい。	1
日影が少ない。	1
風がきつくてゆっくりできなかった。	1
木が邪魔だと感じる時。	1
夜だと立ち寄るのが怖い。最低限の灯があると良い(補助灯や誘導灯等)。	1
夜は暗くて少し怖かった。	1
夜は暗そう。	1

Q12. 牧山公園でもっと長い時間楽しむために、あったら良いと思うものは何ですか？(いくつでも)

カテゴリー名	回答数	回答率
きれいなトイレ	81	49.7
飲食施設	79	48.5
展望テラス	66	40.5
きれいな展望台	57	35.0
休憩場所	55	33.7
樹木で日影ができる遊歩道	45	27.6
写真スポット	39	23.9
花木などの自然	23	14.1
ジップラインなどのアクティビティ	21	12.9
樹木の紹介版	20	12.3
アスレチックなどの屋外遊具	8	4.9
子供向け遊具	5	3.1
その他	11	6.7
特になし	2	1.2
全体	163	100.0

牧山公園で長時間楽しむ為にあったら良いと思うもの(n=163) (%)



その他の回答
クーラーがほしい。
サウナ。
海が見える芝生。
江の島のシーキャンドルの周辺みたいだと良いですね。
今のままが良い。
写真を撮る為のカメラスタンド。
写真を撮る用(自撮り用)の台。
星空が見やすい場所。
双眼鏡。
道の駅。
夜間も利用できる何か。

Q13. 牧山公園にあると嬉しいアクティビティは、どのようなものですか。

牧山公園にあると嬉しいアクティビティ	回答数
カフェ。	4
ジップライン。	3
セグウェイ。	3
アスレチック。	2
展望タワー。	2
望遠鏡。	2
ロープウェイ。	2
a vending mashine	1
インスタ映えする写真スポット。カフェで南国らしい特別メニュー。星空や夜景ツアー。	1
ガイドツアー。	1
カメラスポットを教えてください。	1
ジップライン、カート。	1
ジップライン、バギーorカート。	1
ジップライン、ブランコとか(海に向かってこぐ感じ)。	1
そのままが良いかも。ごみが増えるし…	1
そのままが良いと思う。	1
ドローン等。	1
バンジージャンプ。	1
ハンモック。	1
フォトスポット。	1
ブランコ、ベンチ。	1
ポケモンがいっぱい出現する。	1
もっと高くからの景色を楽しみたいです。パラセーリング・ドローン等。	1
ゆっくりできるベンチ。	1
ルーフトップテラス。海近くまでの遊歩道。	1
伊良部大橋との何らかのコラボ。	1
伊良部島の案内や成り立ち。バギー。	1
飲食(カフェ)等。	1
飲食店、涼める休憩所。	1
飲食店。	1
屋外遊具。	1
何か涼めるもの。	1
海に向かってすべり台。	1
海まで繋がるジップライン。	1
景色だけで充分。	1
景色を見ながら食べれるカフェ。	1
高い展望タワー。	1
撮影スポット。	1
撮影スポット。ブランコ。	1
山から海に張り出したテラスがあると良い!	1
子供が喜びそうな遊具。	1
子供が遊べる遊具(きれいな)、涼める場所。	1
子連れの場合はアスレチック等。それ以外は特になし。景観のみを楽しみたい。	1
自然のままがいい。	1
写真映えする所。	1
少し遊べる所。	1
星の観察。	1
展望台なので何もなくて良いと思います。	1
展望台に双眼鏡。	1
動植物園。	1
望遠鏡など。	1
夜景が見れる場所を作ってはどうか。ビアガーデン。	1
涼しい場所。	1
涼しい木陰。	1
ないほうが良い。	3
ないもまた良いかと。	1
特に不要に感じた。	1

Q14. 宮古島に限らず、他の展望台を訪問した際に印象に残った施設や楽しみ方があれば教えてください。

他の展望台を訪問した際に印象に残った施設や楽しみ方	回答数
景色。	6
海の美しさ。	4
望遠鏡。	4
写真撮影。	3
写真スポット。飲食施設等のSNS映えスポット。	2
夜景。	2
360°の景観を楽しめる施設。	1
Photoスポット。	1
イムギヤーマリンガーデン展望台。	1
インギヤーマリンガーデン展望台:写真撮りました。	1
ウミガメが見られたりした施設。	1
お土産屋、小さな食事処。	1
カートやロープウェイでの往来。	1
ガイドが案内してくれた。	1
カフェ。	1
カフェやおいしいアイスがあり、ゆっくりできる。	1
クーラーの利いた飲食スペースがあれば、展望台なら長居できる。	1
ジップライン、マリンアクティブ。	1
ここでしか見られないモニュメント等、記念に残る写真を残せると嬉しい。	1
その場所でしか撮れない写真スポット。	1
どこも海の景色がとても良かった。	1
のんびり座れる場所。	1
フォトスポット。	1
ぼーっとできる所が良い。	1
メモリアルパーク宮古島。	1
ロープウェイ、ケーブルカー。	1
伊良部大橋の全体像(完成予定)の看板、もっと詳しいといいかも。	1
映え写真。	1
屋台などの飲食店があると楽しいと思う。	1
下地島の通り池。	1
何が見えるか記載のある看板。	1
海外だったが、海に向かってこぐ大きなブランコがあったのは印象に残っている。	1
顔出しパネル。	1
休憩できるオシャレcafé。	1
空中散歩的なガラス張りの場所がある!	1
景色が見えるカフェ、海水浴。	1
景色を見たなら終わりにしてしまう為、他に楽しめる工夫があるといい。飲食店であったり映えスポットを作ったり、名物を売ったり。	1
江の島シーキャンドル。	1
写真がきれいに撮れること。	1
写真撮るのがベース。	1
蝶の写真を撮る。ドローン撮影。	1
新城ビーチ近くの展望台のトイレはキレイだった。	1
星空がきれいそう。	1
星空が見たいが虫とかが怖い。	1
絶景写真スポットとか…。	1
素敵な写真を撮る。	1
大阪通天閣ですべり台。	1
地図があると嬉しい。	1
眺めの良い場所。	1
展望台からバンジージャンプ。	1
展望台から見える島や橋の名前があるとわかりやすく良い。	1
展望台が見える景色の案内板(建物や施設の名前があるもの)。	1
展望台スタンプラリー。	1
東平安名崎。灯台開放日で登れたこと。※きれいなトイレは必須。	1
特にないが、竜宮城展望台や池間大橋脇の展望台の方が美観で楽しかった。	1
日よけがない場所で写真がキレイに撮れた。	1
函館の夜景。夜景を見ながら洋食ディナー。/青森の田んぼアート。	1
比がロードの海の眺めは素晴らしかった。	1
方向毎の地名表示。	1
望遠鏡。そこにある木々の説明。ハンモックでのんびり過ごす。	1
望遠鏡がある。景色の紹介。	1
夜景、リフト。	1
与那覇前浜で泳ぐ。	1
来間の階によって違う景色が見れる展望台。	1
来間大橋のたもとの展望台。	1
来間島龍宮。	1
竜宮城展望台の絵が可愛かったです(モチーフがあつて)。	1

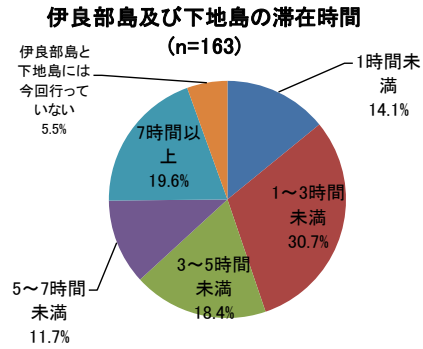


Q15. その他牧山公園についてお感じになる点を教えてください。

牧山公園について感じる点	回答数
古く感じた。	3
景色がキレイ。	2
寂しい感じがした。	2
17年前に来た時と同じで懐かしかった。	1
quiet place to look at the sea.Beautiful nature around.	1
あまり知られていないが、景観が良いので若い人中心に魅力を感じるものがほしい。	1
あまり知られていない気がする。	1
お花がキレイでした。サンセットの空が印象的でした。	1
きれいな景色でした。	1
キレイに整備されていたが、逆にあまり立ち入ってはいけない場所なのかな〜と。暗い印象も少しありました。	1
サンバのアイデアが良い。眺めが良い。	1
サンバの形はとても印象的で良い。	1
サンバをもっとアピールしては。	1
さらにガイドマップ等で紹介してほしい。	1
バスガイドさんから“さしば”の形を模していると同じました。そういう説明の立て札等があるとありがたいです。	1
もう少しきれいな風に見えたら良いかと思います。	1
もう少し近くまで車で行けると年寄りでも行けます。	1
もっと工夫できるし、アピールするとgood。	1
モニュメントの塗装をし直す。周辺の整備。	1
よくある感じなので差別化がほしい。もう一度行きたい何かを。	1
よく整備されていると思う。	1
案内の看板が少ない。	1
伊良部大橋と海をバックに写真が撮れる展望台がgood!展望台も整備されていてきれいだった。	1
影がなく、日差しが暑かったです。	1
花が少なかった。	1
海がキレイ。難破船が漂着する。暗い。一面の海原。	1
外のあるので虫等がくるのが嫌。	1
帰りに看板を見て、広い公園になっていると気づきました。入口の一つの案内板が見られなくなっているの、入口の案内をまず整えるのとよいと思います。可能であればエレベーターを設置して、もう少し高い展望台があると海岸線が見られて良いです。	1
気持ち良かった。	1
橋から見える牧山の外観。	1
景色がきれいで、とても良かった。	1
景色がすごくキレイで、友達にも勧めたいです。アイス・飲み物(映えそうな)があると若い人がたくさん来るかもしれませんね。	1
穴場感が好きです。	1
建物の塗り替えをしてもよいかも。	1
見晴らしが良かった。	1
古き良き感じで好き。おばあちゃんちで過ごす夏休みを感じて良い。	1
古さを感じるのでキレイにしてほしい。	1
私が訪れた時は人が少なく寂しい感じで、全体的に汚れた感じだったので、今のままでも清掃をまめにしてみたら良いと思う。	1
自然が多く、魅力的だった。時間があればゆっくり過ごしたい。	1
車で戻る際、案内が分かりづらいです。	1
手作り(しっかりしたもの)があると嬉しい。	1
暑く、人がいない。管理されていない感じがする。	1
昭和感。古い看板はなくした方が良い。大橋の完成予定図があった。建物が崩れていてこわい。	1
人がいなくて少し寂しい感じがしました。	1
人気が無い為ちょっと怖い。	1
正直、一度訪問すれば十分と感じた。	1
全体的にキレイな感じはあんまりなかった。	1
大きいクモがいたり、ちょっと怖い。	1
大きなクモなどがいなくて楽しめた。	1
中に入ると島の感じがわからない。	1
展望台からの景色案内が伊良部大橋完成前なのもったいないと思った。	1
展望台からもきれいです。周りの散策が好きです。遊歩道があちこちに伸びていて楽しいです。	1
展望台のイメージが強い。	1
風が強い。	1
雰囲気少し暗く感じる。静かで良いが…。	1
防空壕が閉鎖されていたのが残念でした。	1
防空壕に入れなくて少し残念でした。でも景色がステキでした。	1
夜は少し暗そう。とにかく絶景。	1
夜は星がキレイそうだけど、暗くて行けなそう。	1
癒やし。きれい。涼しくて良いけど、中からだと写真がキレイに撮れない。	1
遊歩道を歩いているとき暑すぎる。木陰があるといいかも。	1
竜宮城展望台より(クモとクモの巣がいっぱいあり怖かった)はるかに清掃が行き届いていた。	1

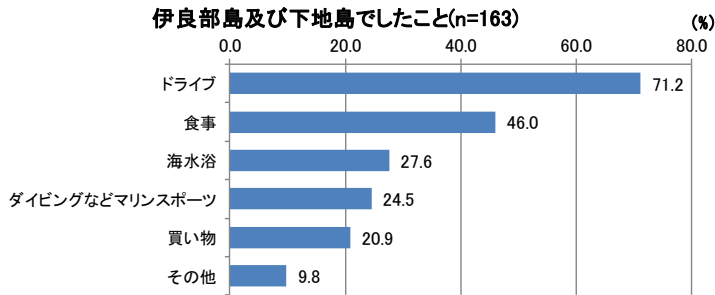
Q16. 伊良部島及び下地島での今回の滞在時間はどれくらいでしたか？

カテゴリー名	回答数	回答率
1時間未満	23	14.1
1～3時間未満	50	30.7
3～5時間未満	30	18.4
5～7時間未満	19	11.7
7時間以上	32	19.6
伊良部島と下地島には今回行ってない	9	5.5
全体	163	100.0



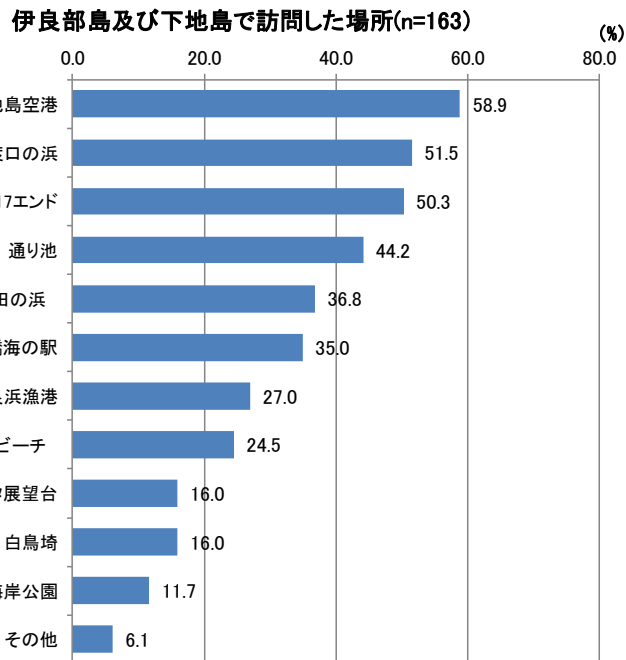
Q17. 伊良部島及び下地島でしたことは、どのようなことですか？(いくつでも)

カテゴリー名	回答数	回答率
ドライブ	116	71.2
食事	75	46.0
海水浴	45	27.6
ダイビングなどマリンスポーツ	40	24.5
買い物	34	20.9
その他	16	9.8
無回答	9	5.5
全体	163	100.0



Q18. 伊良部島及び下地島で訪問した場所(予定を含む)を教えてください。(いくつでも)

カテゴリ名	回答数	回答率
下地島空港	96	58.9
渡口の浜	84	51.5
17エンド	82	50.3
通り池	72	44.2
佐和田の浜	60	36.8
いらぶ大橋海の駅	57	35.0
佐良浜漁港	44	27.0
中の島ビーチ	40	24.5
フナウサギバナタ展望台	26	16.0
白鳥埼	26	16.0
白鳥崎西海岸公園	19	11.7
その他	10	6.1
無回答	5	3.1
全体	163	100.0

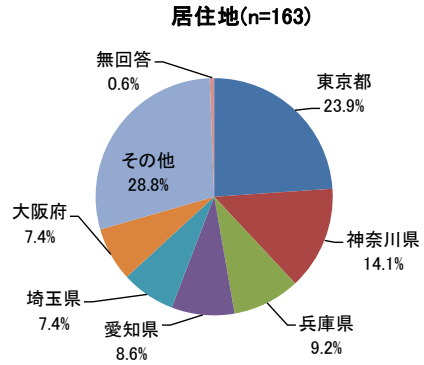


Q19. 伊良部島及び下地島で使った金額を教えてください。

	宿泊費	飲食費	買い物	その他
平均値	26,885	6,954	3,268	8,929
最大値	400,000	100,000	50,000	50,000
最小値	0	0	0	0

Q20. あなたのお住まいの住所(都道府県名)をお答えください。

カテゴリー名	回答数	回答率
東京都	39	23.9
神奈川県	23	14.1
兵庫県	15	9.2
愛知県	14	8.6
埼玉県	12	7.4
大阪府	12	7.4
その他	47	28.8
無回答	1	0.6
全体	163	100.0

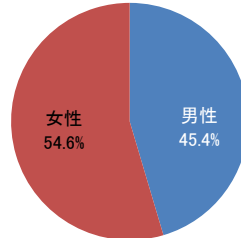


その他の回答	回答数	その他の回答	回答数
千葉県	10	福井県	2
沖縄県	9	フランス パリ	1
静岡県	7	沖縄本島	1
茨城県	4	岐阜県	1
京都府	3	三重県	1
長崎県	2	山形県	1
奈良県	2	栃木県	1
福岡県	2		

Q21. あなたの性別をお答えください

カテゴリー名	回答数	回答率
男性	74	45.4
女性	89	54.6
全体	163	100.0

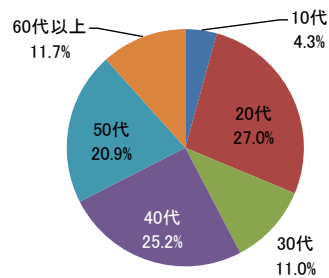
性別(n=163)



Q22. あなたの年代をお答えください

カテゴリー名	回答数	回答率
10代	7	4.3
20代	44	27.0
30代	18	11.0
40代	41	25.2
50代	34	20.9
60代以上	19	11.7
全体	163	100.0

年代(n=163)



## 2-8. その他の追加提案資料

### (1) 宮古島における道の駅構想提案書

 JTB総合研究所

宮古島市観光商工課 御中

# 宮古島における道の駅構想提案書

2022年8月  
株式会社JTB総合研究所

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 無断転載・複製

 JTB総合研究所

### 国の道の駅戦略（ステージの変化）

**第1ステージ(1993年～)**  
『通過する道路利用者のサービス提供の場』  
● 道路利用者が安心して休憩できる場を提供

**第2ステージ(2013年～)**  
『道の駅自体が目的地』  
● 地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的地や地域の拠点に発展

**第3ステージ(2020年～2025年)**  
『地方創生・観光を加速する拠点』  
● 各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など重なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速  
● 「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献

道の駅の第1号は新潟県にある道の駅・豊栄（1993年登録）であるが、それから30年の間に道の駅の果たす役割も、進化してきた。  
現在では「地方創生・観光を加速する拠点」として、多機能化してきている。



「観光で寄り道を楽しむ目的地の提供」  
「道の駅」が観光の目的地に

「地元産品の販売による地域活性化」  
道の駅が地域活性化の拠点に

「防災拠点としての機能」  
道の駅が防災拠点に

#### 新たな「道の駅」ネットワーク



#### 第3ステージの概要



1. 「道の駅」を世界ブランドへ  
2. 「道の駅」を観光の拠点に  
3. 「道の駅」を防災の拠点に  
4. 「道の駅」を地域の拠点に

出典：「道の駅第3ステージの取組について」（国土交通省）

©2022 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 無断転載・複製

新「道の駅」のあり方検討会 提言  
令和元年11月18日

第3ステージ（2020年～2025年）《地方創生・観光を加速する拠点》

「2025年」を目指す3つの姿

1. 道の駅を世界ブランドへ  
（ニューノーマル対応）

<主な取組み>

- キヤッシュレスの導入やECの推進
- 外国人観光客内所での対応販売
- 風景街道等と連携した観光周遊ルートの設定
- 観光MaaS（アプリで交通と観光施設を案内）



2. 新「防災道の駅」が  
全国の安心拠点に

<主な取組み>

- 広域的な防災拠点となる「防災道の駅」制度の導入と重点支援
- 地域防災力の強化のためのBCP策定や防災訓練等の実施



3. あらゆる世代が活躍する  
舞台となる地域センターに

<主な取組み>

- 道の駅コース/民間シーズのマッチングによる地域の課題解決
- 子育て応援施設の併設
- 自動運転サービスのターミナル
- 入字等の連携によるインターンシップや実習（商品開発等）



©2022JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

出典：「道の駅第3ステージの取組について」（国土交通省）

2

道の駅とみうら枇杷倶楽部は、物販、イベント、体験など多様な商品・サービスを整えている他、大型バスが停車する駐車場を確保し、ランドオペレーターとして着地型の旅行商品を扱うなど物販施設に留まらない広い範囲の業務を行い、集客を行っている。

建物全体



正面



店内



出典：道の駅とみうらブログ

出典：楽天びわ倶楽部通販サイト



出典：Twitter フロソフトクレーマー森川 @softcream\_world

枇杷ソフト



©2022JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

3

## 先進地事例（道の駅とみうら枇杷倶楽部）

### イベント・体験

道の駅とみうら枇杷倶楽部では、美術展やクラフト体験、シーカヤック体験、果物狩りなどを行い、買い物をしなくても道の駅ではなく、滞在して楽しめるような工夫がなされている。

#### ■美術展



#### ■ミニコンサート



#### ■クラフト体験



#### ■シーカヤック体験



#### ■イチゴ狩り、びわ狩り



#### ■ギャラリー



## 先進地事例（道の駅とみうら枇杷倶楽部）

### 農産物6次化による道の駅の魅力化

### 千葉県南房総市

千葉県にある道の駅とみうら枇杷倶楽部は、地域特産のびわを加工、オリジナル商品の開発から販売までを行う。規格外品の活用や需要安定により生産農家の経営安定に貢献している。

枇杷をテーマにした、豊富な商品ラインナップを揃えている。

宮古島市の道の駅と枇杷倶楽部ショップの連携による相互販売提携も実現の可能性がある。



道の駅にある「枇杷倶楽部ショップ」では、特産の房州びわを使ったオリジナル商品が数多く取り揃えてある。びわジャム・びわゼリー・びわカレー、びわ船などの食品のほか、びわの葉エキスを使用したボディソープやボディタオル、天然成分配合のルームスプレーなどびわ製品が豊富に揃っている。



- 施設内にある直営の加工場では、出荷規格外のびわを南房総エリアの地元農家から年間15～20t近く購入し、ジャムやソフトクリームなどを製造している。
- その他の商品は設備投資が膨らむため製造業者に委託・共同開発し、現在では40品目を超えるオリジナル商品を揃え、自社での販売や卸のほか、インターネット販売も展開している。
- 出荷規格外品でのオリジナル商品は、年間販売売上高の3～4割を占める。

新たに誕生する道の駅のコンセプト（案）

## 道の駅宮古島黒糖倶楽部（仮称）

### 【宮古島市のシンボルとなる黒糖】

さとうきびは沖縄県での主要作物であり、観光客の沖縄に対するイメージとして定着している。

その中でも、宮古島市は、県内で最大のさとうきび生産量を誇っている。沖縄県全体では黒糖が生産過剰で多くの在庫を抱えている現状もあり、この課題解決にむけた取り組みが必要である。

さとうきび（＝黒糖）をシンボルにした道の駅こそ、宮古島に相応しい。

道の駅宮古島黒糖倶楽部（仮称）では、さとうきびや黒糖関連の様々な商品の販売を行う。

宮古島市とさとうきびの関わりや歴史、さとうきびが黒糖になるまでのプロセスなどをパネルにして展示するなど、商品の販売に留まらない展開も必要。

枇杷倶楽部のように、体験や展示会などのイベントも取り入れて、黒糖の科学館や博物館的な存在となることが望まれる。

黒糖アイス  
黒糖ソフト  
黒糖サワー  
黒糖チョコ  
黒糖クッキー  
黒糖ガトーショコラ  
黒糖チーズケーキ  
黒糖プリン  
黒糖ゼリー  
黒糖わらび餅  
黒糖羊羹

## 道の駅 宮古島黒糖倶楽部 （仮称）

さとうきび豆知識のパネル展示  
さとうきび絞り体験  
さとうきび煮だし体験  
黒糖を使ったケーキづくり体験  
その他周辺の環境に合った体験

黒糖入り島豚の角煮  
黒糖入りチャーシュー  
黒糖入り魚の煮つけ  
黒糖入り野菜の煮物  
黒糖カレー  
黒糖ぎょうざ  
糖蜜マンゴープリン  
黒糖たまご焼き  
さとうきびジュース  
黒糖珈琲  
黒糖サーターアンダギー



### 3 総括

2020年春頃から世界的に感染拡大した新型コロナウイルス感染症の発生から約3年が経過し、徐々に生活は元の状況を取り戻しつつある。宮古島市においても空路入域観光客数が国、県等の施策の影響もあるものの、コロナ前の水準を超える勢いで回復しはじめており、2022年8月、10月、11月、12月と2023年2月は過去最高となった。一方、急速に回復し始めた観光業において人手不足が全国的に深刻化しており、宮古島市においても飲食店、宿泊施設、レンタカー会社、体験コンテンツ提供事業者などの様々な業種において、経営の維持拡大にあたっての大きな課題となっている。そうした中で、「持続可能な観光」を実現していくために、本年度の観光推進協議会及び各実務担当者会議では、昨年度からあらためて議論が開始された観光地としての更なる発展・向上に資することを目的とした新たな制度としての法定外目的税導入や、観光地の整備、観光客増減に伴い必要となる受入キャパシティ、地域経済振興に欠かすことのできない域内循環を推進するために重要な農畜水産物の活用などについて各立場から議論を交わした。

法定外目的税については、昨年度宮古島市において導入するにあたって最適なものとして宿泊税という方向性が見出されたため、今年度は具体的な課題や意向を宿泊事業者から聞き取りをするとともに他地域事例などをもとに観光推進協議会での議論を行い、宮古島市法定外目的税庁内検討委員会において導入を推進していくことが決定された。今後、作業部会を立ち上げるとともに有識者も交え、制度の詳細が議論されていくこととなる。

また、入域観光客の多くが来訪する伊良部島において、一層の観光消費拡大・滞在時間の延長を促進するため、誘客ポテンシャルがありながらも老朽化が指摘されていた牧山公園のリニューアルの検討について昨年度よりも具体化された議論を行うため、住民との意見交換をはじめ、市内外の事業者へのサウンディング調査やテラスビジネスの有識者による視察を実施、各種調査結果をもとに活用の方向性や管理運営方式についても様々な議論がなされ、今後のリニューアルについて一定の方向性が示された。

受入キャパシティに関しては、観光振興基本計画策定時とは市をとりまく観光状況が大きく変化したことから算出方法についての見直しや観光振興においてより一層重要となった人手不足への対策の必要性があらためて認識された。

2023年は世界的に観光が本格的に再始動する年となることが想定され、国内外から人気の観光地でもある宮古島市は、先般発表された「「観光立国推進基本計画」の素案」に掲げられた「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の実現をリードするポジションにある。次年度においても今年度に可視化・具体化された様々な課題の解決や取組みを推進させ、『みんなの宮古（みゃーく）を世界と未来に伝える美ぎ島（かぎすま）づくり』の理念とともに、観光推進協議会を中心とした観光地域づくりを推進していく。

## 4 資料（議事録）

### 4-1. 宮古島市観光推進協議会

#### （1）第1回協議会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第1回宮古島市観光推進協議会
日時	令和4年7月12日（火）10:30～12:00
場所	宮古島市役所 2階庁議室
出席者	別紙 「第1回宮古島市観光推進協議会配席図参照」
資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・議事次第</li><li>・資料1：宮古島市観光推進協議会規約</li><li>・資料2：昨年度までのおさらい</li><li>・資料3：第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗</li><li>・資料4-1-1：宿泊税</li><li>・資料4-1-2：受入れキャパシティ</li><li>・資料4-1-3：DMO</li><li>・資料4-2：MIN分科会</li><li>・資料4-3：観光地整備計画</li></ul>

#### 1. 開会

（事務局）

- ・ただ今より令和4年度第1回宮古島市観光推進協議会を始めさせていただきます。今年度最初の協議会となるが、本日は観光振興基本計画の進捗、昨年度までの実績、今年度の取組についてご意見を伺いたい。初めに資料を確認させていただきます。

#### 2. 会長挨拶

（市長）

- ・今日のご多忙の中ご参加いただきお礼を申し上げます。宮古島の観光での入島者の状況を見ると大変増えている。レンタカーを始めとする二次交通の課題もある。今後沖縄県内でも宮古島市は早めの景気回復、観光振興が進むと考えられるが、具体的には、量から質、量ともに観光振興を進めていきたい。本日は事務局より提言される課題について検討していただきたい。

#### 3. 議事

##### （1）規約の改正について

（事務局）

- ・資料1に沿って説明

##### （2）昨年度までのおさらい

(事務局)

- ・資料2に沿って説明

(3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗

(事務局)

- ・資料3に沿って説明

(市長)

- ・ただ今第2次宮古島市観光振興計画についての説明があった。質疑応答に移る。特にないようなので、私からお願いしたいことがある。マスコミで報道されている水上スキーについて、海岸利用のルールを整備の方向性の説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・海岸利用の方向性についてだが、様々な課題があり、市と県が管理する大きな海岸については一元化していきたい。一つ一つ課題解決に向けて取り組んでいる。例えば反社会的なマリンス業者については、警察、海上保安庁、県と同盟を結び指導を行っている。今後は前浜のルールの実証実験を行う。ビーチで遊泳する方等と水上バイクとの接触の懸念があり、その棲み分けを考えている。また来間島ではモズクの養殖をしており、そこでも水上バイクのトラブルがあるため、今年度中に棲み分けと場所の制限を検討している。

(市長)

- ・重要案件のためよろしくお願いしたい。

(委員)

- ・海洋レジャーについてルール作りをしていく。平良港には天然のビーチがあるが、来年度ヒルトンホテルの供用に合わせて、何らかのルール作りが必要と考えている。今回作業部会を動かしつつ、パイナガマとトゥリバーはしっかりとルールを作っていきたい。パイナガマは組合が、第4ふ頭が整備される以前から管理している。彼らは第4ふ頭側で水上バイクをしている。中央は海水浴客とルールが決まっているが、他から入ってきている事業者はルールを知らず、トラブルになっていると聞いている。しっかりと導線を分けること、またヒルトン供用に合わせてプールについてのルールも決めていく必要がある。港湾については作業部会で検討していきたい。それが成功すれば県の海岸防災課と協議しながら、宮古島市の他のビーチにも広げられるのではないかと期待している。ご協力をお願いしたい。

(市長)

- ・港湾内を含めて、観光客の出入りの多いビーチのルール作りを急いでいきたい。

(4) 令和4年度の取り組みについて

①観光推進戦略作業部会

(JTB 総合研究所)

- ・宿泊税について資料4-1-1に沿って説明。
- ・受入れキャパシティについて資料4-1-2に沿って説明

(市長)

- ・宿泊税、受入れキャパシティに関して質疑応答に移る。

(委員)

- ・宿泊税についてだが、全県的には話が出ては消えている。平成25年頃一括交付金がスタートする前の段階で必要性の議論がスタートしたが、当時は観光振興予算が潤沢にあったため、タイミングではないのではという話をした記憶がある。先行して導入することは良いが、事業者や宿泊者が気持ちよく払っていただけるような、きちんとした理屈付け、理由付けをすることが必要だ。良いイメージと良くないイメージのどちらをも生む可能性がある。大型リゾートホテルからは取りやすいが、地場で安いホテルとの兼ね合いも大事となってくる。

(事務局)

- ・宮古島市は宿泊税について、石垣島と一緒に平行して走りたいと考えている。まずは導入を決定して事業者等と検討したい。

(委員)

- ・石垣島と一緒に進めることは良い。

(JTB 総研)

- ・一括交付金で議論が止まったとあったが、10年前に奥尻島で入島税を議論していた際にも、ふるさと納税が出てきて止まった。他に財源があれば良かった。ただ時間がたつと受益者負担の導入の議論が出てくる。このタイミングで議論するべきではないか。10年前と比べると消費者の理解も進んでおり、それほど逆風とならないのではないか。

(委員)

- ・宿泊税について、県全体ではホテル事業者からも声が出ている。コロナで厳しい状況にあるが、宮古島では地元の小さな旅館や民宿について、事業者全体の意識はどういう状況か。この資料にもあるが、スライドの4ページに市としての決定の後に説明会となっているが、その前に事業者について理解を深めておくことが重要ではないか。

(委員)

- ・全ての宿泊事業者に確認したわけでない。これから具体的に意見を伺う。金額も未定だ。低料金宿泊事業者に課せるのかということもテーマの一つだ。宿泊料金で変える案もあるが具体的になっていない。事業者としては宿泊税がない

方が良い。システムとしてどれくらいの費用負担が出るかという問題もある。行政の協力を仰ぎながらシステムを構築したい。全宿泊者から徴収するのもも含めて、棲み分けは今後検討していく。

(委員)

- ・抗議の動きはあるのか。

(委員)

- ・県内での抗議は一部にある。

(委員)

- ・宿泊税について、一律にするのか、宿泊料金の数%にするか、よく検討していただきたい。タクシーやレンタカーのキャパシティについて、7年前に来ていた観光客は43万人で、令和3年度と全く一緒だ。その時点で今と違う点は、有効求人倍率が0.8程度で人材がいたことだ。今は1.4程度で人材が足りない。他の地域では通うことも可能だが、宮古島ではできないため、人ぶりをどうするかに焦点を当てて検討しないと、この問題は解決しないのではないかと。例えば季節的に時間がある人もいる。農家でも忙しい時と忙しくない時がある。島内の人が1年中働くために、どのように人を回していくかを考えないと問題は解決しないのではないかと。

(宮古島市建設部)

- ・宿泊税に関連してクルーズ船の施設使用料の検討の問題がある。実現できれば良いが、現在船会社と調整しているのか。他の自治体で徴収している例があるのか。

(事務局)

- ・あくまでも案で交渉はこれからだ。作業部会で細かい調整を行っていききたい。県内では事例がない。他の地域は今後調べていききたい。

(市長)

- ・これらの課題については今後作業部会で検討していただきたい。時間に限りがあるので次に進む。

(宮古島観光協会)

- ・資料4-1-3について説明。

(市長)

- ・質問、意見が特にないようなので次に進む。

## ②地域経済振興作業部会

(宮古島観光協会)

- ・資料4-2について説明。

(市長)

- ・質問、意見が特にないようなので次に進む。

### ③受入環境整備作業部会

(JTB 総研)

- ・資料 4-3 について説明。

(委員)

- ・1 ページのスケジュールについて、整備計画の策定に関してパブリックコメントを実施するのか。牧山は多くの観光客が行くエリアで、我々も良いスポットだと考えているが老朽化していた。ただ全体的に利用者が多い。島の方からも注目されているため、ある程度公表しつつ周囲に開かれた形で進めれば、納得されるのではないかと。

(JTB 総研)

- ・ある程度構想が固まった段階でパブリックコメントを実施していきたい。住民の意見を基にわかりやすくまとめていきたい。

(座喜味市長)

- ・民間の柔軟な発想とスピード感、管理運営のノウハウをぜひ活用すべきだ。地域の経済効果や地元の参加も含めて進めていただきたい。

(委員)

- ・丁寧に進めていただきたい。進めつつ決まったことについてどれだけしっかり実行するのか、市として強制力を持って進めていく姿勢を出していただきたい。一方でゆるめるところはゆるめ、市でできるような特別ルールを検討していただきたい。さらには観光が伸びることは良いが、住民が取り残されないように気を付けて検討していただきたい。

(市長)

- ・本日いただいた多くの意見を元に今後作業部会で進めていきたい。またその情報についても提示していきたい。

## 4. 閉会

(事務局)

- ・今年度の取り組みは本日の議論を踏まえて各作業部会で検討し、秋ごろに中間報告を予定している。

以上

## (2) 第2回協議会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第2回宮古島市観光推進協議会
日時	令和4年12月28日(水) 14:00~16:00
場所	宮古島市役所 大ホール
出席者	別紙 「第2回宮古島市観光推進協議会配席図参照」
資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・議事次第</li><li>・配席図</li><li>・資料1：これまでのおさらい</li><li>・資料2-1：宿泊税導入資料</li><li>・資料2-2：観光客増減に伴い必要となる受入キャパシティに関する評価査定</li><li>・資料2-3：伊良部牧山公園活用構想策定に向けて</li><li>・資料2-4：地域経済循環システムの構築について</li></ul>

### 1. 開会

(事務局)

- ・年末のお忙しい中お集まりいただきお礼申し上げます。ただ今より令和4年度第2回宮古島市観光推進協議会を始めさせていただく。今回は前回の協議会の後に行われた各作業部会の報告をさせていただく。忌憚ない意見をよろしくお願ひしたい。会議に先立ち配布資料を確認させていただく。開催にあたり当協議会の会長である座喜味市長より挨拶をお願ひしたい。

### 2. 会長挨拶

(市長)

- ・本日は第2回の推進協議会ということで、議題が4点提案されている。良い議論ができることを期待している。今年度は半年間コロナで制限がかかったが、連休明けから観光の動きが加速した。次年度はもっと大きく展開するものと思っている。この協議会では宿泊税等重要な議題が上がっている。貴重な意見をいただければありがたい。よろしくお願ひしたい。

### 3. 議事

(1) 前回の協議会のおさらい

(事務局)

- ・資料1に沿って説明

(2) 令和4年度の取り組みについて

【宿泊税導入検討について】

(JTB 総研)

- ・資料2-1に沿って説明

(事務局)

- ・ 補足説明だが、資料 2-1 の 2 ページについて、協議会で三つの税を協議してきた。最後の協議会で委員の意見を踏まえて宿泊税に決定した。これまでは協議会で協議をしてきたが、税金の議論となるため庁内検討委員会で議論を行うこととなる。

(委員)

- ・ 2 ページ目で庁内検討委員会に提案するとなっていたが、この資料を見る限り、定率か定額かわからない。徴収方法も具体的に提案するべきだと思われるがどうか。

(事務局)

- ・ 庁内検討委員会には協議会での議論の内容もある程度報告するが、宿泊税に決まったという報告を行う。庁内検討委員会で議論を行い、個別、具体的議論を推進協議会に投げることも有り得る。来月中旬に庁内検討委員会を行い、協議会で具体的に議論し、6 月に再度庁内検討委員会を行い、最終的に決定する。

(委員)

- ・ ということは宿泊税に決まったが、徴収方法は様々あり、定額なのか定率なのかを庁内検討委員会で議論していただくということで良いのか。

(事務局)

- ・ その通りだ。

(市長)

- ・ 課題がまだ残っている。この協議会でオーソライズした案をまとめるか、庁内検討委員会とのやり取りについて、もう少し説明をいただきたい。最終案はいつまでに整理ができるのか見通しも含めて説明するべきだ。

(事務局)

- ・ 一度来月初旬に庁内委員会に報告する。そこでもう少し議論を深めていただきたいということであれば、再度協議会に投げて議論し、来年 6 月の最終的な庁内検討委員会までに結論を出して提案する。

(委員)

- ・ 作業部会の報告であったが、課題に対して協議会としてどう対処していくのかを議論するのか、それとも課題に対してどういう解決方法があるのかという方向に向けていくのか説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ この協議会で諮る前に観光推進作業部会を開催した。その中で委員より、この推進協議会は観光振興が目的の協議会であり、税の検討を行う協議会ではないという意見をいただいた。庁内検討委員会は法定外目的税の仕組み、名称、使途、利用者負担、その他必要なことに関して検討すると決められている。そのため一度協議会で観光に特化した法定外目的税は宿泊税で推進するという議論に達したため、これをもって庁内検討委員会に議論を諮ることとなる。ただ庁内検討委員会は事業者の意見が届きづらいため、作



業部会として議論をしていただくというになれば、一度戻して検討し随時庁内検討委員会に報告していくこととなる。

(市長)

- ・ 庁内検討委員会と協議会は整理する必要がある。まず法定外目的税を導入するにあたり、どれくらいのお金がかかるのか、どういう事業に使うのか、徴収システムをどうするか、どうやって理解をいただいたかということを協議会で整理して、その基本的な考え方を持って庁内検討委員会に下ろす。さらに議論が必要なことについては再度協議会にフィードバックして議論していく。不確定な部分についてある程度の協議会の考えを整理して下ろさないと庁内検討委員会も議論とならないため、ある程度やり取りが必要となる。宿泊税をいただくにあたり、納める方の満足度、理解をいただくことが重要だ。金額と用途によって満足度、理解が担保される。それに関する議論は行われていたのか。

(JTB 総研)

- ・ 宿泊施設のヒアリングでも説明したが、宝くじの資金で施設を整備することは多いが、同じようなイメージだ。観光客がきれいな砂浜に来て、そこで整備された施設を見て、納めた宿泊税がこういったことに使われた、これだけ宮古島の自然が守られているということを観光客の心に訴えかけていく形での表現、税の使い方が大事になってくると考えている。

(市長)

- ・ 少なくともどれくらいの収益の見込みがあるか、どういうことに使うのか、水源の開発はどうするのか、マリンスポーツの安全性に使うのか、様々なメニューがあり、その総額をどういう事業で使うのか、どのような受け入れ条件を整備するのか、どれくらい受け入れ体制が改善したのかという理解が深まるようにしていく。より具体的に、各関係課が連携を取りつつ、事業目的を考えていきたい。

(委員)

- ・ 宿泊税を取って良いタイミングだと考えている。詳細は別途検討するということだが、二点気になることを申し上げたい。一つは今の宿泊施設の料金の徴収方法は、同じ日に同じ大きさの部屋に泊まっても、予約するタイミングによって料金が上下している。非課税ラインを設ける際にはしっかり検討していただきたい。また市の施策にもあり、今の時期からスポーツ合宿が始まるが、大人と同じ様に徴収するのか、修学旅行と同様にするのか検討する必要がある。

(事務局)

- ・ 一つ目の件については、免税について県と整合性を持ちつつ進めていきたいと考えている。スポーツ合宿の件についても議論している。次回の協議会までにはある程度の指針を出したい。

(市長)

- ・ 県で検討を進めている観光税があるが、宮古島でも特定の事業税について検討してお

く必要がある。修学旅行や大学の合宿についても、料金設定と合わせてしっかり議論をお願いしたい。

(委員)

- ・二点確認がある。協議会と庁内検討委員会の関りについて、庁内検討委員会では様々な税の検討をしながら宿泊税として固まったが、県の状況を見守るということで一時議論がストップしている。その中、協議会で新たに検討が始まり、庁内検討委員会の作業部会が本来すべきことを協議会でしてきたと考えると理解が進むのではないか。今後庁内検討委員会に上がって来た際に、不十分な点はキャッチボールしつつ細かく詰めていきたい。9 ページのクルーズ船問題について、整理しなければ大きな課題となるのではないか。割合から見てもクルーズ客はかなりの人数となる。観光施設にとっても大きなストレスとなる。もう一点は庁内検討委員会での議論が休止する理由となった県の宿泊税導入について、県が一括で取って観光客数に応じて市町村に配分するという話もあったが、どこまで進んでいるのか。コロナで事業者の抵抗感もあり、しばらく先送りすることになっていたが現状はどうなっているのか。

(JTB 総研)

- ・クルーズ船に関して同じような事例はないが、福岡市ではクルーズ船の受け入れもしているため、考え方や今後のことについて調査をさせていただきたいと考えている。

(事務局)

- ・県の動きは止まっている。これまで3回協議してきたが、こちらで決まったことを報告する。配分についても議論が止まっている。

(委員)

- ・県と市が導入する場合、事業者は二重に徴収されるのか。

(事務局)

- ・定額で取る場合は県と市で折半する。宮古島市で先行する場合は宮古島市が全額徴収するが、県が導入した場合、折半して徴収するように進めている。

(市長)

- ・県と自治体の宿泊税の活用方法は違う。地域の課題を解決する部分において、県と考え方が一緒であれば調整する必要がある。県としては観光客100万人を目指すという考え方で、宮古島のような離島と重ならないのではないか。

(委員)

- ・情報提供をさせていただきたい。クルーズ船について2019年は那覇が一番の寄港地だったが、それまでは博多港が一番だった。博多港にはクルーズ船専用の岸壁が二つある。県や市ではなく博多港管理組合が管理している。ターミナルビルの施設使用料をかなり徴収している。福岡県や福岡市が徴収しているということは聞いたことがないため確認させていただきたい。宮古島市においては岸壁の接岸料を3円から14円に値上げしている。10万トンの船が100隻入れば1億5,000万円になる。港湾の条例で市に入るシステ

ムになっている。それも加味して調査を継続していただきたい。

(市長)

- ・現場での調整をお願いしたい。

(委員)

- ・3～4 ページのヒアリング結果について、今後どう進めていくのか調査はされているのか。例えば航空会社の協力で導入できないかとの意見から、航空会社に聞いてみたといったようなことだ。意見を並べるだけでなく、できる理由やできない理由がどれくらいあるのかについても説明していただくと検討できるのではないか。

(JTB 総研)

- ・航空会社にはヒアリングし、入島税を空港使用料で組み込んだ場合にどういうことが考えられるか、現実的か確認し、先ほど説明した回答をいただいた。

(委員)

- ・そういったことも資料に載せていただきたい。今の状況では判断材料がないまま庁内検討委員会に投げるだけの組織になってしまう。ぜひよろしくをお願いしたい。

(市長)

- ・協議会で方針を確定し、庁内検討委員会に示すことで宿泊税の検討をお願いするという形で進めたい。協議会で素案を決定していただく。基本的な考え方について整理し、皆様の承認を取って、庁内検討委員会に下ろすこととする。

#### 【受入キャパシティに関する評価・査定】

(JTB 総研)

- ・資料 2-2 に沿って説明

(委員)

- ・資料 2 ページの一覧表の確認だが、下から 4 段目の空港の年間着率回数の実績値と、下の段で空港の年間着陸回数があるが、実績を踏まえて推移した将来の目標値が出ていないが、これについて説明をお願いしたい。105 万人という目標を達成する場合、現状の規模からいってどれくらいの着陸回数が必要となるのか。その回数を現状の空港で賄うことができるのか。宮古島空港はすでに機能的にいっぱいだ。下地島空港はまだ余裕があり、航空路線を誘致すれば可能だが、その検討は行っているのか。

(JTB 総研)

- ・全体のキャパシティについて、2019 年の宿泊施設収容人員 10,215 を基準として、令和 2 年度に 12,739、令和 3 年度に 15,063 と増えた場合、同じように他の項目に関しても、2019 年度の収容人員を基準とした比率で計算したものだ。年間着陸回数との現実的な比較や他の部分についてははまだ精査していない。ただ今後しっかり検討していきたいと考えている。

## 【伊良部牧山公園活用の検討について】

(JTB 総研)

- ・資料 2-3 に沿って説明

(委員)

- ・22 ページに一覧があり、これは前回の委員会でも同じような表が示されているが、これでサウンディングを行うのか。他の施設も含めて自由にサウンディングするのか。

(事務局)

- ・これはあくまで概算となっている。特に決めてはいない。我々としては展望台、遊歩道の更なる利活用のアイデア、使われていないが使用可能なスペースの利活用のアイデアをいただきたい。どんな運営スタイルが良いのか、市場性があるのか、持続性についてどう考えているのか、自由提案、自由意見で考えている。レストランや飲食ブースの縛りはないが、展望できる何かは必要だと考えている。

(委員)

- ・海が見えて展望が素晴らしいとあるが、21 ページの飲食施設は海が見えないところに置かれている。また遊歩道は管理が大変で夏は暑い。お年寄りも多い。駐車場を展望台に寄せてはどうか。展望台イコール飲食店にしないと抜本的な解決にならないのではないか。平成27年に観光施設の施設カルテを作り、観光課に届けたが一つも改善されていない。

(事務局)

- ・トイレの改修は必ず必要だと考えている。飲食施設は自由提案で、それを受けて意見交換を踏まえて検討する。駐車スペースについても場所や広さはまだ決定していない。

(市長)

- ・観光施設を整理し、地域の特徴を生かしつつ再整備をする構想を検討している。なぜ牧山が先行しているのかという思いもある。どう整備するのか。

(委員)

- ・旧郡部、町村部の元気がなくなっているため、何とか元気を出していただく施設、賑わいの拠点創出事業に取り組んでいる。各町村部で観光客と市民がふれあい、活力を生む施設ができないか構想を検討している。伊良部では牧山展望台が大きな候補地となっている。住民の意向、施設の内容を調査、検討し、8月を目途に構想を策定し、基本計画、実施に移していきたい。企画課と観光課で連携を取りつつ、上手い具合にマッチングし良い方向に向くよう進めていきたい。

## 【地域経済循環システムの構築について】

(JTB 総研)

- ・資料 2-4 に沿って説明

(委員)

- ・宮古ぜんまいは栽培しているのか。

(JTB 総研)

- ・市の敷地に生えている。記述に間違いがあった。宮古ぜんまいを採って販売している方がいるということだ。

(委員)

- ・宮古ぜんまいは山の中に生えており、栽培されているものではない。数が限られているため、採られ過ぎると生態系が変わるため、環境の立場としては前面に出していただきたくはない。

(委員)

- ・人手不足が指摘されている。何らかの検討はされたのか。公務員の副業規定や高齢者の再雇用も地域の課題解決に資するのではないか。宮古島市が一番大きな会社だ。今いる人間でどう生産効率を上げるか考えるべきだ。現在掃除はルンバがしているように、カバーしていく。来年からは外国人の技能実習生が入ることになっている。現状でわかっているのであれば検討していただきたい。空港のキャパシティについて、飛行機が大きければたくさんの方が来る。エプロンの整備は2, 3年かかる。早めに検討していくべきだ。

(JTB 総研)

- ・取組に関しては実務担当者会議で検討している。タクシーの乗務員の賃金を上げていけば人が集まってくる。東京都で先行して運賃を上げると、地方に波及する。宮古毎日新聞にも出ている。

(市長)

- ・どう生産性を上げるか。労働人口をどう活用するか共通の課題となってきた。観光を含めた新たな社会の仕組みが変わろうとしている。人材を確保するために賃金を上げてもらおうとしたが、それだけでは済まない問題がある。生業として若者にも魅力ある就労環境の整備が大きな課題だ。

(委員)

- ・宮古島には野菜、牛、豚、海産物があるが、ホテルや民宿で使われている割合、使ってもらえない理由、値段、味、量なのか、その点について詳しく教えていただきたい。

(JTB 総研)

- ・2年前に調べた際にわかったことだが、スムーズに物が流れなくなっている。ホテルで使う量が多すぎる問題もある。踏み込んでお互いが妥協し、譲歩すると取扱量は増えるのではないか。また大手の場合本部が決裁権を持っている場合も多い。観光客に他の地域の食材を食べさせても意味がない。観光客の数だけ地元が潤うべきだ。産業振興局と一緒に良い方向に持っていきたい。

(市長)

- ・食品消費額は125億円ほどだった。飲食関連の供給は20%に達していない。学校給食

は11%から17%まで上げた。年間を通して安定して供給できることが理想だ。地域内経済にも大きく影響する。成長戦略として位置付けても良いと考えている。宿泊税については基本方針を整理し、庁内検討委員会に下ろしていく。

#### 4. 閉会 (事務局)

- ・今年度の取組については本日の意見を踏まえて継続して議論していきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。

以上

### (3) 第3回協議会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第2回宮古島市観光推進協議会
日時	令和5年2月16日(木) 14:00~15:15
場所	宮古島市役所3階 全員協議会室
出席者	別紙 「第3回宮古島市観光推進協議会配席図参照」
資料	<ul style="list-style-type: none"><li>・議事次第</li><li>・配席図</li><li>・資料1：令和4年度観光実績</li><li>・資料2：宿泊税の導入について</li><li>・資料3：宮古島市における交通インフラの状況</li><li>・資料4：伊良部牧山公園の活用について</li><li>・資料5：今年度見えてきた観光課題について</li></ul>

#### 1. 開会

(事務局)

- ・ただ今より、今回の協議会では令和4年度の観光実績、宿泊税、牧山公園の活用等各部会で検討した結果を報告させていただく。

#### 2. 会長挨拶

(市長)

- ・本日は令和4年度の最終の協議会となる。年度間の報告も含めて議題が5点あるが、忌憚ない意見交換ができればと思っている。

#### 3. 議事

(1) 令和4年度観光実績について

(事務局)

- ・資料1に沿って説明。

(市長)

- ・これまでの観光客の推移は、4月から12月までの推移か。

(事務局)

- ・1~3月が出揃っていないため中間発表だ。年度明けに更新したい。

(市長)

- ・4~12月までのデータだが、単年度当たりで比較してどういう状況か。

(事務局)

- ・1~3月の伸びにもよるが、600億円を超えるまでにはいかないのではないか。入域観光客数は、空路だけであと12~13万人増えるのではないかと見ている。

(委員)

- ・消費額が急に伸びていることに驚いた。例えばレンタカー代が上がっているからか。

(JTB 総研)

- ・昨年 8 月から 10 月にかけて、需要がひっ迫し価格も上がっていたようだ。ただ観光消費額の中で占める割合はそれほど多くはない。結果に反映されているとは考えにくい。

(委員)

- ・1 万円は上がっていたようだ。わかってからで良いのでお教えいただきたい。

(JTB 総研)

- ・全国旅行支援のクーポン利用が大きいのではないかと考えている。

(2) 令和 4 年度の取り組みについて

**【宿泊税導入検討について】**

(JTB 総研)

- ・資料 2 に沿って説明。

(市長)

- ・4 ページからの課題について、今後どのように対応して「いくのか」。

(JTB 総研)

- ・税額、免税点等制度に関するものと、使途に関する部分、事業者への配慮などの検討事項について、今後は庁内検討委員会で細かい部分を詰めていただく。

**【受入キャパシティに関する評価・査定】**

(JTB 総研)

- ・資料 3 に沿って説明

(市長)

- ・クルーズ船が夏以降入って来た場合の、二次交通の問題について議論はあったのか。

(JTB 総研)

- ・現状次年度は確実なことは言えないが 150 回程度の寄港が想定されている。これに対して 1 月の段階で既に人手不足になっており、二次交通事業者がお客を断っている状況にある。クルーズ船が来れば大きく不足することは明白だ。一方でクルーズ船は一過性のため、需要の急激な増減に対する対策も今後検討していく必要があると考えている。

(委員)

- ・ループバスが順調だと聞いている。自走化に向けて採算で見た場合どうなのか。

(事務局)

- ・現在調査検証を行っている。利用客は増えているものの、運賃だけでは自走化は程遠い。観光事業者の協賛を受けつつ自走化を目指している。

**【伊良部牧山公園活用の検討について】**

(JTB 総研)



- ・資料に沿って説明

【今年度見えた観光課題について】

(観光商工課)

- ・資料に沿って説明

【質疑応答】

- ・なし

4. 閉会

(副会長)

- ・今年度の観光推進協議会は本日で最後となる。次年度も継続して議論していきたい。

以上

## 4-2. 実務担当者会議

### (1) 第1回実務担当者会議

#### 1) 観光推進戦略作業部会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第1回観光実務担当者会議（観光推進戦略作業部会）
日時	令和4年10月4日（金） 13:30～15:00
場所	宮古島市役所 2階大ホール
出席者	別紙、観光推進戦略作業部会配席図参照
資料	議事次第、規約、配席図（名簿） 資料1：昨年度までのおさらい 資料2：第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗 資料3：宿泊税導入資料 資料4：受入キャパシティについて

#### 1. 開会

#### 2. 議事

##### 1) 規約（組織）の改正について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

（委員）

- ・環境衛生局長が入っていない理由はあるのか。

（事務局）

- ・新しい部署のため入れなかったのではないか。前任の部長が入っていたため追加したい。

（委員）

- ・税務課が今回から入っている理由は何か。

（事務局）

- ・宿泊税の議題がある。県と協議しているが、先行して恩納村も検討している。徴収業務を税務課がしていたため入っていただいたが、導入後はどこが徴収するかは決まっていない。今後検討したい。

##### 2) 昨年度までのおさらい

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

##### 3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

(委員)

・情報提供ということで二つお伝えしたい。まず文化財関係で、宮古馬 49 頭は観光利用をしていないが、現在馴致、調教をしている。地域おこし協力隊も配置して対応している。長浜に牧場があるが、観光客が立ち寄れるように施設整備も来年度以降進めていきたいと考えている。二つ目に、エコアイランド観光ブランドづくり、地域経済満足度向上にもつながるが、宮古島周辺海域が環境省の国定公園の候補地に挙がっている。周辺海域全般と沿岸 100m が国定公園になる可能性がある。2030 年までに指定に持っていきたいと国が言っている。先行事例として恩納村周辺がある。海上は一般利用できる普通地区と海中公園地区という特別保護区にカテゴリー分けされ、陸上は特別保護地区、第 1 種から 3 種までの保護地区、普通地区の 5 区分に分けられ、一定の開発規制がかかる。国定公園は自然公園法があり、目的は豊かな景観、自然を保全しつつ国民の福利厚生に役立てるということで、利活用の両方を目的としている。ただ環境省が 6 月に発表して以来連絡が途絶えている。指定に向けてこの場で議題として議論していただくことがあるかと思うがよろしくお願したい。

(事務局)

・観光課から逆質問になるが、伊良部の県立自然公園を前の都市計画では保全区域公園から外す議論があったが、どうなっているのか。

(委員)

・環境省の示した候補地の図から伊良部がまるごと対象域となっている。伊良部は県立自然公園になっているが、おそらく国定公園に格上げ併合する考えではないか。

(事務局)

・国定公園に指定された後に、事業者の縛りがどうなるか興味がある。

(委員)

・ふたを開けてみないとわからないが、指定する前に現況調査し、地元の関係者の意見を踏まえてゾーニングしていく。恩納村では一部の事業者、具体的にはホテルの建設に対して規制がかかることにクレームが来ているとのことだった。ただ恩納村は乱開発を防いで適性であると言っている。また赤土の流出が減って漁業者からも歓迎されていると聞いている。

#### 4) 宿泊税について

(JTB 総研)

・資料に沿って説明。

(事務局)

・4 ページのスケジュールは、最短のスケジュールだ。宿泊事業者への説明が一番重要だ。福岡市は導入までに 10 回の説明を実施している。そこまではいかないが、ある程度丁寧に説明していく時間が必要だ。そのためにスケジュールがずれる可能性はある。

(委員)

- ・宮古島市法定外目的税庁内検討委員会と観光推進協議会の役割は何か。宿泊税について具体的な内容を検討するのは検討委員会かと思われるが、協議会は提言だけにとどまるのか。今回議事となっているが提言内容を親会に上げていくための資料を決めるということの良いのか。

(事務局)

- ・その通りだ。協力金、宿泊税、入島税にするのか検討する中で、協議会としては宿泊税が良いのではないかと結論を出した。協議会は庁内検討委員会に至るまでのプロセスだ。

(委員)

- ・コンセンサス形成の中の観光実務担当者会議がこれに当たると考えているが、括弧書きで宿泊税検討作業部会となっているのはどういう意味か。

(事務局)

- ・この会議は観光実務担当者会議だが、宿泊税に関しては踏み込んだ議論が必要だと考えており、作業部会を特別に設置しようと考えている。これとは別だ。

(委員)

- ・二重の動きになるのではないのか。庁内検討委員会を立ち上げて、導入する際にその組織で検討するのではないのか。提言とは、宿泊税は導入した方が良いということやメリットを提示することだと考えていた。細かい部分を検討するのは検討委員会ではないのか。

(事務局)

- ・宿泊税に関しては専門部会を立ち上げて、システム改修費等諸々の専門的な議論を、専門家を交えてできないかと考えている。あくまで仮称で宿泊税に特化した部会ができないかと考えている。

(委員)

- ・宿泊税を導入することは決まっているため、今回の実務者会議で何をどういうふうに親会に上げていくのか。規約の第9条に実施事項の策定とあるが、検討事項を上上げていくという理解で良いのか。

(事務局)

- ・作業部会では宿泊事業者や観光事業者を交えて議論していきたい。推進協議会ではなく、庁内の関係部署で作られる検討委員会で決定していくことになる。
- ・専門家、関係者の意見を集めて作業部会で議題として挙げていけないかと考えている。システム、徴収方法を参考にして、今日の実務者会議に上げていきたいと考えている。

(委員)

- ・今回は市独自で進める方針だが、県内で単独で進める動きはあるのか。

(事務局)

- ・恩納村があるが、県と並行して進める方針だ。ただ県が動きそうもないため、恩納村が先行する可能性はある。

(委員)

- ・市ですべきだと考えているが、6ページの骨子で一番下に導入方針検討会を作ることとなっているが、部会の中で新たにメンバーを設置して行うのか。

(事務局)

- ・仮称のため決まっていないが、1ページの作業部会と同じものだ。

(委員)

- ・庁内検討委員会が検討し、そこで本来は作業部会を設置して様々なことを検討していく、調査をしていくのではないのか。その検討委員会から推進協議会で担ってもらいたいという決定がなされれば、そういうこともありなのではないかと思うが、現時点ではそれもなく、推進協議会として宿泊税の細かい話についても検討しまとめ上げて提言を上げていくというように見える。

(事務局)

- ・ある程度ここで議論しないと事業者の説明会で説明できない。徴収作業等もする必要がある。おっしゃるように庁内検討委員会に作業部会を入れるべきだということも検討していきたい。ただ宿泊税に関しては議論が相当必要ではないかということで、仮称で資料に入れている。検討委員会に入れるのが妥当と思われるのであれば、それも含めて内部で検討したい。

(委員)

- ・事業者の説明するのは法定外目的税検討委員会ではなく観光推進協議会ということか。

(事務局)

- ・その通りだ。

(委員)

- ・宿泊税がなぜ必要かということで、観光協会は予算が厳しいということがある。予算の獲得が必要だという要望を出し、市長が当初入島税を出してきて、宿泊税が市民負担的にも良いと一度収まった。今の会議では、ホテル事業者からシステム料、税の徴収の仕方、徴収後にどういうことに使われるのかということを知っている。税の徴収から使い道まで行政の中ですることになるが、それを使うためには現場がどうしてほしいのか、行政はどういった徴収の仕方、制度的に出していくのかそれを議論する場所だ。本島で抗議文が出ている理由は、そこがはっきりしていないということからだ。離島の事業者でもなぜホテルだけなのか、全員から徴収するべきだという意見も一部にある。丁寧に説明するためにこの中で議論してほしいということか。徴収の仕方や使い方は庁内でやるべきことで、入っていくことはできない。もう少し議論できるような審議会を作りたいということではないのか。業界としては、宿泊税を市単独ですると決めているのであれば、良い形で制度的にできればありがたい。

(事務局)

- ・恩納村も実施していない。宮古島が進める上でも問題点が出てくる。事業者と相談しな

がらしっかり議論していきたい。

(委員)

- ・初めての導入で様々な議論が出てくる。13 ページの①に定額方式と定率方式とあるが、宮古島はかなり高額なホテルが増えていくイメージがあり、将来的に定額から定率に変えることは可能か。最初から決めたほうが良いのであれば定率方式も良いのではないか。定率で行くと施設の改善等多くのことを賄うことができる。国際線の予定もあり、観光客が増え、富裕層も増えるのではないか。定率の例がないということだが、これも含めて議論していったらどうか。

(JTB 総研)

- ・海外はほとんどが定率だ。ルームチャージになっている。日本の宿泊形態は旅館を元にはじまっているため、一人あたりの概念がある。倶知安町は外資がコンドミニアムを作っているため、定額ではなく定率で行っている。今後呼びたい客を考えると本当に 200 円で良いのか。ハワイは 10 数%取っており、一般会計にも入っている。沖縄県庁は当初定率を持ち出したことが観光業者に引かなかったのかもしれない。貴重なご意見だ。
- ・倶知安町では導入前にシミュレーションしたところ、高級なコンドミニアムで一棟貸しすると、単価が高いため定率の方が徴収額が高くなると確認して導入している。

(委員)

- ・徴収する金額を設定してからという方法もある。それも含めて議論していくべきだ。

(事務局)

- ・沖縄県が制度設計をしている。条例案を作る中で、宿泊税 2 万円以下は 200 円と先行して導入するが、県も導入するとなった場合、折半することを条例案に盛り込もうと考えている。県と足並みをそろえないと調整が上手くいかないと考えている。制度が決まり次第、県に報告し調整し、最終的には総務省と協議する。県との調整が一番重要だと考えている。県の条例では県が先に導入した後に市町村が導入すれば折半するという条例ができていた。県との整合性が一番重要だ。

(委員)

- ・6 ページで審議会を組織するとあり、10 月に第 1 回を開催し答申するとあるが、この審議会は答申する以上は条例、法律設置の付属機関となると思われるが、条例の整備は終わっているのか。

(事務局)

- ・要綱などを作って承認していただいた後のスタートとなる。今日の会議も 1 か月前に決まったが、台風で 1 か月ずれている。審議会は要綱を作るべきだと考えており、少し遅れる可能性はある。

(委員)

- ・要綱ではなく条例か法律で作る必要がある。

(事務局)

- ・検討していきたい。

#### 5) 受入キャパシティについて

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(委員)

- ・4ページ、宿泊施設収容人員の項目があるが、令和3年度は1万5,063人で、令和4年度は8,793人と下がっていくがどういうことか。

(JTB 総研)

- ・右側の備考にあるが、令和4年度はオレンジの部分が推計で、2019年度をベースにその比率を人泊数に乗じて推計しているため、あくまで2019年時点の人泊数の合計をベースとして、2022年度は空路80%、海路5%をかけて計算しているため、単純に令和3年度と比例していないように見えるのではないか。

(委員)

- ・最終目標は令和3年度より上乗せになっているのはそういう理由か。

(JTB 総研)

- ・その通りだ。2028年の方は2022年の数字をもとに作っているため少し少なく出ている。2019年度の客数と収容人員の比率で計算した場合、これだけの収容人員が必要だということだ。収容人員という表現はわかりにくいため再考する。

(委員)

- ・総合的に受入れるキャパシティはどれくらいかわからないのか。コロナ後に二次交通不足、人手不足、住宅不足等様々な課題がある中で、客室数はコロナ前の1.5倍になっているという情報もある。航空機の保有台数も減っている。この島として水需要も大変だと聴いている。質の高い観光を目指すのであればどれくらいのキャパシティが妥当なのか。

(JTB 総研)

- ・まさに今組み上げているところだ。今までは客室数、座席数、二次交通で判断できたが、このコロナで人の確保が一番の問題となった。タクシー会社ではタクシーの台数と人員が同じ数のところもある。今回新しく人の要素を入れて、人が潤沢に供給できないという前提で新しい算出方法を築き上げている。政府が新しい復興支援を始めるが、オーバーツーリズムの引き金を引くタイミングだ。二次交通は全国的に足りないため簡単に解決しない。もう少し時間をいただくとできるのではないか。

### 3. 閉会

以上

## 2) 受入環境整備作業部会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第1回観光実務担当者会議（受入環境整備作業部会）
日時	令和4年10月4日（火） 15:30～17:00
場所	宮古島市役所 2階大ホール
出席者	別紙、受入環境整備作業部会配席図参照
資料	議事次第、名簿（配席図）、規約 資料1：昨年度までのおさらい 資料2：第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について 資料3-1：伊良部牧山公園活用の検討 資料3-2：伊良部牧山公園活用構想策定に向けて 資料4：レンタカー・タクシー・バス事業者ヒアリング調査結果

### 1. 開会

（事務局）

- ・配布資料の確認。

### 2. 議事

#### 1) 規約の改正について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

#### 2) 昨年度までのおさらい

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

#### 3) 第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

（委員長）

- ・各部署に課題を出していただき、その対策をまとめている。連携して丁寧に解決していく必要がある。

（委員）

- ・個人的な興味で、以前山羊をどう食べるか研究したことがある。沖縄本島も宮古島も塩か味噌味の汁物にして食べる。ギリシャでは串焼きがある。リブで試したり、ジンギスカンのようにして食べてみたりしたが、牛肉は冷めると硬くなり美味しくないが、山羊は冷えても柔らかい。冷えた肉も食べることができる。

（JTB 総研）

- ・山羊汁や焼き肉があるが、臭いに慣れてないと食べづらい。以前参加した際は上手く料



理していた。言われないと気づかないほど臭みは全くなかった。今年も山羊の受容が少し増えている。少しずつ目に付くようになっていく。

- ・宮古島調理師会の協力を得て実施した。イタリアン風のメニュー、カルパッチョも好評だった。

(委員)

- ・④受入キャパシティに関する評価と、令和3年度の実績について、昨年12月時点の県の観光統計データによると、宮古島の宿泊能力は1万5,000人弱/日になっている。下地島空港が開業する前は1万人を切る程度だった。現在は1.5倍で、今後の開発計画もある状況だ。海路からの観光客はホテルをほとんど使わない。空路の観光客数が30年に1.5倍になるが、令和2年度でホテル側が1.5倍になっており、これを指標とすることが果たして良いのか。ホテルが増えており、つぶれるところもたくさん出てくる。28年に100万人を飛行機が運ぶほどの部屋数になっている。28年に向けての目標はこれで良いのか。仮に一人当たり3泊弱だが、これを5泊まで持っていくシナリオであれば良い。平均泊数が増えると島内の滞留人口と観光人口の総数が減るためそれでも良い。ただ3泊が前提であれば、そろそろこの公式自体が成立しなくなっているのではないのか。28年はまだ先のためこの目標で良いのか。

- ・2点目だが、インバウンドのところで情報の共有とお願いをお伝えする。沖縄では那覇空港が先行している。国際旅客に関しては8月に韓国のティーウェイが再開したが、その時点で日本国内での個人旅行が認められていなかったため、需要を見込まず、現在一度撤退している。一方で今月から台湾でチャイナとスターラックスとタイガーが再開する。香港も香港エクスプレスが再開する。韓国も12月から再開する状況だ。これを追う状況で石垣、宮古の話が進むと思うが、宮古の検疫は大丈夫か。石垣には後れを取りたくない。保健所については根回しも含めてよろしくお願したい。

- ・3点目に先日韓国のランドオペレーターと話をしたが、12月から韓国の定期便を再開するにあたって、県かビューローが、韓国で11月に小さなイベントをするという話が韓国内で噂されているとのことだった。宮古島には韓国との定期便がないが、もし作りたければ、この冬から認知活動をしないと追い付かないため、そこに参画しないと現実的にはならないと言われた。もし本当にあれば単独でも行こうと考えている。その情報は市に入っているのか。

(委員長)

- ・韓国のイベントについては初めて聞いた。今後情報が入ればお伝えしたい。1点目について再度伺いたい。

(委員)

- ・2018年が約70万人で、2028年が105万人と1.5倍になっているが、2020年ですでにホテルが1.5倍になっている。そうすると仮に平均宿泊数が変わらない前提に立つと、今後さらにホテルができるため、105万人という目標でいくと、つぶれるホテルが出てくる

のではないかということだ。全体的な整合が取れなくなっているのではないか。これは2017年ごろに作られたのだろうが、環境が変わってきているのではないか。

(委員長)

- ・105万人という目標を増やすべきだということか。

(委員)

- ・平均宿泊数が変わらないとするとホテルの経営が成り立たなくなる。

(委員長)

- ・基本計画の目標値の28年の200万人はコロナでだいぶ減っているが、海路も含めて検討する必要がある。担当課で検討している。

(委員)

- ・ホテルや飛行機サイドの数に基づいて、レンタカーやバス、タクシーの数も導き出されるが、大本の数字がずれると、質の向上や満足度向上のポイントが下がる。大枠を再確認していただきたい。

(JTB 総研)

- ・設計が合わなくなってきている。人手の確保も考える必要がある。人手が確保できず伸ばせない状況でオーバーツーリズムが全土で起こるのではないか。連泊が鍵を握っているのではないか。検討すべきタイミングに来ている。

(委員)

- ・3泊が4泊になった際、飛行機の座席は少なくて済むが、ホテルに入っている人数は変わらないため、タクシーやレンタカーの能力は求められる。それも含めてご確認いただきたい。

(JTB 総研)

- ・空路の数字は宿泊に直結するため、その数字の信ぴょう性が重要だと考えている。それに紐づけて人手や二次交通の問題もある。数字の精査を検討していきたい。

#### 4) 牧山公園整備について

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(委員)

- ・長い道路を歩いていくと汗をかく。飲食店やテラスも良いが、エアコンの効いた施設をしっかりと作っていただく方が人も滞留し時間を過ごすのではないか。

(委員)

- ・1ページに牧山エリアで民間活力を導入すると書いているが、成立するのか。5ページにある展望台は、私もよく案内する場所だが、きれいではない。雑然としている。一方で1億円もかける必要があるのか。機能は十分満たしている。1,000万円程度で3年に1回きれいにする程度で十分ではないか。物販、飲食については、インシヤルや人件費も回

収できないのではないか。民設民営で検討するスキームで実現できるのか。展望テラスについて高台から海がよく見えるレストランは少ないため良いが、客単価 800 円で 300 人に対して 24 万円儲けても、4 人置く必要があるがモデルとして成立しない。考えるとすると客単価 2~3 万円のフルコースになるが事業として成立するか、この場所ですべきか。海を見渡せる場所に作ると倍以上お金がかかる。うちの会社ではこの資料を見ただけでやめる。ハードルは高い。活性化してほしいという思いはあるため、実現可能なプランをお願いしたい。

(委員)

- ・地方の観光スポットに終わるにはもったいない。道の駅のようなものを作って地域のものに触れて買って、地産地消になるもの、そういったスポットがあっても良いのではないか。またこのエリアは世界でも希少な野鳥がいる。例えば野鳥の森というコンセプトで観察、研究の役割ができないか。ナショナルジオグラフィックが来るのではないか。世界的に貴重な野鳥を観察、研究できるアカデミックな方向で、観光施設と併設してはどうか。この地の利を生かすのであればそれが特徴ではないか。

(委員)

- ・PFI 事業のため、飲食施設の運営に関して、この広さと PFI 方式がどこまでマッチするのか。ゲートを付けて入園料を取ることは一時期全国ではやった。時期的な繁閑があるため、キッチンカーを活用する、イベントをするなどして人を集める方が整備はシンプルで、民設民営で基本的な方向性も変わらないのではないか。

(委員)

- ・景色がきれいだ。撮影している方が増えている。一方で駐車場の問題、坂で暑いということ、全体的な雰囲気が暗いこと、たまにカラスが飛んでいるということがある。宮古島の観光地の中で全国的に紹介したいものの一つだ。観光協会として紹介する中で、お金を払っても全国を歩きたいという方が増えていると感じている。ウォーキングを楽しみたいという方も多いが、コースに入っていない。認知度の問題もある。今まであった遊歩道を再活用して検討しても良いのではないか。整備するだけでも安心感、清潔感が出て PR できるのではないか。以前下から公園まで登るルートがあった。有名だったのでないか。今は柵がありできなくなっている。沖縄でも珍しい。下から登れるコースが復活できるのであれば検討していただきたい。

(委員)

- ・SPC が肝になるのではないか。最終的に従来の公共事業ですとなった際に、イニシャルは回収できるかもしれないが管理コストがかかってくる。安易になってほしくはない。維持管理費を検討したうえで実施していただきたい。

(JTB 総研)

- ・本日いただいた意見を踏まえて年度内に実施していきたい。改めてスケジュールや方向性を報告させていただきたい。

## 5) 繁忙期の二次交通について

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(委員)

- ・乗務員の不足について国と協議している。東京の状態を見ながら後出しで考えている。全国の会社が運賃改定の状況を待っていたが、以前は0.6~0.8%程度だったが、東京が14.6%上げる。将来的にタクシー乗務員になると手取りで50万円貰える可能性が出てくる。現在は高齢者が集まってきているが、コロナ前は80名ほどで、いったん20名ほどやめたが戻ってきて100名近くなっている。50万円も貰えるとなると若い人が入ってくる。乗務員の不足は解消する可能性もある。5~6年前に国と折衝し、二種免許なしでもタクシーを持てるという実証実験を、宮古島を特区にして実施するというところまで行った。ただタクシー二種免許制度がなくなり白タクが増える可能性があるため、全タク連の副会長に言われてやめた。ただ実施しても良かったのではないかと。実施してだめであればやめても良かった。国の了解を得ている中で、市長も首相に会いに行った。小さな波紋が大きくなって皆様に迷惑をかける形になったが、やろうとしてできないことはない。当時から都市圏以外では乗務員不足が問題となっていた。全国的にも注視されていた。今後は台湾まで行って乗務員を呼ぶことも検討している。様々な取組をしている。大きな目標を持って一緒になって動いて徐々に増やしていく。需要が上がれば乗務員の給料も上がる。バランスよくいけば活性化できるのではないかと。

(委員)

- ・沖縄金融公庫とJTB総研のレポートで、ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方に関する調査があるが、Z世代がそもそもレンタカーを使わない。免許を持たずレンタカーを使用しない割合が35%だ。40代以上は6%だ。車を運転しなければいけないため沖縄に来ないというトレンドがあることが明らかになってしまった。長期的にはバス、タクシー、運転したい人はレンタカーになるのではないかと。その点も意識したプランを考えていただきたい。

(委員)

- ・目標を高くするべきだ。今後も部屋数が増える。全体で良くなる方向に持っていければ良い。ただ急に戻ってくると人員が完全に不足している。2年半ぶりに忙しくなってきたが、長くは持たない。海外からの実習生、実務者を入れると3年確保する必要があるため企業の負担になる。インターンシップで海外の大学生を受入れてはどうか。1年間働いて単位を取得する。家賃も負担してもらえ。半年前から準備をしているが、民間の場合は厳しくてビザが下りない。宮古島だけ特別なのか。今後を考えると海外の大学生のインターンシップを入れることで人員補充ができ、今後の交流に関しても、全体で取り組むことでプラスアルファの部分があれば、観光従事者の負担も減るのではないかと。

か。市でも検討いただき、入れる環境のアドバイスをいただきたい。数年でできればありがたい。そのためにも宿泊施設が必要となるため、全体で取り組めるような方法があればありがたい。

(JTB 総研)

- ・インターンが厳しいという話は聞いていない。コロナの影響か。国内でもインターン先を探すことに苦労している。単位を早く取得した学生がいる。日本の大学は3年で卒業させることはさせないためやることがない。そこにインターンを上手くはめ込むと良いのではないか。

(委員)

- ・長栄大学は元々1学年80名4学年で、日本の募集が40名で台湾から40名だ。台湾から来た40名は島をプラットフォームとして、インターンで観光に取り組むことで単位を上げるというカリキュラムだった。長栄大学に今のような話があれば、インターンだけ先にプログラムを組むことはできないのか。台湾の日本語学校の派遣会社と情報交換しているが、短い範囲で前に進めることができれば様々な問題も解消するのではないか。

(事務局)

- ・長栄大学とは昨年5月以降話をしていない。

(委員)

- ・二次交通に関して、この夏空港まで行くのにバス、タクシーが不足し、ホテルが送迎をしてプレッシャーがかかっていた。増車してもコストは自社で負担する形になっている。可能であれば、事業免許を下ろすということでもサポートしていただきたい。また荷物と人の分離で、二次交通の変化版を検討したが、それなりに負担や免許問題もあり成り立たなかった。パターンを考えて検討していくべきではないか。

## 6) その他

## 3. 閉会

(事務局)

- ・次回は1月を予定している。

以上

### 3)地域経済振興作業部会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第1回観光実務担当者会議（地域経済振興作業部会）
日時	令和4年10月5日（水）10:00～11:30
場所	宮古島市役所 2階 大ホール
出席者	別紙、第1回地域経済振興作業部会配席図参照
資料	議事次第、規約、名簿 資料1：昨年度までのおさらい 資料2：観光振興基本計画進捗状況表 資料3：宮古島市地産地消ブランド制度検討等委託業務 資料4：地域内経済循環システムの構築について

#### 1. 開会

（事務局）

- ・配布資料確認。
- ・挨拶

#### 2. 議事

（1）規約（組織）の改正について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

（2）昨年度までのおさらい

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

（3）第2次宮古島市観光振興基本計画の進捗について

（事務局）

- ・資料に沿って説明。

（委員）

- ・二点ある。まず1枚目の実績で、平成30年度から令和3年度にかけて観光客の一人当たりの消費額が7万3,000円、8万1,000円、9万円と推移しているが、目標7万5,000円より増えている。コロナ禍で観光客の質が変わっていると思うが、今後はどう見通しているのか。また7万5,000円はどういったものを参考に設定しているのか。もう一点は7ページのWi-Fiの整備について、宮古島でどれくらい整備されているのか、他の観光地と比べてどの程度整備することが妥当なのか伺いたい。

（事務局）

- ・一点目はページの一番下に空路、海路とあり、沖縄県の令和 2 年度観光統計実態調査の消費額を参考に入れ込んでいる。7 万 5,000 円の根拠について、2018 年時点で目標を立てたが、令和 2 年度は 2 万円ほどアップしている。昨日の部会でも、目標値は全体的に見直していく必要があるという意見があった。これも含めて今後検討していきたい。公共 Wi-Fi を主要観光地で付けているが、つながりにくいという指摘もある。Wi-Fi を公共で付けると維持管理費がかかる。そのため、ホテル事業者や観光事業者に付けていただくようお願いしているところだ。
- ・公共 Wi-Fi の設置場所は、西里通り、下里通り、パイナガマ、JTA ドームに付けている。

(委員)

- ・4 ページの総括のクルーズ船の受入について、市としてどう考えているのか。クルーズ船は現在コロナで入ってきていないが、市民のストレスになる。買い物は長蛇の列、ものが盗まれる、タクシーがつかまらない、バスが周遊している。パイナガマ等ではごみが散乱している。国によって違うが今後どう受け入れていくのか。バースを作った借金があるため、受け入れたいということは理解できるが、それ以外の、例えばスーパーヨットを受け入れる等の使い方はないのか。今後宮古島市としてどういう方向に持っていきたいのか。

(事務局)

- ・方向性は基本的に港湾課で検討している。

(事務局)

- ・バースができてから供用開始が進んでいない。今年にかけてクルーズ船は来ていない。来年以降はまた来たいという声が聞こえている。確かに観光課としても市民に大変な負荷をかけていることを感じている。我々としてはまったく受け入れないのではなく、ルートの検討、マナーの啓発、新しいコンテンツの開発を考えながら、市民に負担のないクルーズ観光を考えていきたいと考えている。市民にもご協力をいただくことがあると思うが、市としては今後も継続してクルーズ船を受け入れていく。

(事務局)

- ・このオーバーツーリズムは市の職員も共有している課題だ。台湾、香港の客層は比較的マナーが良いが、本土の方は少しマナーが悪い。これは JTB 総研でも調べている。

(JTB 総研)

- ・本土の方については、コンサルティングの場面でも全国的に似たような話を聞いている。これとは別に宿泊税の議論をしてきたが、宿泊者は宿泊税を払うが、住民に環境的負荷を与えているクルーズ船の客はどうするか。今後もたくさん来るのであれば、宿泊税の前に議論していた協力金等を負担してもらえば、多

少クルーズ会社が逃げるかもしれないが、きちんと観光によって住民の快適な環境を守るための原資になるのではないか。この議論も進めていく必要があることを昨日の観光推進戦略作業部会で説明させていただいた。

(委員)

- ・宿泊税を取るから市民は我慢するということになるため、その点についてはきちんと説明して行っていただきたい。また本土はマナーが違うということだったが、台湾と香港だけ来て良いと言えるのか、きちんと検討して報告していただきたい。

(事務局)

- ・石垣島にも同様の課題がある。石垣では旅行会社にツアーの客に研修を受けさせようとしている。例えば免税店だけを目的に来る客はマナーが悪いため、客を選べる方向で検討していく。

#### (4) 宮古島市地産地消ブランド制度について

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(事務局)

- ・具体的にどういったものか。ブランドについてわかりやすく説明していただきたい。

(事務局)

- ・簡単に言うと宮古島市のお土産でも、原材料や製造場所が違うということがあるが、宮古で頑張っている人を応援するためと、宮古産ではないものを買うことがおかしいのではないかとということで検討している。また宮古の人が宮古のものを知らないため、店の協力で宮古産を買ってもらい普及していきたい。ただその基準をどうするか。ここが悩ましいところで、今後検討していく必要がある。最終的にはブランドだ。安心して購入できるものを作りたい。

(委員長)

- ・1 ページ目の下から4行目、地産地消ブランドになりうる業種、消費者となりうる飲食店についてももう少し説明をしていただきたい。

(事務局)

- ・80社を目標としているが、調理師会会員、ものづくり勉強会参加事業者、ふるさと納税に参加している事業者を選定して、4枚程度のアンケートをしてヒアリングしている。

(委員)

- ・ブランドについて、ブランドを作ることが目的で、作った後にどう紹介するのか、どうPRしどこに持っていくのか。



(事務局)

- ・いったんヒアリングを通してどうあるべきか、皆様の思いを聞き出したい。我々も素人のため、専門家を招聘して意見を聞くためのネタをヒアリングから集めている。

(委員)

- ・他の地区でもコンサルタントが声をかけて取組んでいるが、結局何も身にならずに失敗する自治体が多いと聞いている。コンサルタントはどう選ぶのか。

(事務局)

- ・コンサルタントに対して一部にアレルギー反応があることは承知している。一人から聞くのではなく、まずものづくり勉強会の講師等、身近な方から聞く。その話分かるようになれば、また違う方向から呼んで意見を聞く。あくまでこちらが主導するという事は皆様もご理解いただけていると思う。
- ・宮古島の原材料で作った宮古島のものでロゴマークを付けて売り出す。分科会名がMIM (Made in Miyakojima) だが、名称をMIMI (Made in Miyakojima Islands) にする。他の島も含む。呼びやすい愛称で、こちらもストーリーを作って誘導すると生産者の意欲にもつながる。

(JTB 総研)

- ・観光客側からしても絶対的なニーズがある。以前ラグビーのワールドカップが行われた際も、グッズは売れたが作っていたのは中国で日本に利益が残らなかった。観光でも素材や加工を外に任せると利益が薄くなる。消費額も実質でどれだけ残るかが一番問題だ。それに対する一つの効果的な取組がブランド化ではないか。ブランド化すれば観光客が商品を選びやすくなる。安心して買うことができる。またゆくゆくは単価を上げることができるかもしれない。それを主眼として取組まれている。情報提供として、旅アト消費について、2年ほど前に沖縄旅行をした方を対象に、旅行後どれくらい取り寄せをしたか調査した。沖縄旅行中は消費額が1万3,000円ほどだったが、自宅に帰ってから取り寄せたのが4,879円、贈答用が6,379円だった。自宅用は約4回、贈答用は約3回買っていたため、それぞれ掛けると、自宅用は約2万円、贈答用は約1万9,000円になる。旅行中の消費を軽く超えている。ただ調査をしないとわからない状況で、観光消費額にも含まれていない。今回のブランド化の取組はこの数字を上げていくための取組でもある。旅アト消費をどう伸ばすか努力されている地域もある。旅行の思い出と紐づいていれば、その後も指名してくれて離れなくなる。観光で良い気分となっている方に満足していただく商品を買っていただき、それをどうつないでいくか。それも観光消費額を上げるための手法、ブランド化するための手法ではないか。

(委員)

- ・今までは客に対する外向きの意見だったが、内向きに変えると、島内の業者は6次化したいが方法が分からない。島の素材を合わせると良い商品ができるが、それをどこにお願いしたら良いのかわからない。市にマッチングをお願いしたく、様々な会議で提案しているが、これについてはどうお考えか。

(JTB 総研)

- ・マグロや鰹のことも関連事業者に集まっていただき、マッチングさせていただいた。去年は山羊もさせていただいた。マッチングをしていくべきだと考えている。きっかけがないと先に進んでいかない。

(委員)

- ・アンケートを取ってヒアリングをするのであれば、それぞれの事業者の商品、材料、手法等をデータとして取って、上手く活用してはどうか。

(委員)

- ・産業振興局ではマッチングをしているのか。

(委員)

- ・実証利用、機械導入、6次化に向けた事業をしているが、マッチングに関しては持ち帰って検討したい。ブランド化について、5か年計画という話が出たが、一括交付金を活用する。今回の調査、報告等を受けて次年度どう取組を進めていけるか考えている。協議会と組織については、市が主導するのではなく、自走して取組める制度にしたいと考えている。ご協力お願いしたい。

(委員)

- ・マッチングに関してはこの作業部会でも議題として取り上げても良いのではないか。土産品店では様々なものが並んでいるが、例えば居酒屋に行った場合に、宮古島産の原材料を半分以上使っていると認証することは考えているのか。

(事務局)

- ・視野に入れている。北海道では緑提灯を上げている。道内で使われる鮭はロシアから輸入している事情があったが、地場のものを使うために緑提灯を上げている。郷家も緑提灯を上げている。10月からマグロ祭をしているが、マグロは10匹のうち1~2匹焼けマグロがある。火を通せば食べられる。これをマグロ部会と話して、たくさん獲れる時期に真空にしておけば台風の際にも使える。赤身は良い部分を使うが、しっぽ等は火を通してもおいしい。捨て値をもう少し高い値段に上げられないか検討している。宮古島の島マグロの料理の普及に努めている。

(委員)

- ・土産品を考えるには時間がかかるが、飲食店は手っ取り早い。認証し情報を共有し営業する形が良い。多少高くても観光客は食べる。よろしくお願いしたい。

(委員)

・宮古島でサツマイモを作っている。サツマイモは様々なものの原材料となっている。宮古島のサツマイモは色がきれいで人気がある。香港のマキシムは宮古島と表示して売ってくれている。宮古島でしか食べられないものをぜひ考えていただきたい。農政課も拠点となって一緒に旬のものを提供していきたい。

(委員)

・宮古ぜんまいを出荷している農家が多い。観光客にも人気があり居酒屋でも購入されている。採れる場所は教えてもらえていないが、ブランド化できるのではないか。宮古島は採れる場所が限られてきている。開発によって島の自然のものを採る場所が少なくなっている。これについては飲食店の方々はどう考えているのかお聞きしたい。

(委員長)

・昨日のニュースでも言っていたが、個人的に採る分には問題ない。販売する人が多いため問題だということだ。

(委員)

・販売ができないとなると、県外からも注文がある人気の商品だが、どうすれば良いのか。畑ではおそらく作れない。

(委員)

・シダ植物なので畑で栽培できない。日陰で育つ。アーサを採る際に漁業権が必要となったが、そういった対策をしていただきたい。沖縄本島や石垣にも多い。制度についても考えていただきたい。

(委員)

・販売店舗からすると採れないと困る。入林料等整備する必要がある。

(事務局)

・担当課と検討したい。

(委員)

・宮古ぜんまいを使っているかどうかで宮古島の独自性が出せる。

(委員)

・以前島野菜をブランド化する取組があったが、千疋屋で宮古島のメロンを見てもらったが、メロン独特の甘みと香りをほめていただいた。宮古島のハーブも香りが高い。ある雑誌でメロンや島野菜の特集をするとなった際に、エビデンスがあるとなお良いと言われた。その取組も重要ではないか。どう進めていけば良いのか。

(委員長)

・メロンの成分を分析するという事か。

(委員)

・土壌もそうだ。エビデンスがあればさらに売れる。野菜が強くなったため美味

しくなったのではないかとされているが、エビデンスがないため言えない。  
メロン、マンゴー、島野菜がもっと高く売れる。現時点では水はけの良い土壌、  
地下水のミネラルが考えられる。

(委員長)

- ・様々な方面に情報共有したい。

(5) 地域内経済循環システムの構築について

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(委員長)

- ・8ページ、令和4年度の実施内容の下に認証制度とあるが、観光協会、DMOについて先ほど説明したものと重複するのか。

(事務局)

- ・委託して行う。

(委員)

- ・循環システムに関して、宮古島の青野菜は1~2月が非常においしい。4月から暑く、夏場の野菜は少ない。冬場は観光客が少ないが、野菜を余らせて捨てている。11月中旬まで野菜がないため内地の野菜を使っている。1~2月の野菜を冷凍技術で備蓄できないか。漁協の大きな冷凍庫等で、ホウレンソウはボイルして真空にする。カボチャや紅芋はペーストにする。そうすればピーク時期の観光客に地元の野菜を出せる。魚も同様だ。たくさん獲れると値が下がって安く買いたたかれる。乾燥、冷凍して観光客にも地元のもの食べてもらえるシステムができる。ゴーヤも9月の前半の台風ですべてだめになった。うちは冷凍して保存している。ゴーヤはカットして冷凍して、冷凍のまま炒めれば栄養素は変わらない。一次産業の所得を上げられる方法がある。これも循環システムに入れていただきたい。

(委員)

- ・うちにも瞬間冷凍があり、ゴーヤやパパイア、ヘチマを冷凍して出している。たくさん作っておきたいが冷凍施設が小さすぎる。漁協の冷凍庫を借りたこともあるが、費用が掛かる。本当に利益が出るのかわからず、できる範囲でしている。冷凍施設に対して補助してもらえるシステムができれば良い。多い時期は捨てるほどある。廃棄量を見ていて心が痛くなる。捨てることにも費用が掛かる。市でも保管施設に取組んでいただければ、取組が進むのではないかと。

(委員長)

- ・これは以前から言われている。市で加工施設を作っていたが、成り立っていないところもあった。補助事業で入れていただき、組合を作って管理する方法も

ある。様々な提案をしていただきたい。個人事業主に対する支援についても説明いただきたい。

(事務局)

- ・今年度は機材の導入補助をして 30 社ほどから申請があり、11 社に補助を行った。次年度も進めるのかどうか検証していきたい。産業振興機構の取組についても検討していく。3 月 30 日に方針を打ち出して、プロポーザルで選定しようと考えていたが、見直しを進めている。一括交付金を活用して冷凍冷蔵施設についてリースで導入するなど実証実験をしていきたい。

(6) その他

### 3. 閉会

(事務局)

- ・次は 1 月を目途に開催したい。

以上

## (2) 第2回実務担当者会議

### 1) 観光推進戦略作業部会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第2回観光実務担当者会議（観光推進戦略作業部会）
日時	令和5年2月3日（金） 13:30～15:00
場所	宮古島市役所 2階大ホール
出席者	別紙、観光推進戦略作業部会配席図参照
資料	議事次第、配席図（名簿） 資料1：令和4年度観光実績 資料2：宿泊税の導入について 資料3：DMOの活動について

#### 1. 開会

#### 2. 議事

##### 1) 宮古島市観光の状況について

（事務局）

- ・資料1に沿って説明。

（委員）

- ・令和4年度の入域観光客数について、県では混在率を使用しているが、コロナ前後で混在率の見直しはどうなっているのか。また8万3千人で過去最高とあったが、客室がこれ以上増える状況にあるのか、令和5、6年でまだ伸びると思われるが、このキャパシティを超えていく可能性があるのか。

（事務局）

- ・混在率に関しては、現状ではコロナ前のものを使っている。

（JTB 総研）

- ・二点目について、客室だけを見るとまだ受け入れる余地はある。ただ最近別の部会でも議論しているが、レンタカー、バス、タクシーも含めて人手不足の問題がある。8万3千人がどこまで伸びるかについては、他の要素も含めて検討する必要があると考えている。

##### 2) 宿泊税の導入について

（事務局/JTB 総研）

- ・資料2に沿って説明。

（委員）

- ・資料には5年後に200万人を目指すとあり、航空会社も増便を検討しているという情報が入ってきている。人口5万5千人の島に200万人が訪れるということで、バランスを考

えると、宿泊税は料金体制を段階的に分けてはどうか。例えばビジネスホテルは5,000円以上する。一方で、10万円以上の高額なホテルも多い。5万円以上は1,000円という議論もあるのではないか。また効率性を考えると、修学旅行以外の免除をなくして1万円未満から設定してはどうか。県が導入する方向性もあるため、宮古島で徴収された宿泊税が他の地域に使われることに対する議論もあるのではないか。ホテル側の納得感を出すために、できるだけ宮古島で使う仕組みができないか。

(事務局)

- ・金額の段階について、ホテルに話を聞くと負担が増えることは確実だと言っていた。その中でわかりやすくしてほしいという意見が多かった。何段階にするかはあるが、あまり複雑にならないようにしていきたい。高額なホテルからも同じ金額を徴収するかどうかについては、ホテル事業者も含めて今後議論していきたい。免税についても、県の制度とかけ離れることなく検討していきたい。

(委員長)

- ・総務省では県と市の関係を重視している。福岡市では県との間で配分について相当問題が起きたようだ。免税についても、県と歩調を合わせていく必要がある。

(委員)

- ・宿泊税は当然事業者負担が来る。継続した税収を得たいという行政の考えはあるが、事業者には何らかの還元がされていることを見せるべきではないか。それをなしに動くとも反発がありハードルも高くなるだろう。観光地をさらに良くしていくというストーリーを作っていないと、皆納得しないのではないか。税収で環境整備をすることは市民にとっても良いことだ。それを伝えていく必要がある。

(委員長)

- ・使い道が一番重要だ。時間をかけて議論する必要があると考えている。

(委員)

- ・県は令和8年度の導入を目指している。宮古島が先にスタートして、「県が宿泊税を導入した際には、50%を県に納付する、県が導入するまでの期間は50%を基金として積み立てる」とあるが、この基金の目的はどのようなものか。

(委員長)

- ・県の動きは初めて聞くが、県とは進捗状況を報告しつつ何度か検討してきた。県の動向を注視していきたい。組み立てに関してはこの協議会で議論してきた。本来は税だけで行う場合、庁内検討委員会で議論できるが、宿泊税、入島税、入島協力金の三つで検討してきた。協力金は税ではないため協議会で議論してきた。宿泊税がベストであるとなったため、先月16日に庁内検討委員会を開き、協議会の議論内容を報告し、宿泊税で進めることに決定した。今後は庁内検討委員会で議論することとなる。県はまだ結論が出ていないようだ。

(委員)

- ・二点ほどお聞かせいただきたい。まず使途をしっかりと決めるべきだ。通常の流れは、どれくらい必要か試算してから徴収する。その説明ができないと現場で矢面に立たされる事業者は困るのではないか。試算は今後行うのか。二点目は取りこぼしがないようにしていくべきだ。他地域での仕組み、システムを把握しているのか。

(JTB 総研)

- ・システムは地域や宿泊施設によって違いがある。手計算で行っているところ、コンピューターでシステムそのものを変更して行っているところもある。単独施設ではそれほど費用は掛からない。全国チェーンのホテルでもいくつかの地域のために全国のシステムを丸ごと変えることは不合理のため、単独で簡単なシステム改修を行っている。事業者によって考え方も違うだろう。

(委員長)

- ・試算はさらに深掘りする必要があると考えている。使途はしっかり時間をかけて議論していきたい。

(委員)

- ・その他の欄に徴収方法の検討が必要とあったが、一棟貸しの施設はそれほど多くはない。家族連れで子どもが来た場合は一人で計算するのか。年齢で免除するのか。

(委員長)

- ・検討委員会で今後議論していく。他の先行地域の事例を参考にして、より良いものを選択していきたい。年齢制限も今後議論する。

(JTB 総研)

- ・他地域では、年齢よりも添い寝の場合は徴収しない、ベッドを使う場合は徴収するという例がある。これもホテル事業者の納得感、整合性を含めて検討するべきだと考えている。
- ・一棟貸しができている地域はニセコだけだ。コンドミニウムが圧倒的に多いため取り漏れが起こってしまうためだ。両方を網羅することは非常に難しい。どちらの比率が多いかによって変わってくるのではないか。現状では一人当たりで徴収する方法がハレーションは起きないと考えられる。

(委員)

- ・クルーズ船について、宿泊税という名前であれば徴収できない。95 万人が目標値として挙げられているが、乗船客すべてが降りてくるわけではない。入ってくる人から直接徴収することは難しい。クルーズ船会社や旅行会社と交渉することになると思われるが、具体的なシミュレーションをどう考えているのか。海路と空路の使途をどう整備し説明するのか。

(JTB 総研)

- ・クルーズ船は人数でのカウントは現実的ではない。船から取るという方法がある。ただ福岡も金沢も徴収していない。係船料から取るという考え方もあるが、福岡市では岸壁



が福岡市のもので市に入るが、一般会計に入り込んで特定の用途には使われていないようだ。特定の目的での徴収はできていない。クルーズ船は徴収対象としては難しいのではないか。

- ・クルーズ船客はその日の気分で降りないこともある。飛行機は必ず降りる。外国人客は小銭を持っていないだろう。他地域でも最初から議論に入っていないようだ。ただ宮古島では結構な人数となるため、環境に対しても何らかの形で議論するべきだが、宿泊税と一緒にすると議論が進まない。今後も調査して検討していきたい。

(委員)

- ・事業者には負担が集中する。その負担をどうするか。全国旅行支援は現場が大変だった。良かれと思って作った制度が現場の負担になる。ヒアリングを12か所回ったとのことだが、今後パブコメもあるが、本音を言える形の会があると良い。県外の企業と地元の事業者では導入の負担が違う。わからないまま制度が決まっても、結局事業者の負担で税を納入することにもなりかねない。手数料も検討してはどうか。パブコメは宿泊事業者も集めて本音が言える場にしていただきたい。

(事務局)

- ・事業者への負担があるため、納得いく形で進めていきたい。確かに12事業者では少ない。今後は意見交換会で議論していきたいと考えている。
- ・手数料については、200円の数%を事業者を支払うことを想定している。

(委員)

- ・財源の使用目的について、環境整備も当然出て来るが、二次交通の人手不足がある。宮古島には個人タクシーがない。人口10万人以下は許可されないと聞いたことがある。個人タクシーを増やしてはどうか。その働きかけを進めてはどうか。成り手には援助も検討してはどうか。

(委員長)

- ・民間事業者を集めて、5月の連休の二次交通の混雑解消について話し合いを始めている。今後も密に話し合い、問題を解決できるよう議論していきたい。

(委員)

- ・競争することでサービスの向上にもつながるのではないか。

### 3) DMOの中間報告について

(事務局)

- ・資料に沿って説明。

(委員)

- ・量から質へということも言われている。質とはまず富裕層だが、一方で宮古島を好きになって何度も来る客、目的を持って来る客も良質な客だ。二つの質がある。富裕層だけではなくそういった人たちも大事にするべきだ。

4) その他

3. 閉会

以上

## 2) 受入環境整備作業部会

業務	宮古島市観光マネジメント業務 第2回観光実務担当者会議（受入環境整備作業部会）
日時	令和5年2月3日（金） 15:30～16:45
場所	宮古島市役所 3階 全員協議会室
出席者	別紙、受入環境整備作業部会配席図参照
資料	議事次第、名簿（配席図） 資料1：令和4年度上半期 観光実績 資料2：伊良部公園の活用について 資料3：宮古島市における交通インフラの状況

### 1. 開会

（事務局）

- ・配布資料の確認。

### 2. 議事

#### 1) 観光実績について

（事務局）

- ・資料1に沿って説明。

（委員）

- ・空路観光客の観光収入が伸びている理由は何か考えられるのか。

（事務局）

- ・LCC利用の単価の安い客が減ったため、全体の単価が上がっていると見ている。

（委員長）

- ・令和元年度に比べて令和4年度は相当増えた。下から4行目に1人当たりの市内消費額があるが、単価が1万6千円ほど上がっている。それも一つの要因ではないか。沖縄県の調査をもとに算定している。

（委員）

- ・令和4年度の海路観光客とは何か。

（事務局）

- ・昨年6月に来た国内クルーズのパシフィックビーナスの乗員、乗客数だ。

（委員）

- ・海路観光消費額は外国人の実態調査に基づいている。

（事務局）

- ・今まで国際クルーズも国内クルーズもこの値を参考に出している。今回も同様にした。

#### 2) 牧山公園整備について

（事務局）

・資料に沿って説明。

(委員長)

・その他の意見として、今の展望台の形状を残すことができないか、文化財ではないのかという話もあった。サウンディングが終わった後、良いコンテンツがあれば次年度に採用していきたい。見た目は頑丈そうに見えるが、上部はコンクリートがはがれており、危ない場所もある。市としては、改修しても問題ないのか調査する。持つのであれば改修し、難しければ解体して新しい展望台を作ることを検討している。

(委員)

・契約の仕方にもよるが、民間主導では市が意見を言えなくなるのではないか。遊歩道に蛍がいるため、観光客がよく行く。建物を改修し屋上で見られるようにし、昼夜呼べるようにしてはどうか。

(委員長)

・公共施設は維持管理費がかかる。収益性も大事だが公益性も重要だ。地元の人が楽しめる施設も必要だ。様々な提言を受けて検討していきたい。

(委員)

・二点ある。今回 3 社の選定方法と、サウンディング方法について、また単一工事なのか、それともミックスした事業のコーディネーター役で進めていく余地があるのか伺いたい。

(事務局)

・市の HP で募集をかけて見学会には 5 社が来た。そのうち 3 社に決定した。今回の提案を受けてコンセプト、事業を検討していく。

(JTB 総研)

・個別サウンディングは 3 社からいただき、方向性を絞り込みさらに深めていく。個別に会話し計画を進める。そこに協議会や作業部会の意見を含めて、理想的な施設にしていくための個別サウンディングだ。もう一点、先進地域の意見として、福井県美浜町のレインボーラインの社長に来ていただき、景観を生かした施設について意見をいただき、市の担当者と今後の方向性の参考とする予定だ。

(委員)

・市としてこういった形での整備を行うのか、根拠をしっかりと進めていただきたい。

(事務局)

・民間を活用することも大事だ。PFI の手法を検討しつつ考えていきたい。

・都市公園内にスタバがありにぎやかになっているところがある。牧山公園はポテンシャルを活かしきれず、施設が老朽化し、財政の問題もある。この風景の価値を高め、収入を高めて良いものにしていきたい。今年初めに地域での意見交換会を行った。活用には賛成だが、方向性が固まったら再度意見を聞いてほしいということになっていた。しっかりと意見を聞いて進めていきたい。

(委員)

- ・開発に規制がかかったらどうするのか。

(事務局)

- ・普通と聞いている。大規模な開発はやめてほしいとの意見もあるため、大幅に変わることは考えられない。大幅な伐開は予定していない、自然を活かした開発を行う。
- ・駐車場の狭さが問題となっている。他にできないかという意見もある。交渉の余地がある。財政課とも協議させていただきたい。

### 3) 宮古島市における交通インフラの状況について

(JTB 総研)

- ・資料に沿って説明。

(委員長)

- ・調査資料の補足があれば意見を伺いたい。

(委員)

- ・7名の乗務員が増えた。3月から空港のサイネージ、宮古テレビやラジオで乗務員の採用も含めてコマーシャルを打っている。タクシーは定年退職者が入りやすく若い人はあまり来ないが、最近では40代も多い。新規の会社も増えている。徐々に増えていくのではないかと。タクシー協会に聞いた方が全体の詳細が分かるのではないかと。先日東京で会議があった。都市圏でレンタカーが使われないのではなく免許を持っている人が減っているとのことだった。若者で4割だ。今後も免許を持たない者が増えていく。

(委員)

- ・全国旅行支援で40%割引の時は、10月には観光客が非常に増えた。1月10日から20%になった。旅行に来たい人が時期をずらしている。来たいという意欲をどう持たせるか。この時期は農閑期だ。タクシーとバスは繁閑期が逆転する。今は、団体客が来るようになっているが、思うほど来ていない。クルーズ前と比較して、客は戻ってきているというのが交通業界の意見である。クルーズに大きな期待は持っていない。クルーズはなかなか実現しない。客を呼べる体制ができているのか。駐車場も問題だ。バスが詰まり身動きが取れなくなる。是非この機会に駐車場を確保できないか。駐車場が確保できないとバスもタクシーも動きにくい。利用しやすい駐車場作りをしていただきたい。

(委員長)

- ・資料にもあるが、宮古島市の業種は全体的に人手不足だ。どれくらい人手不足を感じているのか伺いたい。

(委員)

- ・コロナ禍でやめたタクシードライバーも戻ってきているケースもあり、稼働率も徐々に上がってきて台数も増やした。高齢者が多い。以前は通常7~8割の稼働だったが、5割の会社もある。一概には言えない。220台から現在180台まで減ったが、また上がってきている。島外からの問い合わせもある。増えていくのではないかと。

(委員)

- ・宮古全体で把握していないが、クルーズに合わせてドライバーを増やしたので、台数よりも人数が多いという逆転現象も起きた。すべての台数を全部出すことはない。9割くらいで、あとは予備で持っている。ドライバーの人数は揃っている。

(委員長)

- ・稼働率について、宮古全体には200台近くあるが、7割の稼働率で150台が稼働しているのか。

(委員)

- ・大まかに言えばそうだ。1日動く場合、昼だけ、夜だけ動く場合もある。すべてが昼勤務で終わると夜が足りなくなる。

(委員長)

- ・5月の連休を心配している。すでに対策会議を行った。その議論でも人手不足がネックとなっていた。本日出したデータでも人手不足は解消していない。一緒に解消していきたい。

(委員)

- ・この部会で、受入キャパシティについての調査を、今年度続きをするということだったが、本日の議題には入っていなかった。市民の関心も高い領域である。地下水の使用可能量と観光客の受け入れは大丈夫なのかという意見がよく寄せられる。何らかの答えを出すべきではないか。来年度より具体的な話し合いができればと考えている。

(委員長)

- ・2年前に議論したが、当時と今では状況が違う。担当課と密に連携し検討していきたい。

(委員)

- ・島の地下水を使って差し支えない量と島の受け入れられる規模がどれくらいか。

(委員長)

- ・200万人来た際の推計を出して、2、3年前に問題ないという結論を出した。これについても検討したい。

(委員)

- ・目標の200万人の中で90万人がクルーズ船客ということだった。クルーズ客が年間90万人来るときついという意見が大勢だが、一方で空路客はホテルのキャパも1.5倍くらいに増えている。宿泊客が増えても大丈夫なのかということが知りたい。

(委員長)

- ・空路、海路の内訳も議論し、稼働率も含めてどれくらいの伸びがあるのかも含めて、もう少し議論が必要だ。

(JTB 総研)

- ・水道局に聞いたが、地下水のため降水量や気象状況によって大きく変わるため年間いく

らかと言いつらいとのことだった。一人当たりの使用量も計算したが、一般市民は平均が出せるが、観光客はプールがあれば相当使う。かなり様々なファクターがあり計算がしづらい。できるだけ可能な線は見つける必要がある。時間をかけて検討させていただきたい。

(委員)

- ・ 昨年の報告書でも年間の供給量で計算していた。どちらかというとも夏場の需要期を乗り越えられるのかということが観光業者としては不安だ。しっかり乗り越えられるラインなのかがかなり気になる。ぜひ検討していただきたい。

(委員長)

- ・ いただいた意見は推進協議会に挙げて議論したい。

### 3. 閉会

以上

### 3)地域経済振興作業部会

書面開催における議事への意見集約シート

(第2回宮古島市観光実務担当者会議／地域経済振興作業部会)

#### 議事1) 観光実績について・・・資料1参照

令和4年度の観光実績について12月末時点の情報をまとめております。

過年度の部分について、令和3年度の観光消費額が更新されましたので、併せて観光収入等も更新しております。令和3年度の空路観光客の消費単価が過去最高の額となっております。

入域観光客数については、回復傾向にあるものの、コロナ禍前までは回復していない状況となっております。ただし、空路観光客のみで比較(P3)すると、入域観光客数が多かった平成29、30、令和元年度と同水準で推移しており、かなり回復しております。

ただし、次年度以降については、今後の海外旅行の需要増加、全国旅行支援終了後の影響等動向を注視する必要があると考えております。

Q1.観光実績に関するご意見をお答えください。

- 観光バスの団体客はまだ伸びていませんが、少人数(4人～5人)での観光客が以前より増えたように感じています。

#### 議事2) 地域経済循環システムの構築について・・・資料2参照

前回の実務担当者会議のまとめ、地産地消推進に向けた宮古島商工会議所のぷからす商談会の実績等について記載しております。

Q1.感想やご意見がありましたら、お答えください。

- 宮古ぜんまい・オオタニワタリの件で意見を述べました。その後、市の担当者や市の職員にお話しさせて頂きましたが、「そもそも、宮古島の土地のものを販売し、利益を得ることが違反である。そこまで需要が有るのであれば、自身で栽培したらどうか。」という返答がありました。ごもっともな返答ではありますが、栽培となると難しく時間もかかります。現在、島内外から注文等もあり、この需要に応えるためにも早々の検討、対応が必要なのではと思います。

以上





令和4年度  
宮古島市観光マネジメント業務報告書

令和5年3月

発行：宮古島市 観光商工部 観光商工課  
〒906-8501 沖縄県宮古島市平良字西里 1140 番地  
TEL 0980-72-3751